

○市町村吏員忌服旅行ニ關スル規程（昭和二年二月）
（縣訓令第五號）

一六八

市町村吏員忌服及旅行ニ關スル規程左ノ通定ム
大正元年十二月埼玉縣訓令第十三號ハ之ヲ廢止ス

市町村吏員忌服旅行ニ關スル規程

- 第一條 市町村長忌服ニ丁リタルトキハ其ノ續柄及除服希望ノ日限ヲ記載シ直ニ之ヲ知事ニ届出ツヘシ
市町村長ノ除服ハ知事之ヲ達ス
- 第二條 市町村長公務又ハ私事ノ爲引續キ七日間以上旅行ヲ爲サントスルトキハ其ノ發着豫定期日旅行先及事由ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ但法令ノ規定又ハ監督官廳ノ命ニ依ル場合ハ此ノ限ニ非ラス
- 第三條 前各條ノ規定ハ市町村長故障アル場合ニ在リテハ其ノ代理者ニ之ヲ準用ス
- 第四條 市町村長以外ノ市町村吏員ノ忌服旅行ニ關シテハ市町村長ニ於テ必要ト認ムル範圍ニ於テ監督方法ヲ定ムヘシ

○市制町村制施行令

- 第三十三條 市町村吏員其ノ管掌ニ屬スル現金、證券其ノ他ノ財産ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ市町村ハ期間ヲ指定シ其ノ損害ヲ賠償セシムヘシ但シ避クヘカラサル事故ニ原因シタルトキ又ハ他ノ者ノ使用ニ供シタル場合ニ於テ合規ノ監督ヲ怠ラザリシトキハ市町村ハ其ノ賠償ノ責任ヲ免除スヘシ
- 第三十四條 收入役、副收入役若ハ收入役代理者又ハ收入役ノ事務ヲ兼掌スル町村長若ハ助役市制第三百二十九條第二項又ハ町村制第一百九條第二項ノ規定ニ違反シテ支出ヲ爲シタルトキハ市町村ハ期間ヲ指定シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償セシムヘシ區收入役、區副收入役又ハ區收入役代理者ニ付亦同シ

第三十五條 市町村吏員其ノ執務上必要ナル物品ノ交付ヲ受ケ故意又ハ怠慢ニ因リ之ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ市町村ハ期間ヲ指定シ其ノ損害ヲ賠償セシムヘシ

第三十六條 前三條ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市町村ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
府縣參事會訴願ヲ受理シタルトキハ其ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ裁決スヘシ
市制第六十條第一項乃至第三項又ハ町村制第四百十條第一項乃至第三項ノ規定ハ第一項及第二項ノ訴願及訴訟ニ之ヲ準用ス

第三十七條 賠償金ノ徵收ニ關シテハ市制第三百一十一條又ハ町村制第一百十一條ノ例ニ依ル

第三十八條 市町村吏員ニ對シ身元保證ヲ徵スルノ必要アリト認ムルトキハ市町村ハ其ノ種類、價格、程度其ノ他必要ナル事項ヲ定ムヘシ

第三十九條 本章中市町村ニ關スル規定ハ市制第六條ノ市ノ區及市制第四百四十四條ノ市ノ一部及町村制第二百二十四條ノ町村ノ一部ニ之ヲ準用ス

○收入役身元保證規程

何町村收入役身元保證規程

- 第一條 本町村ハ本規程ノ定ムル所ニ依リ收入役ヨリ身元保證ヲ徵ス
- 第二條 身元保證ハ現金何圓以上又ハ之ニ相當スル土地若ハ有價證券ヲ提供スヘシ但シ有價證券ハ國債證券、地方債證券、何銀行債券（株券）ニ限ル
- 前項土地又ハ有價證券ノ價格ハ町村長ニ於テ相當ト認メタル時價ニ依ル土地又ハ有價證券ノ價格下リタル

爲前項ノ額ニ達セサルトキハ更ニ追徴ス

第三條 現金ハ郵便貯金又ハ確實ナル銀行ニ預入レ有價證券ハ郵便官署又ハ確實ナル銀行ニ保管預入ヲ爲シ土地ハ抵當權設定登記ヲ爲スモノトス

第四條 身元保證ハ前條ニ依ル保證ニ代フルニ直接國稅年額何圓以上ヲ納ムル者二人以上ノ連帶保證ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五條 現金及有價證券ノ保管中生スル收入ハ身元保證解除ト同時ニ之ヲ本人ニ交付ス

第六條 身元保證ハ就職ノ日ヨリ何日以内ニ之ヲ提供スヘシ

第七條 身元保證ハ退職事務引繼後何日ヲ經過スルニアラサレハ之ヲ解除セス但シ町村長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ仍之ヲ留保スルコトヲ得

附 則

本規程ハ告示ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○市制町村制施行規則

第二十三條 市町村長更迭ノ場合ニ於テハ前任者ハ退職ノ日ヨリ十日以内ニ其ノ擔任スル事務ヲ後任者ニ引繼クヘシ、後任者ニ引繼クコトヲ得サル事情アルトキハ之ヲ助役ニ引繼クヘシ、此ノ場合ニ於テハ助役ハ後任者ニ引繼クコトヲ得ルニ至リタルトキハ直ニ後任者ニ引繼クヘシ

前項引繼ノ場合ニ於テハ書類帳簿及財産ノ目錄ヲ調製シ處分未濟若ハ未著手又ハ將來企畫スヘキ見込ノ事項ニ付テハ其ノ順序方法及意見ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十四條 助役退職ノ場合ニ於テ其ノ分掌事務アルトキハ之ヲ市町村長ニ引繼クヘシ前條ノ規定ハ前項ノ事務引繼ニ之ヲ準用ス

第二十五條 收入役更迭ノ場合ニ於テハ前任者ハ退職ノ日ヨリ十日以内ニ其ノ擔任スル事務ヲ後任者ニ引繼クヘシ、後任者ニ引繼クコトヲ得サル事情アルトキハ之ヲ副收入役又ハ收入役代理者ニ引繼クヘシ、此ノ場合ニ於テハ副收入役又ハ收入役代理者ハ後任者ニ引繼クコトヲ得ルニ至リタルトキハ直ニ之ヲ後任者ニ引繼クヘシ

前項引繼ノ場合ニ於テハ現金書類帳簿其ノ他ノ物件ニ付テハ各目錄ヲ調製シ仍現金ニ付テハ各帳簿ニ對照シタル明細書ヲ添附シ帳簿ニ付テハ事務引繼ノ日ニ於テ最終記帳ノ次ニ合計高及年月日ヲ記入シ且引繼ヲ爲ス者及引繼ヲ受クル者之ニ連署スヘシ

第二十六條 副收入役退職ノ場合ニ於テ其ノ分掌事務アルトキハ之ヲ收入役ニ引繼クヘシ前條ノ規定ハ前項ノ事務引繼ニ之ヲ準用ス

第二十七條 第二十三條第二項、第二十四條第二項、第二十五條第二項及前條第二項ノ規定ニ依リ調製スヘキ書類帳簿及財産ノ目錄ハ現ニ設備セル目錄又ハ臺帳ニ依リテ引繼ヲ爲ストキノ現在ヲ確認シ得ル場合ニ於テハ之ヲ以テ充用スルコトヲ得、此ノ場合ニ於テハ其ノ旨引繼書ニ記載スヘシ

第二十八條 第二十三條又ハ第二十五條乃至前條ノ規定ハ市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ノ區長若ハ區收入役ノ更迭又ハ分掌事務アル區副收入役ノ退職ノ場合ニ、第二十四條及前條ノ規定ハ分掌事務アル町村區長ノ退職ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條 市町村ノ廢置分合ニ依リ新ニ市町村ヲ置キタル場合ニ於テハ前市町村ノ吏員ノ擔任スル事務ハ之ヲ市町村長、收入役又ハ市町村長ノ臨時代理者若ハ職務管掌ノ官吏ニ引繼クヘシ、市町村ノ境界變更アリタルトキ亦同シ

第二十三條乃至第二十七條ノ規定ハ前項ノ事務引繼ニ之ヲ準用ス

第三十條 第二十三條乃至前條ノ場合ニ於テ所定ノ期間内ニ引繼ヲ了スルコトヲ得サルトキハ其ノ事由ヲ具

シ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三十一條 第二十三條乃至第二十九條ノ場合ニ於テ引繼ヲ拒ミタル者ニ對シテハ府縣知事ハ二十五圓以下ノ過料ヲ科スルコトヲ得、其ノ故ナク引繼ヲ遷延シタルカ爲市町村長ニ於テ期日ヲ指定シテ催告ヲ爲シ仍之ニ應セサル者ニ付亦同シ

第三十二條 第二十三條乃至前條ニ規定スルモノノ外市町村吏員ノ事務引繼ニ關シ必要ナル事項ハ府縣知事之ヲ定ム

○市町村吏員事務引繼ニ關スル細則

(明治四十四年十一月)改(大正元年十二月縣令第九號) 縣令第六十六號 正(十一年十二月同第六十六號)

市町村吏員事務引繼ニ關スル細則左ノ通定ム

市町村吏員事務引繼ニ關スル細則

第一條 市町村長更迭ノ場合ニ於テハ引繼實行ノ期日ヲ定メ豫メ第一次監督官廳ニ報告スヘシ

第二條 明治四十四年九月內務省令第十七號第一條第二項(改正市制町村制施行規則第二十三條第二項)ノ書類、帳簿目錄ハ第一號様式ニ依リ財産目錄ハ第二號様式ニ依リ調製スヘシ

現ニ設備セル目錄又ハ臺帳ニ依リテ引繼ヲ爲ストキノ現在ヲ確認シ得ル場合ニ於テハ之ヲ以テ引繼ニ充用シ其ノ旨ヲ引繼書ニ記載スヘシ

第三條 退職ノ日ヨリ十日以内ニ引繼ヲ了スルコト能ハサル爲第一次監督官廳ノ許可ヲ受ケントスルトキハ其事由ヲ具シ延期ノ期限ヲ定メ前任者後任者連署シテ稟請スヘシ

第四條 市町村長ノ事務ヲ引受クル者ニ於テ引繼ヲ受クヘカラスト認ムル事項アルトキハ其事由ヲ具シ速ニ第一次監督官廳ノ指揮ヲ請フヘシ

第五條 前四條ノ規定ハ市町村長闕員ノ場合ニ於ケル助役及分掌事務アル助役ノ引繼ニ之ヲ準用ス

第六條 市町村長又ハ市町村長闕員ノ場合ニ於ケル助役死亡其他ノ事故ニ因リ引繼ヲ爲スコト能ハサルトキハ市町村吏員二名以上立會ノ上第二條ノ例ニ依リ目錄ヲ調製シ助役若ハ後任者ニ於テ受繼クヘシ

前項ノ場合ニ於テ立會フヘキ市町村吏員二名以上アラサルトキハ第一次監督官廳ニ具狀シ其指揮ヲ受クヘシ

第七條 收入役更迭ノ場合ニ於テハ引繼實行ノ期日ヲ定メ市町村長ヨリ第一次監督官廳ニ報告スヘシ

第八條 明治四十四年九月內務省令第十七號第三條第二項(改正市制町村制施行規則第二十五條第二項)ノ書類、帳簿目錄ハ第一號様式ニ準シ現金目錄ハ第三號様式ニ依リ明細書ハ第四號様式ニ依リ調製スヘシ

現ニ設備セル目錄又ハ臺帳ニ依リテ引繼ヲ爲ストキノ現在ヲ確認シ得ル場合ニ於テハ第二條第二項ノ例ニ依ルヘシ

第九條 收入役更迭ノ場合ニ後任者ニ於テ引繼ヲ受ケ難キ事項アルトキ〔又ハ前任者退職ノ日ヨリ十日以内ニ引繼ヲ了スルコト能ハサルトキ〕ハ市町村長ニ申出其指揮ヲ受クヘシ

〔前項ノ場合ニ於テハ市町村長ヨリ其事由ヲ具シ直ニ第一次監督官廳ヘ報告スヘシ〕

第十條 前三條ノ規定ハ收入役闕員ノ場合ニ於ケル副收入役若ハ收入役代理者分掌事務アル副收入役ノ引繼ニ之ヲ準用ス

第十一條 收入役死亡其他ノ事故ニ因リ引繼ヲ爲スコト能ハサルトキハ副收入役又ハ收入役代理者ニ於テ第八條ノ例ニ依リ目錄及明細書ヲ調製シ市町村長ノ檢閲ヲ得テ之ヲ受繼クヘシ

第十二條 收入役闕員ノ場合ニ於ケル副收入役又ハ收入役代理者死亡其他ノ事故ニ因リ引繼ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ假ニ市町村長若ハ市町村長ノ指定シタル吏員ニ於テ金櫃及書類、帳簿ヲ保管シ後繼者定マルヲ俟テ引繼ヲ爲スヘシ

第七條第八條第九條ノ規定ハ前項ノ引繼ニ之ヲ準用ス

第十三條 引繼結了シタルトキハ市町村長ヨリ直ニ第一次監督官廳ニ報告スヘシ

第十四條 第一條乃至第四條及第七條乃至第九條並前條ノ規定ハ市町村ノ廢置分合ニ因リ新ニ市町村ヲ置キタル場合ニ之ヲ準用ス市町村ノ境界變更アリタルトキ亦同シ

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(第一號様式ノ一)

帳簿及書類目録

- 一、市町(村)吏員名簿 何 冊
- 一、市町(村)會議員名簿 何 冊
- 一、神社明細帳副本 何 冊
- 一、寺院明細帳副本 何 冊
- 一、在郷軍人名簿 何 冊
- 一、明治何年度動員關係簿冊 何 冊
- 一、官有地臺帳 何 冊
- 一、肥料製造及販賣人臺帳 何 冊
- 一、學 齡 簿 何 冊
- 一、土地 臺 帳 何 冊
- 一、地 租 名 寄 帳 何 冊
- 一、縣稅納稅者臺帳 何 冊

- 一、明治何年度國稅金收納簿 何 冊
- 一、明治何年度縣稅定期徵收簿 何 冊
- 一、明治何年度町(村)稅徵收簿 何 冊
- 一、基本財產臺帳 何 冊
- 一、學校基本財產臺帳 何 冊
- 一、何 々 何 冊
- 一、何 々 何 冊

右ノ通引繼ヲ了シ候也

年 月 日

前 任 職 氏 名
後 任 職 氏 名

備考 帳簿、書類ノ數多キ市町村ニアリテハ帳簿ト書類ト各別ニ目録ヲ調製スルモ妨ケナシ
(第一號様式ノ二) 證書類目録

- 一、基本財產土地取得權利證書 何 通
- 一、同田畑小作證書 何 通
- 一、同家屋賃貸證書 何 通
- 一、何郡何村何某ト締結シタル造林地盤ニ對スル地上權設定契約證書 何 通

一、何々々々通引繼了シ候也
 右ノ通引繼了シ候也
 年 月 日

(第二號様式)

財産目録

基本財産ノ部

土地

地目	反別又ハ坪數	筆數	地目	反別又ハ坪數	筆數
田	何	何	田	何	何
畑	何	何	畑	何	何
合計	何	何	合計	何	何

家屋

構造	坪數	所在	地目	使用目的
木造瓦葺二階建	何	大字何々字何々番地	住	家の
合計	何	何	何	何

有價證券

種類	額	面金額	證券枚數
帝國四分利公債證書	何	何	何
第何回勸業債券	何	何	何
合計	何	何	何

現金

一金何
 内 程
 譯
 金何 程
 金何 程
 右ノ通引繼了シ候也
 年 月 日

郵便貯金
 何々

前任 後任
 職任 職任
 氏 氏
 名 名

(備考)

學校基本財産、罹災救助資金等ハ基本財産ノ例ニ依リ列記シ基本財産以外ノ財産ハ土地、家屋、有價證

券其他ニ區別シ列記スヘシ

(第三號様式)

現金目錄

- 一金何程
- 一金何程
- 一金何程
- 一金何程
- 合計金何程

右ノ通引繼ヲ了シ候也
年 月 日

國稅徵收金現在高
縣稅徵收金現在高
市町(村)經濟收支差引現在高
何々現在高

前 任

職 氏

名

後 任

職 氏

名

(備考)

金庫ヲ置キタル市町村ニアリテハ適宜現金ノ所在ハ金庫ナル旨ヲ附記スヘシ
(第四號様式)

現金在高明細書

國 稅

計	何々何々	地租	稅目	期別	調定額	徵收濟額	納付濟額	現在額
					円	円	円	円

縣 稅

計	何々何々	地租附加稅	稅目	期別	調定額	徵收濟額	納付濟額	現在額
					円	円	円	円

市町(村)經濟

歲 入

計	何々何々	地租附加稅	科 目	豫算額	收入濟額	豫算額ト收入濟額トノ差
				円	円	円

歲 出

第四章 町村吏員 第二款 服務

科 目	豫 算 額	支 拂 濟 額	豫算額ト支拂濟額トノ差
役 場 費			
何 々			
計			

歳入歳出差引殘金何 程
右ノ通引繼ヲ了シ候也

現在高

年 月 日

前 任

後 任

職 氏

職 氏

名

名

(備考)

國稅、縣稅ハ其徵收及納付完了セサルモノノミナ掲クヘシ
市町村經濟ニ屬スルモノハ決算未済ノ年度ヲ掲ケニケ年度分アルトキハ年度毎ニ掲記スヘシ
市町村組合費、町村組合費、水利組合費等ハ町村經濟又ハ國、縣稅ノ例ニ準シ掲記スヘシ

○町村吏員ノ損害賠償ニ關スル議案

議案第 號

亡失ニ係ル基本財産現金(收入役保管現金)賠償ノ件

(前)本町村長(收入役)何某ハ(在職中)其ノ管掌ニ係ル何基本財産現金(村費、縣稅徵收金、何々)何程(中)何程ヲ何年何月何日竊取セラレ(亡失シ)タリ

右ハ避クヘカラサル事故ニ原因シタルモノト認ムル能ハサルニ依リ左記命令書通り其ノ損害ヲ賠償セシムルモノトス

年 月 日提出

何町村長 氏 名

記

命 令 書

(前)町村長(收入役) 氏 名

一金何 程 但シ何基本財産現金中亡失セシ金額(歲計現金及何々中亡失セシ金額)

右亡失シタル現金ハ昭和何年何月何日限本町村ニ對シ賠償スヘシ

年 月 日

何町村長 氏 名

(備考)

前例ノ議決ヲ經タル上ハ命令書ニ納付書ヲ添ヘ本人ニ交付スルコト

○賠償責任ノ免除ニ關スル議案

議案第 號

(前)本町村長(收入役)管掌ニ係ル何基本財産現金(歲計現金)ハ財産管理規程ノ定ムル所ニ依リ(何年何月何)日本町村會ノ議決ヲ經知事ノ許可ヲ受ケタル)株式會社何々銀行ニ預入シ(セシメ)置キタリ然ルニ(前)町村長(收入役)ハ同銀行ノ業態不良ナルヲ知リ何月何日預金全部ノ下戻シヲ請求スヘク右銀行ニ至リタル處既ニ營業時間ヲ過キタルヲ以テ其ノ翌日又出頭シタルニ其ノ日ヨリ向フ一週間ノ休業ト爲リタリ其ノ後引續キ休業ノ儘破産シ其ノ結果同行ニ預入セル何基本財産現金(收入役ノ有スル債權額)金何程ノ何分ノ何ヲ配當セラレ結局何程ノ回收不能ト決定シタリ然レトモ右(前)町村長(收入役)ノ銀行ニ對スル措置ハ該現金ヲ他ノ

者ノ使用ニ供シタル場合ニ於テ合規ノ監督ヲ怠ラサルモノト認メラルルニ依リ本町村ハ其ノ賠償ノ責任ヲ免除スルモノトス

年 月 日提出

何町村長 氏 名

(備考)

議決ヲ經タル上ハ本人ニ責任免除ノ通知ヲ發スルコト

第三款 職務權限

○町村制

第七十二條 町村長ハ町村ヲ統轄シ町村ヲ代表ス

町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 町村會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スル事
- 二 財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者ヲ置キタルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事
- 三 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事
- 四 證書及公文書類ヲ保管スル事
- 五 法令又ハ町村會ノ議決ニ依リ使用料、手数料、加入金、町村税又ハ夫役現品ヲ賦課徵收スル事
- 六 其ノ他法令ニ依リ町村長ノ職權ニ屬スル事項

第七十三條 町村長ハ町村吏員ヲ指揮監督シ之ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責及五圓以下ノ過怠金トス

第七十四條 町村會ノ議決又ハ選舉其ノ權限ヲ超エ又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ町村長ハ其

ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ又ハ再選舉ヲ行ハシムヘシ但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ町村長ハ議決ニ付テハ之ヲ再議ニ付セスシテ直ニ府縣參事會ノ裁決ヲ請フコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ爲シタル町村會ノ議決仍其ノ權限ヲ超エ又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ町村長ハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フヘシ

監督官廳ハ前二項ノ議決又ハ選舉ヲ取消スコトヲ得

第一項若ハ第二項ノ裁決又ハ前項ノ處分ニ不服アル町村長又ハ町村會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項又ハ第二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第七十四條ノ二 町村會ノ議決明ニ公益ヲ害スト認ムルトキハ町村長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スヘシ但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ町村長ハ之ヲ再議ニ付セスシテ直ニ府縣知事ノ指揮ヲ請フコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ爲シタル町村會ノ議決仍明ニ公益ヲ害スト認ムルトキハ町村長ハ府縣知事ノ指揮ヲ請フヘシ

町村會ノ議決收支ニ關シ執行スルコト能ハサルモノアリト認ムルトキハ前二項ノ例ニ依ル左ニ掲クル費用ヲ削除シ又ハ減額シタル場合ニ於テ其ノ費用及之ニ伴フ收入ニ付亦同シ

- 一 法令ニ依リ負擔スル費用、當該官廳ノ職權ニ依リ命スル費用其ノ他ノ町村ノ義務ニ屬スル費用
- 二 非常ノ災害ニ因ル應急又ハ復舊ノ施設ノ爲ニ要スル費用、傳染病豫防ノ爲ニ要スル費用其ノ他ノ緊急避クヘカラサル費用

前三項ノ規定ニ依ル府縣知事ノ處分ニ不服アル町村長又ハ町村會ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第七十五條 町村會成立セサルトキ又ハ第四十八條但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキハ町村

長ハ府縣知事ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ町村會ノ議決スヘキ事件ヲ處置スルコトヲ得

町村會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

町村會ノ決定スヘキ事件ニ關シテハ前二項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル町村長ノ處置ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前三項ノ規定ニ依ル處置ニ付テハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ町村會ニ報告スヘシ

第七十六條 町村會ニ於テ議決又ハ決定スヘキ事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ町村會成立セサルトキ又ハ町村長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ町村長ハ之ヲ專決シ次回ノ會議ニ於テ之ヲ町村會ニ報告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ町村長ノ爲シタル處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第七十六條ノ二 町村會ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ハ其ノ議決ニ依リ町村長ニ於テ專決處分スルコトヲ得

第七十七條 町村長其ノ他町村吏員ハ從來法令又ハ將來法律勅令ノ定ムル所ニ依リ國府縣其ノ他公共團體ノ事務ヲ掌ル

前項ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ町村ノ負擔トス但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十八條 町村長ハ其ノ事務ノ一部ヲ助役又ハ區長ニ分掌セシムルコトヲ得但シ町村ノ事務ニ付テハ豫メ町村會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

町村長ハ町村吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第七十九條 助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス

助役ハ町村長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數人アルトキハ豫メ町村長ノ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

第八十條 收入役ハ町村ノ出納其ノ他ノ會計事務及第七十七條ノ事務ニ關スル國府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

町村會ハ町村長ノ推薦ニ依リ收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定ムヘシ但シ副收入役ヲ置キタル町村ハ此ノ限ニ在ラス

副收入役ハ收入役ノ事務ヲ補助シ收入役故障アルトキ之ヲ代理ス

町村長ハ收入役ノ事務ノ一部ヲ副收入役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ町村ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付テハ豫メ町村會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第八十一條 區長ハ町村長ノ命ヲ承ケ町村長ノ事務ニシテ區内ニ關スルモノヲ補助ス

區長代理者ハ區長ノ事務ヲ補助シ區長故障アルトキ之ヲ代理ス

第八十二條 委員ハ町村長ノ指揮監督ヲ承ケ財產又ハ營造物ヲ管理シ其ノ他委托ヲ受ケタル町村ノ事務ヲ調査シ又ハ之ヲ處辨ス

第八十三條 第七十一條ノ吏員ハ町村長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

○會議事件ニ對スル町村長ノ職務權限ニ關スル書式及取扱要項

1 町村會ノ議決選舉ニ付再議又ハ再選舉命令書

第一 號

何町村會

何年何月何日其ノ會ノ議決(爲)シタル何々ノ件(何々選舉)ハ何々ニ(左記ノ理由)ニ依リ其ノ權限ヲ超エタル(何法第何條第何項ノ規定ニ背キタル)モノナリ仍テ町村制第七十四條第一項ニ基キ本職ノ意見(本縣知事ノ指揮)ニ依リ本件ヲ再議ニ付ス(再選舉ヲ命ス)

年 月 日

何町村長 氏

名 印

一、何々	一、何々	一、何々	一、何々	一、何々	一、何々	一、何々	一、何々	一、何々	一、何々
經常(臨時)部	經常(臨時)部	經常(臨時)部	經常(臨時)部	經常(臨時)部	經常(臨時)部	經常(臨時)部	經常(臨時)部	經常(臨時)部	經常(臨時)部
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
出	出	出	出	出	出	出	出	出	出
合	合	合	合	合	合	合	合	合	合
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳

(備考)

- 一、金額ハ總テ最初ノ發案ニ依リ記入スルコト
 - 二、歳入ハ歳出ノ修正ニ伴ヒ増減シタル款項目及歳入合計ヲ掲クルコト但シ歳出ノ再議ニ付スヘキ部分ト全然關係ナキ部分ハ之ヲ除クコト例ヘハ再議ニ付セサル歳出ノ土木費修正ニ伴ヒ歳入中ノ補助費ノ修正アリタル場合ノ如キ其ノ補助費ハ修正ニ伴ヒ増減シタルモ之ヲ再議ニ付スルノ必要ナキカ如シ
 - 三、歳出ハ不適當ト認めタル款項目及其ノ結果修正ヲ必要トスヘキ經常部又ハ臨時部及歳出合計ヲ掲クルコト
 - 四、歳入ノ議決前ニ歳出ノ或ル部分ニ付再議ヲ命スル場合ハ歳入ノ掲記ヲ要セス
 - 五、歳出中或ル部分ノ議決ヲ爲シタル即時ニ於テ再議ヲ命スル場合ハ合計ノ掲記ヲ要セス
 - 六、議決ノ即時ニ於テ再議命令ヲ爲サムトスルトキハ必スシモ書面ヲ以テセス口頭ヲ以テ爲スモ差支ナシ但シ此ノ場合ニ於テモ再議ヲ命スヘキ部分及其ノ理由ヲ明ニスルコトヲ要ス
- 2 町村會ノ議決ニ付縣參事會ニ提出スル裁決申請書要項
- 町村會ノ議決違法又ハ越權ト認め町村制第七十四條第二項ニ依リ町村長ヨリ縣參事會ノ裁決ヲ申請セムトスルトキハ左記事項ヲ相當取捨具備シタル申請書ヲ提出スルコト
- 一、議案及前後(二回分)議決書ノ謄本

- 二、前後會議録ノ寫
- 三、違法又ハ越權ト認ムル理由詳細
- 四、再議命令書寫但シ再議ニ付セサル場合ハ其ノ特別ノ事由
- 五、施行ヲ要スル事件ニ在リテハ其ノ豫定期日
- 六、其ノ他必要ト認ムル事項

3 町村會ノ議決ニ付知事ニ提出スル處分申請書要項

町村會ノ議決明カニ公益ヲ害シ又ハ收支ニ關シ執行スルコト能ハサルモノト認め町村制第七十四條ノ二第一項及第三項ニ依リ町村長ニ於テ知事ノ處分ヲ申請セムトスルトキハ(2)縣參事會ニ提出スル裁決申請要項ニ準シ申請書ヲ提出スルコト但シ具備スヘキ事項ニシテ既ニ知事ニ報告濟ノモノニ付テハ之ヲ省略シ差支ナシ

4 町村長ニ於テ町村會ノ議決又ハ決定スヘキ事件ヲ

處置スルニ付知事ニ指揮申請要項

町村會成立セサルトキ又ハ町村制第四十八條但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキ若ハ議決又ハ決定スヘキ事件ヲ議決又ハ決定セサルトキニ於テ町村會ノ議決又ハ決定スヘキ事件ヲ處置スルニ付町村制第七十五條第一項ニ依リ町村長ヨリ知事ニ指揮申請セムトスルトキハ左記事項ヲ相當取捨具備シタル申請書ヲ提出スルコト

- 一、申請ノ原因タル事實ノ具狀
- イ、町村會不成立ノ事實
- ロ、除斥ノ爲議員カ會議ヲ開ク數ニ滿タサルノ事實及除斥ノ事由
- ハ、招集再回ニ至ルモ應招議員カ會議ヲ開ク數ニ滿タサル事實
- ニ、出席ヲ催告セルモ出席議員會議ヲ開ク數ニ滿タサル事實但シ議事中斷ノ場合ニ在リテハ中斷迄ノ議

事ノ経過

- ホ、議決又ハ決定ヲ爲ササル事實及事由
- 二、發案書類
- 三、事件施行豫定期日
- 四、其ノ他必要ト認ムル事項

5 同上知事ノ指揮ニ依リ議決又ハ決定スヘキ事件處置要項

町村制第七十五條ニ依リ町村會ノ議決又ハ決定スヘキ事件ニ付知事ノ指揮ヲ受ケタルトキハ左記ニ依リ相當處置スルコト

- 一、議決スヘキ事件ニ在リテハ議決書ニ準シタル書面ヲ作製スルコト但シ其ノ書面ニハ町村制第七十五條第一項又ハ第二項ニ依リ處置シタルモノナルコトヲ表示シ町村長之ニ署名スルコト其ノ例左ノ如シ

何々ノ件.....

右町村制第七十五條第一項(第二項)ニ依リ處置ス

年 月 日

何町村長 氏

名 印

- 二、決定事件ニ在リテハ決定書中ニ町村制第七十五條第三項ノ規定ニ依リ決定スル旨ヲ記載シ町村長署名スルコト

- 三、公布ヲ要スルモノノ公布文ハ左例ニ依ルコト

町村制第七十五條第一項(第二項)ノ規定ニ依リ本縣知事ノ指揮ヲ受ケ何々ヲ左ノ通定ム

- 四、町村制第七十五條ニ依ル町村長ノ處置ハ町村會ノ議決又ハ決定ヲ經タル場合ト同様ニ報告又ハ告示等ノ手續ヲ要ス

五、町村制第七十五條第四項ノ規定ニ依ル報告書ハ左記ノ例ニ依ルコト

第 號

何 町 村 會

何々ノ件(左記事件)町村制第七十五條第一項(第二項)(第三項)ノ規定ニ依リ本縣知事ノ指揮ヲ受ケ別紙ノ通處置(決定)シタリ

右其ノ會ニ報告ス

年 月 日

何町村長 氏

名 印

(左 記)

- (一、何々.....)
- (二、何々.....)

6 專決處分要項

町村會ニ於テ議決又ハ決定スヘキ事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ町村會成立セサルトキ又ハ町村長ニ於テ招集スルノ暇ナシト認メ町村制第七十六條第一項ニ依リ事件ヲ專決スル場合ハ(5)知事ノ指揮ニ依リ議決又ハ決定スヘキ事件處置要項ニ準シ取扱フコト專決處分書ノ例左ノ如シ

何々ノ件

何々.....

右町村制第七十六條第一項ニ依リ專決處分ス

年 月 日

何町村長 氏

名 印

○町村會ノ權限委任ニ關スル議案

議案第 號

町村會ノ權限委任ニ關スル件

町村會ノ權限ニ屬スル事項中左ノ事項ハ之ヲ町村長ノ專決處分ニ委任ス

- 一、義務ノ負擔ナキ金何圓以内ノ寄附採納ニ關スルコト
- 二、金何圓以内ニ於テ一時借入金ヲ爲スコト及其ノ借入ノ方法、利息ノ定率、償還ノ方法ヲ定ムルコト
- 三、町村債ノ更正許可ニ伴フ償還年次表ノ變更ニ關スルコト
- 四、何々……………

年 月 日提出

何町村會議長

何町村長 氏

名

(備考)

- 一、權限委任ニ關スル議案ニ付テハ町村長ニ發案權ナシ故ニ町村會議長ニ於テ發案スルカ又ハ町村會ヨリ發案スルコト
- 二、町村長ニ委任シ得ル事項ハ町村會ノ議決スヘキ事項ニ限ル法意ニシテ選舉ノ權、爭議決定權ノ如キハ固ヨリ委任シ得サルモノトス
- 三、可成輕易ノ事項ニ限リ委任スルコト

○戶籍事務分掌ニ關スル件通牒(大正九年三月三十日 地方局長)

標記ノ件ニ付左記ノ通回答相成候條御承知相成度

戶籍事務分掌ノ件回答

昨年十二月十七日末地收第六五三號照會標記ノ件戶籍事務ハ戶籍法第三條ノ規定ニ依リ管轄區裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事ノ監督ニ屬シ且其ノ監督ニ付テハ司法行政ノ監督ニ關スル規定ニ依ルヘキ義ニ有之從テ戶籍事務ニ關シテハ市制第九十四條及町村制第七十八條ノ規定ニ依リ知事〔若ハ郡長〕ノ許可ヲ以テ助役ニ分掌セシムルコトヲ得サル義ト思考致候

尤モ已ムヲ得サル事情アル場合ニ於テハ司法省從來ノ取扱振トシテハ市制第九十四條及町村制第七十八條ノ規定ニ準シ司法大臣ノ許可ヲ以テ分掌セシムルコトヲ得ル慣例ニ相成居候條御承知相成度

○市町村常設委員職務ノ範圍ニ關スル件通牒(明治二十三年一月七日 縣甲第一號)

市制第六十一條(現行八十三條)町村制第六十五條(現行六十九條)ニ依リ設クル所ノ委員ハ市町村行政事務ノ一部ヲ分掌スルモノナリト雖モ委員ハ元來町村長若クハ(市參事會)ニ從屬スヘキモノニシテ獨立ノ位地ヲ有スルモノニアラス故ニ假令分掌スル所ノ事務ヲ有ストナスモ外部ニ對シテ市町村ヲ代表スルコトヲ得サルノミナラス市町村會ニ對シ委員ノ名義ヲ以テ議案ヲ發シ又ハ事務ノ報告ヲ爲スカ如キ職權ヲ有セサルモノトス尤モ其分掌スル所ノ事務ニ付町村長若クハ(市參事會)ニ從屬シ市町村會ニ發スル議案ノ下調ヲ爲シ又ハ市町村會ノ議場ニ於テ參考ノ爲メ取扱事件ニ付陳述ヲ爲スカ如キハ實際ノ便宜ニ任セ妨ケナカルヘシ右ハ往々委員ノ性質ヲ誤ルノ恐アルニ付特ニ注意ノ爲メ此段及通牒候也

○町村長職務權限ニ關スル報告

市町村町村組合及水利組合事務報告規程(大正十五年七月 縣訓令第三十一號)

第二條

左ノ事項ハ市町村長ヨリ知事ニ報告スヘシ

五 市町村長ノ意見ニ依リ市町村會市參事會ノ議決ヲ再議ニ付シ又ハ市町村會市參事會ヲシテ再選舉ヲ行

ハシメタル事件及其ノ理由

- 六 町村會市參事會ノ議決又ハ決定スヘキ事件ニ關シ市町村長ノ爲シタル專決處分及其ノ理由
- 九 市町村長ノ事務ヲ助役又ハ區長ニ分掌セシメタルトキ其ノ事務及理由
- 十 市町村長故障アル場合ニ於ケル助役ノ代理順序ノ決定及變更
- 十一 市町村長ノ爲シタル市町村吏員懲戒處分

第五章 給料及給與

○町村制

第八十四條 名譽職町村長、名譽職助役、町村會議員其ノ他ノ名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

名譽職町村長、名譽職助役、區長、區長代理者及委員ニハ費用辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

費用辨償額、報酬額及其ノ支給方法ハ町村條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第八十五條 有給町村長、有給助役其ノ他ノ有給吏員ノ給料額、旅費額及其ノ支給方法ハ町村條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第八十六條 有給吏員ニハ町村條例ノ定ムル所ニ依リ退隱料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ヲ給スルコトヲ得

第八十七條 費用辨償、報酬、給料、旅費、退隱料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ノ給與ニ付關係者ニ於テ異議アルトキハ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ町村長ハ七日以内ニ之ヲ町村會ノ決定ニ付スヘシ關係者其ノ決定ニ不服

アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第三項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第八十八條 費用辨償、報酬、給料、旅費、退隱料、退職給與金、死亡給與金、遺族扶助料其ノ他ノ給與ハ町村ノ負擔トス

○諸給與條例準則ノ件通牒(昭和四年十一月十二日四地發 第八九三九號內務部長)

市町村ニ於ケル費用辨償額、報酬額、給料額、旅費額及其ノ支給方法ハ市町村制改正ノ結果條例ヲ以テ規定スルコトヲ要スルコト、相成候ニ付テハ別紙準則ニ依リ市町村會ノ議決ヲ經許可稟請ノ手續相成度

(別紙) 諸給與條例準則

何町(村) 諸給與條例 第一章 報酬及給料

第一條 名譽職吏員ノ報酬額ハ別表第一號表ニ依ル(別表第一號表ニ定ムル範圍内ニ於テ町(村)會ノ議決ニ依リ之ヲ定ム)

第二條 有給吏員ノ給料額ハ別表第二號表ニ依ル(別表第二號表ノ一ニ定ムル範圍内ニ於テ町(村)會ノ議決ニ依リ之ヲ定ム)

第三條 有給町(村)長有給助役及收入役以外ノ有給吏員ノ給料額ハ月俸何圓未滿ノ者ニ限り級俸ニ拘ラス適宜ノ金額ヲ定メ之ヲ支給スルコトヲ得但シ別表第二號表(ノ二)所定ノ最低額ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ吏員ニシテ一級俸ヲ受ケ何年ヲ超エ事務練達優良ナル者ハ特ニ何圓迄ヲ給スルコトヲ得

第四條 報酬額及給料額ノ年額ノモノハ之ヲ十二分シ毎月支給ス但シ年額何圓未滿ノモノハ之ヲ何分シ何月何月及何月ニ於テ各其ノ月以前何月分ヲ支給ス(毎年度三月ニ於テ一ヶ年度分ヲ支給ス)

第五條 報酬及給料ハ毎月何日ニ之ヲ支給ス但シ休日ニ當ルトキハ順次繰下ク

第六條 報酬及給料ハ就職増俸減俸トモ總テ就職又ハ發令ノ翌日ヨリ之ヲ計算ス但シ第七條ノ規定ニ依リ退職又ハ失職ノ際當月分ノ全額支給ヲ受ケタル者ニシテ其ノ月ニ於テ更ニ吏員ニ就職シタルトキハ重複シテ之ヲ支給セス再就職後ノ報酬額又ハ給料額ニ比シ從前ノ報酬額又ハ給料額ノ寡少ナルトキハ其ノ差額ヲ日割計算ニ依リ支給ス

第七條 退職(轉職ノ爲ノ退職ヲ含ム)失職死亡ノ場合ハ其ノ當月分又ハ當月分迄ノ報酬額又ハ給料額ノ全額ヲ其ノ際支給ス但シ名譽職吏員又ハ職ニ就キタルカ爲公民タル者ニシテ町村制第七條第一項第一號第二號第五號乃至第七號ノ事由ニ因リ失職シタルトキハ其ノ當日迄日割計算ヲ以テ之ヲ支給ス懲戒ニ依リ解職セラレタルトキ又ハ町(村)長ニ於テ任免スヘキ吏員ニシテ不都合ノ所爲アリタルニ因リ免職セラレタルトキ亦同シ

第八條 陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ給與ヲ受クルトキハ其ノ間報酬又ハ給料ヲ支給セス但シ其ノ給與額本町(村)ヨリ受クル報酬額又ハ給料額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ支給ス

第九條 退職又ハ失職シタル者事務引繼殘務調理ノ爲執務シタルトキハ退職又ハ失職ノ翌日ヨリ十日以内ニ限リ其ノ執務日數ニ應シ日割計算ヲ以テ仍從前ノ報酬額又ハ給料額ヲ支給ス但シ第七條ノ支給額ト重複スル部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條 病氣ノ爲引續執務セサルコト六十日ヲ超ユル者及私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト三十日ヲ超ユル者ニハ報酬又ハ給料ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受ケ若ハ父母ノ病氣

看護ノ爲缺勤シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 日割計算ハ總テ其ノ月ノ現日數ニ依ル

第二章 費用辨償及旅費

第十二條 町(村)會議員、區長、區長代理者、委員及選舉立會人ノ費用辨償額ハ別表第三號表ニ依リ(別表

第三號表ニ定ムル範圍内ニ於テ町(村)會ノ議決ヲ以テ定ムル所ニ依リ)會議ニ出席シ又ハ公務ニ從事シタル日數ニ應シ之ヲ支給ス但シ區長及區長代理者ハ其ノ區内ニ於テ公務ニ從事スルモ費用辨償ヲ支給セス

第十三條 吏員職員及雇員職務ノ爲町(村)外ニ旅行シタルトキハ別表第四號表ニ依リ費用辨償又ハ旅費ヲ支給ス

第十四條 吏員職員及雇員職務ノ爲何時間以上ニ涉リ町(村)内ニ出張シタルトキハ別表第五號表ニ依リ費用辨償又ハ旅費ヲ支給ス但シ第十二條ノ規定ニ依リ費用辨償ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラス

傳染病豫防救治ノ爲病毒ニ感染スル虞レアル事務ニ從事シタル場合ニ於テハ前項ノ費用辨償又ハ旅費ハ出張時間ニ拘ラス之ヲ支給シ且何割ヲ増額支給ス

第十五條 町(村)外ノ旅行ニ依ル費用辨償及旅費ノ支給方法ニ關シテハ内國旅費規則ノ規定ヲ準用ス

第三章 雜 給

第十六條 月給ヲ受クル雇員、囑託、給仕、使丁其ノ他僱員ノ給料支給方法ハ第五條乃至第十一條ノ規定ヲ準用ス

第十七條 日給ノ雇員、囑託、給仕、使丁其ノ他僱員ノ給料ハ勤務日數ニ應シ毎月末日ニ之ヲ支給ス但シ休日ニ當ルトキハ順次繰上ケ職ヲ退キタルトキハ其ノ際支給ス

日曜祭祝日其ノ他一般ノ休日ハ勤務日數ニ通算ス但シ休日ノ前後共ニ缺勤シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 吏員及使丁ニシテ宿直ヲ爲シタルトキハ宿直賄料ヲ給シ執務時間後引續キ何時間以上勤務シ夜ニ

涉リタルトキハ夜勤賄料ヲ支給ス但シ夜勤賄料ハ場合ニ依リ之ヲ支給セサルコトヲ得
賄料額ハ別表第六號表ニ依リ毎翌月三日迄ニ之ヲ支給ス

第十九條 使丁ヲ町(村)外ニ使役シタルトキハ左ノ手當金ヲ支給ス

- 一、書狀其ノ他輕微ナル物品ノ運送ハ一里ニ付金何程
- 二、荷車ヲ使用スル物品ノ運送ハ一里ニ付金何程

前項ノ手當金ハ夜間又ハ強風雪又ハ道路險惡ノ場合ニ於テハ其ノ實況ニ依リ何割以内増額支給スルコトヲ得

第二十條 前條手當金支給ニ關スル里程ノ計算ニ付テハ十八町未滿ハ之ヲ切捨テ十八町以上ハ一里ト看做ス

附 則

本條例ハ告示ノ日ヨリ之ヲ施行ス
從前ノ諸給與ニ關スル條例ハ之ヲ廢止ス

第一號表

名譽職吏員報酬額

職	名	年額	月額ノ區別	報 酬 額
町	(村) 長	年 額	(月 額)	何 圓 (何圓以上何圓以下)
助	長 (何 區 長)			
	區長代理者 (何區長代理者)			

第二號表

有給吏員給料額

職	名	年額月額ノ區別	給 料 額
町	(村) 長	月 額 (年 額)	何 圓
助	役	何 圓	何 圓
收	入 役	何 圓	何 圓
書	記	何 圓	何 圓
技	術 員	何 圓	何 圓
何	々		

第二號表ノ一

町(村)長、助役、收入役給料額

職	名	年額	月額ノ區別	給 料 額
町	(村) 長	年 額	(月 額)	何圓以上何圓以下
助	役			
收	入 役			

第二號表ノ二

町(村)長、助役、收入役以外ノ吏員給料額

職名	年額月額ノ區別	給料				
		一級	二級	三級	四級	額
書記	月額(年額)	何	何	何	何	何
技術員						
何々						

第三號表

町(村)會議員、區長、區長代理者、委員及選舉立會人費用辨償額

職名	費用辨償額
町(村)會議員	何 圓 (何圓以上何圓以內)
區長	
區長代理者	
委員(何委員)	
選舉立會人	

第四號表

吏員町(村)外出張費用辨償額及旅費額

職名	費用辨償額
鐵道賃一哩ニ付	何 錢
船賃一哩ニ付	何 錢
車馬賃一里ニ付	何 錢
日當一日ニ付	何 圓
宿泊料一夜ニ付	何 圓
町(村)長	何 錢
助役	

職名	費用辨償額及旅費額
收入役	
書記	
技術員	
雇員	
何々	

第五號表

吏員町(村)內出張費用辨償額及旅費額

職名	費用辨償額及旅費額
町(村)長	何 圓
助役	
收入役	
書記	
技術員	
雇員	
何々	

第六號表

宿直賄料額及夜勤賄料額

職	名	宿直賄料額	一夜ニ付	夜勤賄料額	一回ニ付
何	々	何	錢	何	錢

○年功加俸條例

何町村年功加俸條例

- 第一條 本町(村)有給吏員ニシテ何年以上勤績シ其ノ成績佳良ナル者ニハ(町村會ノ議決ニ依リ)年功加俸ヲ支給ス
- 第二條 年功加俸ハ初回ニ於テ本俸何分ノ何ヲ支給シ爾後勤績年數何年ヲ加フル毎ニ本俸何分ノ何ヲ加ヘ何分ノ何ニ至テ止ム
- 第三條 勤績年數ハ左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニシテ退職ノ後再ヒ就職シタルトキハ其ノ前後ノ在職年數ヲ通算ス
- 一 自己ノ便宜ニ依リ退職シタルトキ
 - 二 懲戒處分ニ依リ解職セラレタルトキ
 - 三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルガ爲失職シタルトキ
 - 四 犯罪アリタルカ爲免職セラレタルトキ
- 第四條 年功加俸ハ辭令書ヲ用ヒ發令ノ月ヨリ本俸ト同時ニ之ヲ支給ス但シ増俸減俸又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ俸給額ニ異動ヲ生シタル場合ハ現ニ受クル俸給額ニ依リ計算ス
- 第五條 年功加俸ヲ受クル者懲戒處分ヲ受ケタルトキハ其ノ月ヨリ年功加俸ノ支給ヲ停止ス
- 懲戒處分ヲ受クルニ至ラサル者ト雖職務怠慢成績不良ノ事實アル者ハ(町村會ノ議決ニ依リ)其ノ支給ヲ停

止ス

前二項ニ依リ年功加俸ノ支給ヲ停止セラレタル者改悛ノ情著シキトキハ(町村會ノ議決ニ依リ)其ノ停止ヲ解除スルコトヲ得但シ懲戒處分ヲ受ケタルニ因リ支給ヲ停止シタルトキハ滿一ケ年ヲ經ルニアラサレハ之ヲ解除スルコトヲ得ス

附 則

本條例ハ告示ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○退隱料條例

何町村退隱料條例

- 第一條 本市(町村)有給吏員ハ本條例ノ規定スル所ニ依リ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ有ス
- 第二條 在職滿何年以上ニ至リ退職シタル者ニハ終身退隱料ヲ支給ス但シ左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 一 懲戒ニ依リ解職セラレタルトキ
 - 二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルカ爲失職シタルトキ
 - 三 犯罪アリタルカ爲免職セラレタルトキ
- 第三條 前條退隱料年額ハ退職當時ノ給料ト在職年數トニ依リ之ヲ定ム即テ左ノ如シ
- 一 在職滿何年以上何年未滿ノトキ 給料月額何箇月分(給料年額何分ノ何)
 - 一 在職滿何年以上何年未滿ノトキ 給料月額何箇月分(給料年額何分ノ何)
 - 一 在職滿何年以上ノトキ 給料月額何箇月分(給料年額何分ノ何)

(又ハ)

二〇四

第三條 前條退隱料年額ハ退職當時ノ給料ト在職年數トニ依リ左ノ方法ヲ以テ之ヲ定ム

在職滿何年以上何年未滿ニシテ退職シタル者ノ退隱料年額ハ給料月額何箇月分(給料年額何分ノ何)トシ何年以上滿何年毎ニ給料月額何分ノ何(給料年額何分ノ何)ツツヲ加ヘ滿何年ニ至テ止ム

第四條 在職中公務ノ爲疾病又ハ傷痍ヲ受ケ不具廢疾トナリ其ノ職ニ堪ヘスシテ退職シタル者ニハ在職年數ニ不拘終身退職當時ノ給料月額何箇月分(給料年額何分ノ何)ニ相當スル退隱料ヲ支給ス

第二條ノ年限間在職シタル者ニシテ前項ノ事由ニ依リ退職シタルトキハ第三條ノ規定ニ照準シタル退隱料額ニ其ノ何分ノ何ヲ増シタル額ヲ支給ス

第五條 第三條第四條及第七條ニ規定セル給料月額ハ年給ノ者ハ其ノ十二分ノ一日給ノ者ハ其ノ三十日分(給料年額ハ月給ノ者ハ其ノ十二箇月分日給ノ者ハ其ノ三百六十日分)ヲ以テ算出ス

退隱料年額圓(錢)位未滿ノ端數ハ圓(錢)位ニ滿タシム(之ヲ棄却ス)

第六條 有給吏員ノ在職年數ハ就職ノ月ヨリ起算シ退職ノ月ヲ以テ終ル

前項ノ在職年數ハ一時退職ノ後再ヒ就職シタル者ニ在リテハ前後ノ年數ヲ通算ス但シ第二條第一號乃至第三號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ以前ノ在職年數ヲ通算セス

第七條 退隱料ヲ受クル權利ヲ有スル者再ヒ就職シ引續キ在職滿一年以上ニシテ退職シタルトキハ前後通算シテ在職滿何年ニ至ル迄後ノ在職滿一年ヲ加フル毎ニ其ノ退職當時ニ於ケル給料月額何分ノ何(給料年額何分ノ何)ヲ退隱料年額ニ増加シタル額ト第六條及第三條ノ方法ニ依リ計算シタル額トヲ比較シ其ノ額多キ方ヲ支給ス但シ第二條第一號乃至第二號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 退隱料ヲ受クル權利ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ失フ

一 國籍ヲ喪失シタルトキ

二 六年ノ懲役若ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第九條 退隱料ノ支給ハ退職ノ翌月ヨリ始マリ死亡ノ月又ハ權利喪失ノ前月ヲ以テ終ル

第十條 退隱料ノ支給ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキヨリ其ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ間之ヲ停止ス

前項ノ期間ハ停止理由ノ生シタル月ヨリ其ノ終リタル月迄トス

退隱料ヲ受クル權利ヲ有スル者官職又ハ府縣市町村其ノ他ノ公共團體ノ職務ニ就キ給料ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ給料月額ニ退隱料月額ヲ合シ退職當時ニ於ケル給料月額ニ超過スルトキハ其ノ超過額ニ對スル退隱料ノ支給ヲ停止ス

第十一條 退隱料年額ハ月割ヲ以テ之ヲ計算シ毎年何月及何月ニ於テ其ノ前月迄ノ分ヲ支給ス但シ退隱料ヲ受クル權利ヲ有スル者死亡シ又ハ權利ヲ喪失シタル場合ハ期日ニ拘ラス之ヲ支給ス

第十二條 退隱料ヲ受クルノ權利ハ賣買讓渡シ又ハ之ニ對シ質權抵當權ヲ設定スルコトヲ得ス

附 則

第十三條 本條例ハ告示ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 第六條ノ在職年數ハ明治四十四年法律第六十九號改正町村制施行前退職シタル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該ルトキ及大正十年法律第五十九號町村制中改正法律施行前禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルカ爲失職シタル者ニシテ判決ノ確定ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ以前ノ在職年數ヲ通算セス

一 懲戒裁判ニ依リ解職セラレタルトキ

二 不都合ノ所爲アリタルカ爲解職セラレタルトキ

三 犯罪ニ依リ失職シタルトキ

四 禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ罪ノ爲公判ニ付セラレタルニ依リ解職シタルトキ但シ後ニ免訴若ハ無罪ノ言

渡アリタル場合又ハ有罪ノ宣告アリタルモ禁錮以上ノ刑ニ該ラサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ本條例ノ適用ニ付テハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

舊刑法ノ禁錮以上ノ刑ハ本條例ノ適用ニ付テハ禁錮以上ノ刑ト看做ス

○退隱料條例ニ關スル件通牒(大正元年九月二十一日元發)
第六四二〇號內務部長

町村有給吏員退隱料條例ノ設定及改正許可稟請書中在職年數ノ規定短期ニ失シ又ハ同第三條及第四條ノ給與額彼是權衡ヲ得サルモノ或ハ同第七條及附則ノ規定其ノ當ヲ得サル爲照復ヲ重ヌルモノ不尠候處右規程ノ當否ハ吏員ノ待遇其他ニ重要ナル關係ヲ有スル次第ニ付稟請書進達ニ際シテハ特ニ御精査相成度爲御參考最近許可セラレタル條例中右關係規定抄録添付ス

追而改正條例許可稟請書進達ノ場合ハ現行條例ニ依リ現ニ退隱料ノ支給ヲ受ケ若クハ受クヘキ者ノ有無ニ付副申相成タシ

第二條 在職滿十五年以上ニ至リ退職シタル者ニハ終身退隱料ヲ支給ス但云々

第三條 前條退隱料年額ハ退職當時ノ給料ト在職年數トニ依リ左ノ方法ヲ以テ之ヲ定ム

在職滿十五年以上十六年未滿ニシテ退職シタル者ノ退隱料年額ハ給料年額二百四十分ノ六十トシ十五年以上滿一年毎ニ給料年額二百四十分ノ一ツツヲ加ヘ滿四十年ニ至テ止ム

第四條 在職中公務ノ爲メ疾病又ハ傷痍ヲ受ケ不具廢疾トナリ其職ニ堪ヘスシテ退職シタル者ニハ在職年數ニ拘ハラズ終身退職當時ノ給料年額二百四十分ノ六十ニ相當スル退隱料ヲ支給ス

第二條ノ年限間在職シタル者ニシテ前項ノ事由ニ依リ退職シタルトキハ第三條ノ規定ニ照準シタル退隱料

年額ニ其十分ノ二ヲ増シタル額ヲ支給ス

第七條 退隱料ヲ受クル權利ヲ有スル者再ヒ就職シ引續キ在職滿一年以上ニシテ退職シタルトキハ前後通算シテ在職滿四十年ニ至ル迄後ノ在職滿一年ヲ加フル毎ニ其退職當時ニ於ケル給料年額二百四十分ノ一ヲ退隱料年額ニ増加シタル額ト第六條及第三條ノ方法ニ依リ計算シタル額トヲ比較シ其額多キ方ヲ支給ス但云々

附 則

第十五條 本條例ハ大正何年何月何日ヨリ施行ス

條例改正ノ場合ニ於テ現行條例ニ依リ退隱料ノ支給ヲ受ケ又ハ受クヘキ者アルトキハ第十五條第二項トシテ左ノ規定ヲ加フ

「明治何年條例第何號有給吏員退隱料ニ關スル條例ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス但シ現ニ退隱料ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ノ權利ヲ妨クルコトナシ

本條例中退隱料ヲ受クル權利ノ消滅停止及支給期月ニ關スル條項ハ前條例ニ依リ退隱料ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニモ之ヲ適用ス」

條例改正ノ場合ニ於テ現行條例ニ於テハ例之滿十年以上ノ在職者ニ退隱料ヲ支給スヘキ規定ナルモ改正條例案ニ於テハ之ヲ延長シテ滿十五年以上ノ在職者ニ更メントスルトキ現ニ在職スル者ニシテ既ニ滿十年以上ニ及フ者アルトキハ之ヲ保護センカ爲メ第十五條第二項トシテ左ノ規定ヲ加フル方穩當ナリ

「明治何年條例第何號有給吏員退隱料ニ關スル條例ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス但現職スル者ニシテ本

條例施行前ニ於テ其在職年數十年以上ニ及フ者ハ第二條ノ年限ニ達セスシテ退職シタルト雖尙前條例ニ依リ退隱料ヲ支給ス

前項退隱料ヲ受クル權利ノ消滅停止及支給期月ニ關シテハ本條例ノ規定ニ依ル

○市町村吏員ノ恩給々與ニ關スル件通牒(昭和八年十月二十日八地收 第一二二七〇號內務部長)

本月一日ヨリ改正恩給法實施相成リ恩給年限ノ延長、恩給算出基礎俸給ノ合理化、納金額ノ増加等各般ノ事項ニ亘リ改正セラレ候ニ就テハ市町村吏員ノ退隱料退職給與金等ニ付條例ノ設定アル市町村ハ改正恩給法ノ趣旨ニ準ジ之ガ改正ヲ爲スヲ適當ト被認候條此際可然御措置相成様致度尙未ダ右條例ノ設定ナキ市町村ニシテ新ニ之ヲ創設セントスルトキハ成ル可ク改正恩給法ノ趣旨ニ準ズル様致度

○退職給與金及死亡給與金條例

何町村退職給與金及死亡給與金條例

第一條 本町(村)有給吏員ニシテ退職又ハ死亡シタルトキハ本條例ノ規定スル所ニ依リ退職給與金若ハ死亡給與金ヲ給ス

第二條 在職一年以上ニ至リ退職シ又ハ在職中公務ノ爲疾病ニ罹リ若ハ傷痍ヲ受ケ其ノ職ニ堪ヘスシテ退職シタルトキハ退職給與金ヲ給ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ此ノ限ニ在ラス
一 懲戒ニ依リ解職セラレタルトキ

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルカ爲失職シタルトキ

三 犯罪アリタルカ爲免職セラレタルトキ

四 本町(村)ヨリ退隱料ヲ受クルトキ

第三條 在職一年以上ニ至リ死亡シ又ハ在職中公務ノ爲疾病ニ罹リ若ハ傷痍ヲ受ケ死亡シタルトキハ死亡給與金ヲ給ス

第四條 退職給與金ハ左ノ區別ニ依リ計算シタル金額ヲ本人ニ給ス

一 在職一年以上ノ者ハ給料月額何分ノ何ヲ其ノ在職年數ニ乗シタル金額

二 在職中公務ノ爲疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ其ノ職ニ堪ヘサルニ由ル者ハ給料月額何箇月分

三 在職年數第一號ニ該當スル者ニシテ第二號ノ事由ニ依ルトキハ第一號及第二號ニ準シ計算シテ之ヲ併

合シタル金額

第五條 死亡給與金ハ左ノ區別ニ依リ計算シタル金額ヲ其ノ遺族ニ給ス但シ遺族ナキトキハ死亡者ノ葬儀ヲ擔任スル者ニ給ス

一 在職一年以上ノ者ハ給料月額何分ノ何ヲ其ノ在職年數ニ乗シタル金額

二 在職中公務ノ爲疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタルニ由ル者ハ給料月額何箇月分

三 在職年數第一號ニ該當スル者ニシテ第二號ノ事由ニ依ルトキハ第一號及第二號ニ準シ計算シテ之ヲ併

合シタル金額

第六條 在職年數ハ就職ノ月ヨリ起算シ退職若ハ死亡ノ月ヲ以テ終ル

第七條 前條ノ在職年數ハ一時退職ノ後再ヒ就職シタル者ニ在リテハ前後ノ年數ヲ通算ス但シ第二條第一號乃至第三號ノ一ニ該當スル場合ハ其ノ以前ノ在職年數ヲ通算セス退職給與金ヲ受ケタル在職年數ニ付亦同シ

第八條 第四條及第五條ニ規定セル給料月額ハ退職又ハ死亡當時ノ給料ニ依リ年給ノ者ハ其ノ十二分ノ一日給ノ者ハ其ノ三十日分ヲ以テ算出ス

退職給與金及死亡給與金ノ圓位未滿ノ端數ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

第九條 遺族ノ順位ハ恩給法ノ規定ヲ準用ス

第十條 退職給與金又ハ死亡給與金ハ退職若ハ死亡ノトキ之ヲ給ス

附 則

第十一條 本條例ハ告示ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 第七條ノ在職年數ハ明治四十四年法律第六十九號改正町村制施行前退職シタル者ニシテ左ノ各號

ノ一ニ該ルトキ及大正十年法律第五十九號町村制中改正法律施行前禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルカ爲失職シタル者ニシテ判決ノ確定ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ以前ノ在職年數ヲ通算セサルモノトス

一 懲戒裁判ニ依リ解職セラレタルトキ

二 不都合ノ所爲アリタルカ爲解職セラレタルトキ

三 犯罪ニ依リ失職シタルトキ

四 禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ罪ノ爲公判ニ付セラレタルニ依リ解職シタルトキ但シ後ニ免訴若ハ無罪ノ言

渡アリタル場合又ハ有罪ノ宣告アルモ禁錮以上ノ刑ニ該ラサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 舊刑法ノ禁錮以上ノ刑ハ本條例ノ適用ニ就テハ禁錮以上ノ刑ト看做ス

○遺族扶助料條例

何町村遺族扶助料條例

第一條 本町村有給吏員左ニ掲クル事項ノ一ニ該當スルトキハ其ノ遺族ハ本條例ノ規定スル所ニ依リ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

一 本町村退隱料條例ニ依リ退隱料ヲ受クヘキ年限ニ達シタル者在職中死亡シタルトキ

二 公務ノ爲疾病又ハ傷痍ヲ受ケ在職中死亡シタルトキ

三 本町村ヨリ退隱料ヲ受クル權利ヲ有スル者死亡シタルトキ

第二條 扶助料ハ死者カ受ケ若ハ受クヘキ退隱料年額何分ノ何程トス但シ年額圓位未滿ノ端數ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

第三條 扶助料ヲ受クヘキ遺族ノ順位受給權利ノ喪失停止及轉給ニ關シテハ恩給法ノ規定ヲ準用ス

第四條 扶助料ノ支給ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ始マリ死亡又ハ權利喪失ノ月ヲ以テ終ル

第五條 扶助料ハ年額ヲ何分シ毎年何月及何月ニ於テ其ノ前月迄ノ分ヲ支給ス但シ扶助料ヲ受クル者死亡シ又ハ權利ヲ喪失シ若ハ停止シタルトキハ期月ニ拘ラス之ヲ支給ス

第六條 扶助料ハ他ノ權利ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第七條 扶助料ハ之ヲ受ヘキ事由ノ生シタル後何年以内ニ請求スルニアラサレハ其ノ權利ヲ失フ

附 則

本條例ハ告示ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○傳染病豫防救治ニ従事スル者ノ手當支給方ノ件

(明治三十三年五月)改(大正十一年十二月) 縣令第二十七號 正(縣令第六十一號)

市町村ハ明治三十三年法律第三十號ニ準シ傳染病豫防救治ニ従事スル者ノ手當金支給ニ關スル規定ヲ設ケ明治三十三年七月一日ヨリ施行スヘシ但其ノ給料ヲ受ケサル者ノ手當金ハ別表ノ範圍内ニ於テ之ヲ定ムヘシ前項ノ規定ハ之ヲ縣廳ニ報告スヘシ

名譽職	市町村長	同 助 員	豫防委員	弔 祭 料	遺 族 扶 助 料
	三十圓以上	二十四以上	十圓以上	四十圓以内	二百五十圓以上
				三十圓以内	二百圓以上
				二十圓以内	二百圓以内
				二十圓以上	二百五十圓以内
				二十圓以上	二百圓以内

療治料ハ一日金二圓以上二圓以内給助料ハ遺族扶助料ノ二分ノ一ニ相當スル金額トス

○傳染病豫防救治ニ従事スル者ノ手當金支給條例

何町村傳染病豫防救治ニ従事スル者ノ手當金支給條例

第一條 本町村ハ傳染病豫防救治ニ従事シ又ハ之カ爲病ニ感染シ若ハ之ニ原因シテ死亡シタル者ニ對シ本條例ノ定ムル所ニ依リ手當金ヲ支給ス

第二條 手當金ハ左ノ五種トス

- 一 手 當
- 二 療 治 料
- 三 給 助 料
- 四 弔 祭 料
- 五 遺 族 扶 助 料

第三條 手當ハ病ニ感染スル虞レアル事務ニ従事シタルトキ左表ニ依リ之ヲ支給ス

手當一日ニ付	町 村 長	助 長	役 書	記 豫 防 委 員	何 々
何 程	何 程	何 程	何 程	何 程	何 程

第四條 療治料ハ病ニ感染シタルトキ其ノ治療期間中一日金何程ヲ支給ス

第五條 給助料ハ感染者治癒シタルトキ遺族扶助料ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ一時ニ支給ス

第六條 弔祭料及遺族扶助料ハ感染者死亡シタルトキ其ノ遺族ニ對シ一時ニ之ヲ支給ス但シ遺族ナキトキハ葬儀ヲ行フ者ニ弔祭料ノミヲ支給ス

弔祭料及遺族扶助料ヲ受クヘキ者ノ順位ハ恩給法中扶助料ノ例ニ準ス

第七條 弔祭料ハ死亡者ノ受ケタル給料一月分又ハ日給三十日分ニ相當スル額ヲ支給シ其ノ給料ヲ受ケサル者ニ在リテハ左表ニ依リ之ヲ支給ス

何	名譽職町村長	何	名譽職助役	何	傳染病豫防委員	何	々
圓		圓		圓		圓	

第八條 遺族扶助料ハ左表ニ依リ之ヲ支給ス

一、給料ヲ受クル者

何	死者ノ受ケタル給料月額	遺族扶助料
何	圓	以上
何	圓	以下

日給ハ三十日分ヲ以テ月額ト見做ス

二、給料ヲ受ケサル者

何	名譽職町村長	何	名譽職助役	何	傳染病豫防委員	何	々
圓		圓		圓		圓	

第六章 町村ノ財務

第一款 財務一般

○町村制

第九十四條 財産ノ賣却貸與、工事ノ請負及物件勞力其ノ他ノ供給ハ競争入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキ、入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ町村會ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一百十三條第二項 町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第一百十九條第二項 收入役ハ町村長又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス命令ヲ受クルモ支出ノ豫算ナク且豫備費支出費目流用其ノ他財務ニ關スル規定ニ依リ支出ヲ爲スコトヲ得サルトキ亦同シ

前二項ノ規定ハ收入役ノ事務ヲ兼掌シタル町村長又ハ助役ニ之ヲ準用ス

第一百二十條 町村ノ支拂金ニ關スル時効ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル

第一百二十一條 町村ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ之ヲ検査シ且毎會計年度少クトモ二回臨時検査ヲ爲スヘシ検査ハ町村長之ヲ爲シ臨時検査ニハ町村會ニ於テ選舉シタル議員二人以上ノ立會ヲ要ス

第一百二十二條 町村ノ出納ハ翌年度五月三十一日ヲ以テ閉鎖ス

第一百二十三條 豫算調製ノ式費目流用其ノ他財務ニ關シ必要ナル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

○市制町村制施行規則

第三十三條 市町村稅其ノ他一切ノ收入ヲ歲入トシ一切ノ經費ヲ歲出トシ歲入歲出ハ豫算ニ編入スヘシ

第三十四條 各年度ニ於テ決定シタル歳入ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ歳出ニ充ツルコトヲ得ス

第三十五條 歳入ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 納期ノ一定シタル收入ハ其ノ納期末日ノ屬スル年度
- 二 定期ニ賦課スルコトヲ得サルカ爲テニ納期ヲ定メタル收入又ハ臨時ノ收入ニシテ徵稅令書、賦課令書又ハ納額告知書ヲ發スルモノハ令書又ハ告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度
- 三 隨時ノ收入ニシテ徵稅令書、賦課令書又ハ納額告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但シ市町村債、交付金、補助金、寄附金、請負金、償還金其ノ他之ニ類スル收入ニシテ其ノ收入ヲ豫算シタル年度ノ出納閉鎖前ニ領收シタルモノハ其ノ豫算ノ屬スル年度

第三十六條 歳出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 費用辨償、報酬、給料、旅費、退隱料、退職給與金、死亡給與金、遺族扶助料、其ノ他ノ給與、傭人料ノ類ハ其ノ支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度但シ別ニ定マリタル支拂期日アルトキハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度
 - 二 通信運搬費、土木建築費其ノ他物件ノ購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル時ノ屬スル年度但契約ニ依リ定メタル支拂期日アルトキハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度
 - 三 市町村債ノ元利金ニシテ支拂期日ノ定アルモノハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度
 - 四 補助金、寄附金、負擔金ノ類ハ其ノ支拂ヲ豫算シタル年度
 - 五 缺損補填ハ其ノ補填ノ決定ヲ爲シタル日ノ屬スル年度
 - 六 前各號ニ掲クルモノヲ除クノ外ハ總テ支拂命令ヲ發シタル日ノ屬スル年度
- 第三十七條 各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ翌年度ノ歳入ニ編入スヘシ但シ市町村條例ノ規定又ハ市町村會ノ議決ニ依リ剩餘金ノ全部又ハ一部ヲ基本財産ニ編入スル場合ニ於テハ繰越ヲ要セス之カ支出ヲ爲ス

コトヲ得

第三十八條 市町村稅ハ徵稅令書ニ依リ夫役現品ハ賦課令書ニ依リ負擔金、使用料、手数料、加入金、過料過怠金及物件ノ賃貸料ノ類ハ納額告知書ニ依リ之ヲ徵收シ其ノ他ノ收入ハ納付書ニ依リ收入スヘシ但シ市制町村制施行令第五十三條ノ規定ニ依リ徵收スル市町村稅及急迫ノ場合ニ賦課スル夫役並ニ納額告知書又ハ納付書ニ依リ難キモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條 支出ハ債主ニ對スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四十條 左ノ經費ニ付テハ市町村吏員ヲシテ現金支拂ヲ爲サシムル爲其ノ資金ヲ當該吏員ニ前渡スルコトヲ得

- 一 市町村債ノ元利支拂
 - 二 外國ニ於テ物品ヲ購入スル爲必要ナル經費
 - 三 市町村外遠隔ノ地ニ於テ支拂ヲ爲ス經費
- 特別ノ必要アルトキハ前項ノ資金前渡ハ市町村吏員以外ノ者ニ之ヲ爲スコトヲ得
- 第四十一條 旅費及訴訟費用ニ付テハ概算拂ヲ爲スコトヲ得
- 第四十二條 前二條ニ掲クルモノノ外必要アルトキハ市町村ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ資金前渡又ハ概算拂ヲ爲スコトヲ得

第四十三條 前金支拂ニ非サレハ購入又ハ借入ノ契約ヲ爲シ難キモノニ付テハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 歳入ノ誤納過納ト爲リタル金額ノ拂戻ハ各之ヲ收入シタル歳入ヨリ支拂フヘシ

歳出ノ誤拂過渡ト爲リタル金額、資金前渡、概算拂前金拂及繰替拂ノ返納ハ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入スヘシ

第四十五條 出納閉鎖後ノ收入支出ハ之ヲ現年度ノ歳入歳出ト爲スヘシ前條ノ拂戻金戻入金ノ出納閉鎖後ニ

係ルモノ亦同シ

第四十六條 繼續費ハ毎年度ノ支拂殘額ヲ繼續年度ノ終リ迄遞次繰越使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市町村長ハ翌年度四月三十日迄ニ繼續費繰越計算書ヲ調製シ次回ノ會議ニ於テ市ニ在リテハ市參事會町村ニ在リテハ町村會ニ報告スベシ

第五十三條 豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼此流用スルコトヲ得ス豫算各項ノ金額ハ市町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得

第五十五條 會計年度經過後ニ至リ歲入ヲ以テ歲出ニ充ツルニ足ラサルトキハ府縣知事ノ許可ヲ得テ翌年度ノ歲入ヲ繰上ケ之ニ充用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ充用ニ要スル額ヲ翌年度歲入出豫算ニ編入スベシ

第五十六條 市ハ其ノ歲入歲出ニ屬スル公金ノ受拂ニ付郵便振替貯金ノ法ニ依ルコトヲ得

第五十七條 市町村ハ現金ノ出納及保管ノ爲市町村金庫ヲ置クコトヲ得

第五十八條 金庫事務ノ取扱ヲ爲サシムヘキ銀行ハ市町村會ノ議決ヲ經テ市町村長之ヲ定ム

第五十九條 金庫ハ收入役ノ通知アルニ非サレハ現金ノ出納ヲ爲スコトヲ得ス

第六十條 金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ現金ノ出納保管ニ付市町村ニ對シテ責在ヲ有ス

第六十一條 市町村ハ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ヨリ擔保ヲ徵スヘシ、其ノ種類價格及程度ニ關シテハ市町村會ノ議決ヲ經テ市町村長之ヲ定ム

第六十二條 金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ノ保管スル現金ハ市町村ノ歲入歲出ニ屬スルモノニ限り支出ニ妨ケナキ限度ニ於テ市町村ハ其ノ運用ヲ許スコトヲ得

第六十三條 收入役ハ定期及臨時ニ金庫ノ現金帳簿ヲ検査スヘシ
前項ノ場合ニ於テハ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ市町村ノ定ムル所ニ依リ利子ヲ市町村ニ納付スヘシ

第六十四條 市町村ハ收入役ヲシテ其ノ保管ニ屬スル市町村歲計現金ヲ郵便官署又ハ銀行若ハ信用組合ニ預入セシムルコトヲ得

前項ノ銀行及信用組合ニ付テハ府縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第六十五條 第三十三條乃至前條ニ規定スルモノノ外市町村ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第六十六條 第三十三條乃至第五十五條及前條ノ規定ハ市町村ノ一部ニ之ヲ準用ス

○町村歲計現金預入規程

何町村歲計現金預入規程

收入役ハ其ノ促管ニ屬スル歲計現金ヲ郵便官署(何々銀行)(何々信用組合)ニ預入スヘシ但シ金何程以内ハ之ヲ現金トシテ保管スルコトヲ得

附 則

本規程ハ何年四月一日(何月何日)ヨリ何年三月三十一日迄(何月何日迄)之ヲ施行ス

○市町村歲計現金預入ニ關スル件通牒(大正十三年三月二十六日十三地) 收第一九六二號ノ二内務部長

〔本月二十四日內務省令第八號ヲ以テ市町村財務規程中改正セラレ〕町村收入役ヲシテ其ノ保管ニ屬スル町村歲計現金ヲ郵便官署又ハ銀行若ハ信用組合ニ預入セシム得ルコトニ相成候處之レカ爲支出ニ妨ケナキヲ期スルハ勿論右銀行及信用組合ニ付テハ充分調査ヲ遂ケ信用確實ニシテ成績優良ナルモノニ限り許可候様致度尙許可ニ關シテハ當分ノ内毎年一回其ノ期限ヲ指定シテ許可ヲ受ケシムヘク其他適當ナル方法ヲ講シ且許可

後ニ於テモ町村財政ニ累ヲ及ホスカ如キコトナカラシムル様常ニ監視ヲ怠ラサル様致度
追而本件ニ關シ現ニ銀行又ハ信用組合ニ預入シアル向ニ對シテハ此際町村會ノ議決ヲ經テ許可ヲ受ケシメ
ラレ度申添候

(大正十三年五月二十七日十三)
地發第三七二九號內務部長

本年三月二十六日十三地收第一九六二號ノ二ヲ以テ標記ノ件ニ關シ通牒置候處町村歲計現金ヲ信用組合ニ預
入セムトスルモノニ對シテハ其ノ町村全體ヲ區域トシ成績優良ナルモノニシテ尙組合定款中ニ其ノ規定ヲ有
スル組合ニ限り許可セラルル様致度依命此段通牒ス

○市町村會計規程準則(大正十二年二月)
縣訓令第十號

市町村會計規程準則別冊ノ通定ム但シ別冊ハ別ニ之ヲ頒ツ

町村組合水利組合會計規程ハ本準則ニ準シ設定スヘシ

何市(町村)會計規程

第一條 本市(町村)ノ會計事務ハ法令其ノ他別段ノ規定ニ依ルモノヲ除ク外本規程ニ依リ取扱フヘシ

第二條 市(町村)長ハ歲入出豫算謄本ノ外繼續費一時借入金翌年度歲入繰上充用又ハ豫算各項ノ金額ノ流用
ニ付議決ヲ經若ハ決定ヲ爲シタルトキ及市制第六十三條(町村制第四十三條)第一項ニ依リ知事(郡長)

ヨリ費用ヲ豫算ニ加ヘラレタルトキハ其ノ謄本ヲ收入役ニ交付スヘシ但シ監督官廳ノ許可ヲ要スルモノニ
在リテハ許可ヲ經タル後其ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 市(町村)稅ハ徵收簿(第一號樣式)及徵稅令書(第二號樣式)ニ依リ徵收スヘシ

徵收ノ便宜ヲ有スル者ヲシテ徵收セシムル市(町村)稅ハ徵收簿(第三號樣式)ニ依リ收入スヘシ

第四條 市(町村)稅夫役現品以外ノ收入ハ別ニ規定アルモノノ外稅外收入簿(第四號樣式)及納額告知書(第
五號樣式)又ハ納付書(第六號樣式)ニ依リ收入スヘシ

第五條 夫役現品ハ徵收簿(第七號樣式)及賦課令書(第八號樣式)ニ依リ徵收スヘシ

第六條 市(町村)稅、使用料、手数料、加入金、過料、過怠金、其ノ他ノ市(町村)ノ收入ヲ納期內ニ納メサ
ル者アルトキ及夫役現品ノ賦課ヲ愛ケタル者期限內ニ其ノ履行ヲ爲サス又ハ夫役現品ニ代フル金錢ヲ納メ
サル者ニ對スル督促ハ督促(令)狀(第九號樣式)ニ依リ爲スヘシ

前項督促ヲ爲ス場合ニ於ケル徵收簿又ハ收入簿ノ整理ハ督促印(第十號樣式)ニ依リ爲スヘシ

延滞金ヲ徵收スル場合ニ於ケル諸帳簿ノ整理ハ延滞金徵收印(第十一號樣式)ニ依リ爲スヘシ

第七條 前條ニ依ル稅金又ハ收入金ノ滯納處分ハ滯納整理簿(第十二號樣式)ニ依リ整理スヘシ

第八條 歲入ノ誤納過納ト爲リタル金額ノ拂戻ハ減額告知書(第十三號樣式)ニ依リ爲スヘシ

第九條 收入金ヲ受領シタルトキハ收入役ハ領收證ヲ納人ニ交付スヘシ

第十條 徵稅令書納額告知書其ノ他金錢又ハ夫役現品ノ納付ヲ命スル一定ノ樣式アルモノニ限り其ノ發布年
月日ノ記載及市(町村)長ノ捺印ニ代フルニ日付印(第十四號樣式)ヲ用ウルコトヲ得

金錢ノ領收證ニハ其ノ領收年月日ノ記載及收入役ノ捺印ニ代フルニ領收日付印(第十五號樣式)ヲ用ウルコ
トヲ得

第十一條 市制第二百二十七條(町村制第七條)第二項ノ證票ハ檢稅吏證票(第十六號樣式)ニ依ルヘシ

第十二條 支出命令ハ請求書(第十七號樣式)ニ依リ爲スヘシ但シ債主カ別ニ本樣式ニ依ラサル請求書ヲ差出
シタルトキハ支出命令印(第十八號樣式)ニ依リ取扱フヘシ

債主ノ請求ヲ俟タス支出ヲ要スルモノハ支出決定書(第十九號樣式)ニ依リ支出命令ヲ爲スヘシ

第十三條 支拂ヲ爲ストキハ前條ノ請求書又ハ支出決定書ニ接續スル領收證ニ相當記入捺印セシメ又ハ特ニ

調製シタル領收證ヲ徵スヘシ

領收證ヲ徵スル能ハサル正當ノ事由アルモノハ請求書又ハ支出決定書欄外ニ支拂年月日及其ノ事由ヲ記載シ市(町村)長及收入役之ニ認印スヘシ

第十四條 前二條ノ請求書及領收證ニハ金額目的事物及其ノ分量單價アルモノハ其ノ單價等ノ記載アルコトヲ要ス請求又ハ受領者カ代人ナルトキハ其ノ代理ヲ證スル書面ヲ添付セシムヘシ

第十五條 (現)金前渡、概算拂及繰替金ハ前三條ニ依ルノ外收支整理簿(第二十號様式)ニ依リ整理スヘシ

第十六條 (現)金前渡及概算拂ハ精算書ヲ徵スヘシ但シ(現)金前渡ノ精算ニ在リテハ債主ノ領收證ヲ徵スヘシ其ノ之ヲ徵スルコト能ハサル正當ノ事由アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 歳出ノ誤拂過渡ト爲リタル金額(現)金前渡概算拂及繰替金(官廳ヨリ戻入ノモノヲ除ク)ノ戻入ハ戻入告知書(第二十一號様式)ニ依リ爲スヘシ

第十八條 收入役ニ於テ收入又ハ支拂ヲ爲シタルトキハ歳入簿(第二十二號様式)又ハ歳出簿(第二十三號様式)ニ記帳スヘシ

毎日ノ收入支拂ハ現金受拂簿(第二十四號様式)ニ記帳スヘシ

手数料ノ收入ニ限リ前二項ノ記帳ハ之ヲ其ノ月末日ニ於テ一箇月分ノ計金ヲ記載スルコトヲ得

第十九條 前各條ニ定ムルモノノ外左ノ帳簿ヲ備ヘ整理スヘシ

一、郵便切手受拂簿

第二十五號様式

二、備品臺帳

第二十六號様式

三、財産臺帳

第二十七號様式

四、市(町村)債臺帳

第二十八號様式

五、市(町村)吏員退隱料並遺族扶助料臺帳

第二十九號様式

前項ニ定ムルモノノ外必要ニ應シ帳簿ヲ設クルコトヲ得其ノ様式ハ市(町村)長之ヲ定ムヘシ

第二十條 有給吏員退隱料並遺族扶助料ノ支給ヲ決定シタルトキハ證書(第三十號様式)ヲ交付スヘシ

第二十一條 徵稅令書、納額告知書、納付書及之ニ類スル書面並支出證憑書類ニ記載スル數字ハ壹貳參拾等ノ文字ヲ用ウヘシ

前項書類ノ訂正ヲ要スルトキハ金額ニ係ルモノハ其ノ金額ノ全部ヲ朱抹シ右傍ニ正字ヲ明記シ其ノ他ニ在リテハ之ヲ挿入削除シタル上欄外ニ其ノ旨ヲ記載シ捺印ヲ要ス

第二十二條 歳入簿歳出簿現金受拂簿其ノ他計算ノ連續スル簿記ニシテ誤謬ヲ發見シタルトキハ最終記帳ノ次ニ其ノ事由ヲ記シテ計算ヲ更正シ當該誤謬ノ箇所ニハ其ノ事由及計算ヲ更正シタル年月日ヲ欄外ニ朱記シ收入役之ニ認印スヘシ

第二十三條 支出證憑書類ハ科目毎ニ記帳ノ順序ニ依リ編綴スヘシ收入濟ニ係ル徵稅令書納額告知書納付書及之ニ類スル書類ハ別ニ規定アルモノヲ除ク外科目毎ニ一日分ヲ一括シテ表紙(第三十一號様式)ヲ附シ之ヲ保存スヘシ

第二十四條 市(町村)ノ經濟ニ屬セサルモノ及他ノ法令等ニ依リ別ニ帳簿ノ規定ナキ出納ハ雜部金整理簿(第三十二號様式)ニ依リ整理スヘシ

第二十五條 諸帳簿ハ會計年度毎ニ之ヲ調製スヘシ

特別會計ニ屬スルモノハ各別ニ帳簿ヲ設ケ整理スヘシ

前二項ノ規定ハ第十九條第一項第二號乃至第五號ノ臺帳及第二十四條ノ帳簿ニハ之ヲ適用セス

第二十六條 財産ノ賣却貸與工事ノ請負物件勞力其ノ他ノ供給ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一、特定ノ人又ハ會社ノ專有スル物件ヲ買入又ハ借入ルルトキ

- 二、物件ノ性質若ハ使用ノ目的ニ依リ特定ノ製産所又ハ生産者ヨリ直接ニ買入若ハ借入ヲ要スルトキ
 - 三、何圓未滿ノ工事ノ請負及何圓未滿ノ物件ノ買入又ハ借入ヲ爲ストキ
 - 四、何圓未滿ノ物件ヲ賣渡ストキ
 - 五、有價證券又ハ株券ヲ買入ルトキ
 - 六、相手方カ官公署公共團體又ハ公益法人若ハ之ニ準スヘキ營利ヲ目的トセサル團體ナルトキ
 - 七、競争入札ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ再入札ニ付スルモ尙落札者ナキトキ
 - 八、職工又ハ人夫ヲ傭入ルトキ
 - 九、前各號ノ外市(町村)會ノ同意ヲ得タルトキ
- 物件ノ修繕ニ關シテハ前項ノ規定ヲ準用ス
- 第二十七條 財産ノ賣却貸與工事ノ請負物件勞力其ノ他ノ供給ニ就テハ前條ニ定ムルモノノ外埼玉縣會計規則第五章同施行細則第三章工事執行規程及「工事請負規程」ヲ準用ス
- 第二十八條 出納例月検査ハ毎月十日之ヲ執行スヘシ其ノ休日ニ當ルトキハ順次之ヲ繰下ク
- 第二十九條 出納検査ハ其ノ前日迄ノ收支ニ付總テノ會計帳簿書類ニ依リ出納ノ適否ヲ査閱スヘシ
- 第三十條 出納検査ヲ了シタルトキハ現金受拂簿中ニ検査月日ヲ記載シ例月検査ニ在リテハ市(町村)長臨時検査ニ在リテハ市(町村)長及立會議員捺印スヘシ

附 則

本規程ハ大正何年度ヨリ之ヲ施行ス
 従前ノ本市(町村)會計規程ハ大正何年度限り之ヲ廢止ス

第一號様式ノ甲

大正何年度	何册ノ内第何號
市(町村)税地租附加税(何々)徴收簿	
何市役所 (何町「村」役場)	

地租附加税	
徵稅令 書番號	納稅人又ハ納稅 管理人名
一 何 某	
上 半 期	下 半 期
本 稅 額 摘 要 其他地 其他地	本 稅 額 摘 要 其他地 其他地
稅 額	稅 額
收 入 日 何 月 何 日	收 入 日 何 月 何 日

何某納稅管理人	某	其他地	何月何日	其他地	何月何日
何	某	其他地	何月何日	其他地	何月何日

備考

- 一、本稅額ハ上半期ト下半年期ノ同額ナルトキハ下半年期分ハ「同」ト記載シ金額ノ記載ヲ省略スルコトヲ得
- 二、摘要欄ニハ納期日ヲ繰上ケタルコト、公示送達ノ方法ニ依リ納稅命令ヲ爲シタルコト、誤調其ノ他ニ依ル稅額ノ増減延納許可期限又ハ滯納整理簿ニ移記シタルコト其ノ他徵收上ノ特殊ノ事項ノ要旨ヲ記載シテ市(町村)長認印シ追納又ハ還付ヲ爲シタルトキハ收入役ハ其ノ月日ヲ記載シ認印スヘシ但シ其ノ件數多クシテ整理上不便ト認ムルモノニ在リテハ市(町村)長ハ便宜整理簿ヲ設クルコトヲ得
- 三、本樣式ハ二期分ノ場合ヲ示シタルモノニ付其ノ他ノ場合ニハ之ニ準シ調製スヘシ但シ各期必スシモ縦ニ記載スルヲ要セス之ヲ横ニ並列スルコトヲ得
- 四、本樣式中收入月日印欄ノ印ハ收入役收入代理者又ハ收入役事務兼掌者ノ認印トス
- 五、前項收入月日ノ記入及收入役ノ印ハ⁴¹收入役印ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
- 六、徵收簿ハ適宜分冊スルコトヲ得此ノ場合ハ表紙ニ「何冊」ノ内第何號ト記註スヘシ
- 七、本樣式各欄ノ大小ハ記載事項捺印等ヲ斟酌シ適宜之ヲ定ムヘシ
- 八、前四項ノ規定ハ本規程ノ他ノ樣式ニ就キ之ヲ準用ス
- 九、地租附加稅以外ノ各徵收簿ハ別ニ規定アルモノ、外總テ本樣式ニ準シ調製スヘシ
- 十、隨時徵收ニ係ル市町村稅ノ徵收簿ハ別ニ調製シ表紙ニ「市(町村)稅隨時徵收簿」ト記載シ冊中稅目別ニ口座ヲ設クヘシ

地租附加稅上半年合計表

地租附加稅上半年合計表	大正何年度歲入		市(町村)稅	項一	地租附加稅	目一	地租附加稅
	賦課率	一圓ニ付					
何月何日現在地租總額	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日
宅地租.....	宅地租附加稅.....	宅地租附加稅.....	宅地租附加稅.....	宅地租附加稅.....	宅地租附加稅.....	宅地租附加稅.....	宅地租附加稅.....
其他土地々租.....	其他土地々租附加稅.....	其他土地々租附加稅.....	其他土地々租附加稅.....	其他土地々租附加稅.....	其他土地々租附加稅.....	其他土地々租附加稅.....	其他土地々租附加稅.....
合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計

要 摘	納人又ハ納税ノ管理人ノ氏名		何 某		徵稅令 番號	市縣 (町村)稅 雜稅 種稅 附加稅 月稅	
	合 計	市 村 稅 町	縣 稅	遊 藝 師 匠 稅			種 別
月 二 十	月 八	月 四	別 期	稅 額	印 月 收 入	何 月 何 日	
月 一	月 九	月 五	別 期	稅 額	印 月 收 入	何 月 何 日	
月 二	月 十	月 六	別 期	稅 額	印 月 收 入	何 月 何 日	
月 三	月 十 一	月 七	別 期	稅 額	印 月 收 入	何 月 何 日	
			印 月 收 入				

備考
一、乙號様式ノ地租附加稅徵收簿様式備考第二項乃至第四項ハ本様式ニ準用ス
二、戶數割雜種稅及其ノ附加稅ノ徵收簿ハ本様式ニ準シ調製スヘシ

要 摘	納人及納税ノ管理人ノ氏名		何 某		徵稅令 番號	市縣 (町村)稅 營業稅 附加稅
	合 計	市 村 稅 町	縣 稅	種 別		
			別 期	稅 額	印 月 收 入	上 半 期
			別 期	稅 額	印 月 收 入	下 半 期
			印 月 收 入			

納額告知書 番號	月額金	何程	一 摘要		納人	何
			期別及收入 月日印	何月何日		
			四月 分十月	五月 分十一月	高等小學校第何學年生何某分	業 某
			六月 分十二月	七月 分一月		
			八月 分二月	八月 分八月		
			九月 分三月	九月 分九月		

備考

一、摘要欄ニハ中途入退學シタル者ノ年月日、月額ノ増減、追徴還付、及滯納整理簿ニ移記シタル等ノ事項ノ要旨ヲ記載スヘシ

學校授業料何月分合計表

市(町村) 長命令印	月日	摘要	大正何年度		納入額	收入未済額
			何月何日	何月何日		
①	何月何日	調定總額		何月何日	何月何日	何月何日
②	何月何日	何某外何人納		何月何日	何月何日	何月何日
③	何月何日	何某外何人調定增額		何月何日	何月何日	何月何日
④	何月何日	何某外何人調定減額	△	何月何日	何月何日	何月何日
⑤	何月何日	何某外何人ニ還付		何月何日	何月何日	何月何日
⑥	何月何日	何某外何人納		何月何日	何月何日	何月何日
⑦	何月何日	何某外何人滯納整理簿ニ移記		何月何日	何月何日	何月何日
合計	何月何日		△	何月何日	何月何日	何月何日

備考

一、本合計表ハ學校授業料收入簿口座ノ前ニ附設スヘシ
二、△印ハ朱記スヘシ

第五號様式ノ二

第	號	大正何年度	納	何
納額告知書		一金何程 高等小學校第何學年生何某分 有毎月(八月ヲ除ク)何日限本市(町村)收入役へ納付スヘシ 大正何年何月何日 何市(町村)長 氏 名 印		
要 摘				
領 收 證 四月 何年何日 印 七月 分 十月 分 一月 分 五月 分 八月 分 十一月 分 二月 分 六月 分 九月 分 十二月 分 三月 分 業 休				

備考

一、摘要欄ニハ中途入學ヲ爲シタル者ノ年月日、月額ノ増額、追徴還付ニ關スル事項ノ要旨ヲ記載スヘシ

第六號様式

第	號	大正何年度	納	何
納付書		一金何程 右納付ス 大正何年何月何日 何市(町村)長 殿 何寄附金(何々) 住 所 氏 名 印		
領 收 證				
第 號 大正何年度 納 何 一金何程 何々 右領收ス 大正何年何月何日 何市(町村)收入役 氏 名 印				

備考

一、市役所(町村役場)ニ此ノ様式ノ用紙ヲ備ヘ納入ヲシテ使用セシムルモノトス
 二、第二號様式備考第三項ハ本様式ニ準用ス
 三、納入ニ於テ本用紙ヲ使用セス別ニ納付書ヲ提出シタルトキハ其ノ納付書餘白ニ番號、年度、種目ヲ朱記シ本様式ニ依ル領收證ヲ交付スヘシ

第六章 町村ノ財務

第一款 財務一般

第八號様式

三、現品合計表ハ本様式ニ準シ調製スヘシ
四、夫役現品徴收簿様式備考第三項及第四項ハ本様式ニ準用ス
五、急迫ノ場合ニ於テ賦課シタル夫役現品ノ換算金額ハ督促ヲ爲ス際ニ調定スヘシ

書令課賦役夫

第 號	大正何年度	義務者	何
一夫役何人	何々用役		
此換算金何程一人ニ付何程 右大正何年何月何日(ヨリ何日迄)何所へ出役スヘシ但シ出役時間ハ(毎日)午前何時ヨリ午後何時迄トス 金錢ヲ以テ代納セムトスル者ハ大正何年何月何日限本市(町村)収入役へ納付スヘシ 大正何年何月何日			
収入役又ハ 主務吏員印		何市(町村)長 氏	
		名 印	

義務履行行濟證

第 號	大正何年度	義務者	何			某
			夫役何人	何	何	
換算金何程	何	何	出役月日	出役員數	主務吏員印	何月何日
			何月何日	何	何	何月何日
夫役何人	何	何	何月何日	何	何	何
			何月何日	何	何	何
金何程	何	何	大正何年何月何日	領收	役印	收入
			何	何	何	何

備考

- 一、賦課ノ全部履行済ノトキハ履行済證ヲ切離シテ義務者ニ交付シ尙未了ノ分アル間ハ其ノ履行済高ヲ記入シ證印シテ其ノ儘義務者ニ返付スヘシ
- 二、主務吏員ハ前項後段幾分履行ノ人別調書ヲ調製シ前段ノ令書(前日ノ殘高履行ノ者ハ當日履行高ヲ令書餘白ニ記載シ認印ヲ要ス)ト共ニ一日分ヲ一括シテ月日及合計ヲ表記シ收入役ニ送付スヘシ收入役ハ之ニ依リ記帳ヲ爲スヘシ
- 三、現品賦課令書ハ本様式ニ準シ調製スヘシ
- 四、急迫ノ場合ニ賦課シタル夫役ノ賦課令書ニハ換算金額ニ關スル事項ハ之カ記載ヲ要セス

第九號様式

督 促 令 狀

第 號	大正何年度	人納	何
一金何程	市(町村)税地租附加税何期分(何々)		
一金何程	督促手數料		
一金何程	督促増手數料		
納期限ノ翌日ヨリ税金額	延滞金		
百圓ニ付一日(參)錢ノ割合ニ依ル金額			
右大正何年何月何日限本市(町村)収入役へ納付スヘシ			
指定期限迄ニ税金及督促手數料ヲ完納シタルトキハ延滞金ヲ徴收セス			
指定期限ヲ過キ完納セサルトキハ直ニ其財産差押ノ處分ヲ爲スヘシ			
大正何年何月何日	何市(町村)長 氏		名 印

收入 役印

領	第 何 號	大 正 何 年 度	納 人	何	某
收	一金 何 程			市(町村)稅地租附加稅何期分(何々)	
證	一金 何 程			督 促 手 數 料	
	右 領 收 ス			督 促 增 手 數 料	
	大正何年何月何日				
			何市(町村)收入役 氏		
				名 剛	

備考

- 一、同一人ニシテ二口以上ノ滞納金アルモノハ列記スルコトヲ得
- 二、明治三十三年三月勅令第八十一號第七條ノ二(市制町村制施行令第四十五條)第一項第一號乃至第三號ニ該當スルモノハ延滞金ニ關スル事項ハ之カ記載ヲ要セス
- 三、延滞金ヲ徵收スルトキハ督促令狀及其ノ領收證中ニ第十一號様式ノ延滞金徵收印ヲ押捺シ延滞日數及金額ヲ記入スヘシ
- 四、延滞金ヲ徵收セサル決定ヲ爲シタルモノハ督促令狀及其ノ領收證中ニ 延滞金不徵收決定ノ押印ヲ爲スヘシ

第十號様式

督 促 印



備考

- 一、本印判ハ市(町村)稅其ノ他市町村ノ收入ヲ督促スルトキ徵收簿又ハ稅外收入簿中當該納人ノ部ノ摘要欄ニ朱印スヘシ但シ摘要欄ニ餘白ナキ場合ハ稅額等ノ欄ニ押捺スルモ妨ケナシ
- 二、此ノ印判ノ上部ニハ督促令狀發布月日ヲ下部ニハ督促狀ニ指定スル納入期日ヲ記入スヘシ
- 三、增手數料ヲ徵收スル場合ハ本印判ノ中央ニ例示シタル如ク其ノ金額ヲ記載シ二口以上ノ滞納金ヲ一通ノ督促令狀ニ列記スル場合ニ於テ手數料ヲ徵收セサル分ニ付テハ本印判ノ中央ニ「無」ト記入スヘシ
- 四、本印判内ニ記入スヘキ文字ハ朱記スヘシ

第十一號様式

延滞金徵收印

延 滞 日 數 何 日
延 滞 金 何 程

分 五 幅

豎 一 寸

備考

- 一、本印判ハ延滞金ヲ徵收スルトキ徵收簿又ハ稅外收入簿中當該納人ノ部ノ摘要欄ニ朱印スヘシ但シ摘要欄ニ餘白ナキ場合ハ稅額等ノ欄ニ押捺スルモ妨ケナシ
- 二、本印判内ニ記入スヘキ文字ハ朱記スヘシ
- 三、延滞金ヲ徵收セサル決定ヲ爲シタルモノハ 延滞金不徵收決定ノ押印ヲ爲スヘシ

第十六號樣式
檢稅吏證票

表

第何號

檢稅吏證票

市役所
(町村役場)印

豎三寸

裏

何市(町村)職氏名

寸二幅

第十七號樣式

第 大正何年何月何日	號	市(町)長 支命 令印		大正何年何月何日	大正何年度歲出經常部(臨時部)	何々項何々目何々	考
		種別及名稱	員數				
一金何	內譯	種別及名稱	員數	單價	小計	備	考
右請求ス	大正何年何月何日	住所	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名
右領收ス	大正何年何月何日	何市(町村)長	殿	殿	殿	殿	殿
領收	何市町村收入役	印紙入	何市町村收入役	殿	殿	殿	殿

備考

- 一、番號ハ科目毎ニ支出命令ノ順ニ依リ附スヘシ
- 二、請求金内譯ノ複雑ナルモノハ別ニ内譯書ヲ添付セシムヘシ

第六章 町村ノ財務 第一款 財務一般

- 三、備考欄ハ各欄ニ記載スル以外ノ必要事項ヲ記載セシムルモノトス
- 四、豫算費目ノ流用豫備費支出ノ場合ハ請求書欄外ニ左ノ如ク朱記シ市(町村)長認印スヘシ
金何程 本款第何項何々第何目何々ヨリ流用支出スヘシ㊦
- 金何程 豫備費ヨリ支出スヘシ印
- 五、誤拂過渡ヲ返納セシムルトキハ當該領收證ノ餘白ニ其ノ事由金額返納告知書發布日附及之ヲ收入スヘキ旨ヲ附記シテ市(町村)長認印スヘシ
- 六、特ニ調整シタル領收證ヲ提出シタル場合ハ領收證欄ハ朱線ヲ以テ抹消スヘシ
- 七、市役所(町村役場)ニ此ノ用紙ヲ備ヘ請求者ヲシテ使用セシムルモノトス

第十八號様式

支出命令印

第	號	支市(町村)長	命令印
年	月	日	㊦
歳出	經常部		
	(臨時部)		
目	項	款	

備考

- 一、本印判ハ請求書ノ餘白ニ押捺スヘシ
- 二、「はかき」等ノ如キ用紙ノ小ナル請求書ニシテ本印判ヲ押捺スル餘白ナキモノハ白紙ニ貼付シ白紙ト請求書ニ市(町村)長契印ヲ爲シタル上本印判ヲ使用スヘシ
- 三、第十七號様式備考第一項及第五項ハ本様式ニ準用ス

第十九號様式

第	號	支市(町村)長	命令印
大正何年何月何日			
一金何程	内譯	種別及名稱	員數
			單價
			小計
			備考
大正何年何月何日			
右領收ス			
收入印紙			
何市(町村)收入役			
大正何年何月何日			
住所			
氏名			
何某渡(何所納)			

備考

- 一、第十七號様式備考第一項乃至第六項ハ本様式ニ準用ス

大正何年度	
收支整理簿	
何市役所 (何町村)役場	

支出命令 番 號	受 領 者	摘 要	大正何年度		出 經 常 部 (臨時部)	
			現 金 前 渡 額	精 算 額	追 渡 額	戻 入 額
一五〇	何 某	何	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日
一二八	小學校長 某	何所へ小學校生徒修學旅行費(何々)	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日
二〇〇	何 某	何	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日

備考

- 一、本簿ハ科目毎ニ口座ヲ設ケヘシ
- 二、支出命令番號ハ請求書又ハ支出決定書記載ノ番號ヲ記入スヘシ
- 三、出納閉鎖後ノ戻入ハ摘要欄ニ「何年度歳入第何款何々第何項何々第何目何々」ニ戻入「ト」記載シ市(町村)長認印スヘシ
- 四、精算濟ノ上該當ナキ欄ニハ朱線ヲ填充スヘシ
- 五、追拂又ハ戻入ヲナシタルトキハ現金前渡領收證ノ欄外ニ「何月何日精算濟」トシ收入役認印スヘシ
- 六、精算書及追拂領收證ハ現金前渡領收證ニ添綴スヘシ
- 七、概算拂ノ整理簿ハ本様式ニ準シ調製スヘシ

支出命令 番 號	受 領 者	摘 要	大正何年度		出 經 常 部 (臨時部)	
			現 金 前 渡 額	精 算 額	追 渡 額	戻 入 額
一〇〇	何 某	何行旅病人ニ要シタル人夫賃	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日

備考

- 一、現金前渡整理簿様式第一項乃至第五項ハ本様式ニ準ス
- 二、徴兵旅費繰替金ノ如キ戻入チ一回ニ爲シ得ルモノハ戻入命令印欄以下ハ二欄トスルヲ要セス

第二十一號様式

戻入告知書

第 號	大正何年度	戻入人	何
一金何程		何々戻入金	
但シ何々			
右大正何年何月何日限本市(町村)收入役へ戻入スヘシ			
大正何年何月何日			
		何市(町村)長	氏
		名	團

領收証

第 號	大正何年度	戻入人	何
一金何程		何々戻入金	
但シ何々			
右領收ス			
大正何年何月何日			
		何市(町村)收入役	氏
		名	團

備考

- 一、番號欄ニハ支出命令番號ヲ記入スヘシ其ノ數口ニ亘ルモノハ最後ノ支出命令番號ニ依ルヘシ
- 二、戻入ヲ要スル事由ハ但書トシテ記載スヘシ
- 三、領收済ニ係ル戻入命令書ハ支出領收証ニ添綴スヘシ支出領收証數口ニ亘ルトキハ最後ノ領收証ニ添綴スルモノトス

第二十二號様式

大正何年度
歳入簿

何市役所
(何町「村」役場)

款	項	種	目	丁
財産ヨリ生スル收入	基本財産收入	貸地	料	一
	小學校基本財産收入	小作	料	二
				三
				四
				五

現金受拂簿		項目		種目		収入額		収入計		支拂額		支拂計		現在額	
月日	市(町村)税	附加税	地租	附加税	収入額	収入計	支拂額	支拂計	現在額	日計	何月何日	日計	何月何日	日計	何月何日
	役場費	報酬	町(村)長報酬	區長報酬
	戸數割	戸數割	戸數割

備考
 一、収入額及支拂額ハ種目毎ニ當日ノ合計額ヲ記載スヘシ
 二、累計収入額累計支拂額及現金現在額ハ日計ニ限リ記載スヘシ
 三、一時借入金、翌年度歳入繰上充用金ノ如ク豫算ナキモノハ款項目欄ニ其ノ名稱ヲ記載スヘシ
 四、一時借入金ノ償還(利子ヲ除ク)過納金ノ還付ハ収入額欄ニ誤拂過渡金現金前渡概算拂替金ノ戻入ハ支拂額欄ニ其ノ額ヲ朱書シ日計欄ニ於テ累計収入額及現金現在額ヲ更正スヘシ

第二十五號様式

大正何年度	郵便切手受拂簿	何市役所 (何町「村」役場)
-------	---------	-------------------

郵便切手受拂簿		摘要		受高		使用高		残高		収入印	
市(町村)長認印	月日	摘要	受高	使用高	残高	収入印	市(町村)長認印	月日	摘要	受高	収入印
印	何月何日	前年度ヨリ繰越	印	印	何月何日	買入	印
印	何月何日	何々ニ付使用	印	印	何月何日	印
印	何月何日	翌年度へ繰越	印	印	何月何日	印

金 圓		年月日	收入額	支出額	預入額	回收額	現 在 額	摘 要
何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	
.....	條例第何條第何項ニ依ル何年度積立額
.....	何某指定寄附金積立
.....	郵便貯金何々郵便局へ預ケ入
.....	郵便貯金利子何年何月ヨリ何月迄ノ分積立貯金通帳登記受入
.....	郵便貯金ノ内拂戻
.....	何々債額面何百圓買入ノ爲メ支出

備考 一、土地建物有價証券金圓共基本財産小學校基本財産其他種類ノ異ナル毎ニ區別シテ整理スルモノトス

公 用 財 産 ノ 部

地 土	用途 (役場) 敷 地	摘 要
何縣何郡(市)何町(村)大字 何々字何々何番 一宅地何百何十坪		一、何年何月何日何某ヨリ寄附(代金何程ヲ以テ何某ヨリ買受) 同年何月何日所有權移轉登記済
		一、何年何月何日免租トナル

建 物	用途 (役場) 廳 舍	摘 要
何縣何郡(市)何町(村)大字 何々字何々何番宅地上 一木造平家建 此建坪何坪 附屬建物 木骨土藏造倉庫 此建坪何坪	壹棟 壹棟	一、何年何月何日新築 一、何年何月何日附屬倉庫新築
	壹棟	

備考

一、本口座ニハ基本財産以外ノ財産ヲ記載スルモノトス但シ備品、消耗品ハ此ノ帳簿ニ記載スヘカラス
二、學校、病院、病舎等ノ敷地及建物ハ役場敷地、建物ノ例ニ準シ記載スルモノトス

第六章 町村ノ財務 第一款 財務 一般

積立金穀ノ部

積立金穀ノ部	
--------	--

年月日	穀類		現在高	貸付高	摘要
	收入高	支出高			
何年何月何日	石	石	石	石	何某外何人ヨリ代金何程ヲ以テ買入タリ
何年何月何日	何某外何人へ貸付
何年何月何日	何年何月何日賣却ノ件知事ノ許可ヲ受ケ代金何程ヲ以テ何某へ賣却セリ
何年何月何日	何某外何人ヨリ返済

備考

一、本口座ニハ役場建築費積立金小學校建築費積立金ノ如キ後ニハ元資ヲモ支出スル目的ヲ以テ積立ツルモノヲ登記スヘシ
 二、金圓ニ對スル様式ハ基本財産ノ例ニ準シ調製スヘシ

第二十八號様式

市(町村)債臺帳

何市役所 (何町村「役場」)

議決年月日	何年何月何日
許可年月日及番號	何年何月何日何第何號
債權者	何府(縣)何郡(市)何町(村)大字何々何番地
住所氏名	何 某(何々銀行)
借入年月日	何年何月何日
借入金額	何千何百圓
費途	小學校建築費(何々)
利率	年何分(百圓ニ付日歩何錢何厘)
償還財源	市(町村)稅(何々)

第三十號様式

契 臺 帳 印	第何號	退隱料證書	住所	元何市(町村)何職何	某
		退隱料年額金何程			
		本市(町村)有給吏員退隱料條例ニ依リ前記ノ退隱料ヲ受クヘキコトヲ認メ此ノ證書ヲ交付ス			
		大正何年何月何日			
		埼玉縣何市(何郡何町村)長 氏			名 團

備考

一、遺族扶助料證書ハ此ノ様式ニ準シ調製スヘシ

第三十一號様式

年	月	日	大正何年何月何日
年	度	大正何年度	
種	目	地租附加税(何々)	
紙	數	何	通
合	計	金額	何程

備考

一、本用紙ニ換フルニ本様式ニ準シタル印判ニ依ルコトヲ得

第三十二號様式

市(町村)長認印		雜部金整理簿		要		受		高		拂		高		殘		高		認收入役印	
年	月	日	摘	受	高	拂	高	殘	高	認	入	役	印	何年何月何日	何々何某ヨリ受	何々何某渡	何々何某渡	何年何月何日	何年何月何日
				円	円	円	円	円	円	円	円	円	円						

備考

一、本簿ハ市(町村)經濟、國府縣其他公共團體ニ屬スル收支ニシテ市(町村)ニ屬スル出納市(町村)費ヲ以テ繰替支辨スヘキ費用ノ出納ヲ除キタル隨時他ノ委囑等ニ依リ取扱フ出納ニシテ別ニ帳簿ノ定メナキモノヲ記載整理スルモノトス

二、雜部金ノ徵收受入支拂等ニ關スル證憑書類ハ別ニ一括整理シテ保存スヘシ

第六章 町村ノ財務

第一款 財務一般

○市町村會計規程第二十七條ニ依リ準用セラルヘキ法令

1 縣會計規則(明治四十二年二月)
縣令第九號

第五章 事業請負及物件ノ賣買貸借

- 第二十四條 事業請負及物件ノ賣買貸借ハ總テ競争入札ニ付スヘシ但左ノ場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得(本條ハ準用條項ニアラサルモ參考ノ爲掲ク)
- 一 特定ノ人又ハ會社ノ専有スル物件ヲ買入又ハ借入ルルトキ
 - 二 特ニ急施ヲ要シ競争入札ニ付スル暇ナキトキ
 - 三 物品ノ品質若ハ使用ノ目的ニ依リ特定ノ製産所又ハ製産者ヨリ直接ニ買入若ハ借入ヲ要スルトキ
 - 四 千百圓未滿ノ事業請負及物件ノ買入借入
 - 五 五百圓未滿ノ物件ヲ賣渡ストキ
 - 六 慈善ノタメ設置スル救育所ノ受救者ヲ傭役シ若ハ其製作品ヲ直接ニ買入ルルトキ
 - 七 相手方カ官公署又ハ公共團體ナルトキ
 - 八 試験ノタメ工作製造ヲ命スルトキ
 - 九 公共ノ利益又ハ慈善ノタメナルトキ
 - 十 競争ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ再入札ニ付スルモ尙落札者ナキトキ但當初ノ豫定價格ヲ變更スルコトヲ得
 - 十一 職工人夫ヲ雇傭スルトキ
 - 十二 事實競争ニ付シ難キ場合又ハ競争ニ付スルヲ不利ト認メタルトキ
- 物件ノ修繕ニ關シテハ總テ前項ヲ準用ス

第二十五條 契約ニ依リ事業ノ既濟部分又ハ物件ノ既納部分ニ對シ完濟前ニ代價ノ一部分ヲ仕拂ハントスルトキハ其既濟又ハ既納部分ニ對スル代價ノ十分ノ八以內トス但五百圓未滿ノ事業又ハ物件ノ供給ニ就テハ此限ニアラス

第二十六條 事業請負又ハ物件供給ノ競争ニ加ハラントスル者ハ滿二年以上其事業又ハ物件ノ供給ニ從事スル證明書ヲ有スル者ニ限ル

事業又ハ物件ノ性質ニ依リ前項ノ外特ニ資格ヲ定ムルコトアルヘシ

第二十七條 事業請負又ハ物件賣買ノ競争ニ加ハラントシ若ハ其契約ヲ結ハントスルモノハ現金又ハ有價證券ヲ以テ左ノ保證金ヲ納付スヘシ但有價證券ノ擔保價格ハ別ニ之ヲ定ム

一 入札保證金ハ入札金額ノ百分ノ五以上
二 契約保證金ハ契約金額ノ百分ノ十以上

第二十八條 競争ハ總テ入札ノ方法ニ依リ其入札期日ヨリ少クモ七日以前ニ縣報其他ノ方法ヲ以テ左ノ事項ヲ廣告スヘシ

- 一 競争入札ニ付スル事項
- 二 入札心得書契約書案等ヲ示ス場所及擔任官吏ノ官氏名
- 三 入札執行ノ場所及日時
- 四 入札保證金額
- 五 前各號ノ外必要ノ事項

第二十九條 競争入札ヲナサシムルトキハ其競争ニ付シタル事業又ハ物件ノ價格ヲ豫定シ封書ト爲シテ開札ノ場所ニ備ヘ置クヘシ

第三十條 競争入札ノ執行ハ左ノ手續ニ依ルヘシ

- 一 開札ハ入札者ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ
- 二 入札中豫定價格ニ達シタルモノナキトキハ直ニ入札者ヲシテ再度ノ入札ヲ爲サシム但落札者其落札ヲ辭シタル場合ニ於テハ時宜ニ依リ次札ノ者ヲ以テ落札ト定ムルコトアルヘシ
- 三 落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二名以上アルトキハ更ニ其入札者ヲシテ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシメ尙同價ナルトキハ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ムヘシ

第三十一條 落札者ハ指定ノ期限内ニ契約書ヲ差出スヘシ但其期限内ニ物件ヲ納付シ又ハ賣渡代金ヲ納メタルモノハ此限ニアラス

契約書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 契約事項、金額、保證金額
 - 二 契約事業ノ設計仕様書
 - 三 着手、落成、受渡期限及場所、契約金額仕拂期限
 - 四 延滞違約ノ場合ニ對スル賠償並ニ契約保證金處分ニ關スルコト
 - 五 其他契約ニ基因スル債務負擔ニ關スルコト
- 第三十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル入札ハ之ヲ無効トス但五號乃至九號ニ該當スルモノノ保證金ハ縣ノ所得トス

- 一 本則ノ要件ヲ缺キタルモノ
- 二 入札書ノ金額氏名ヲ改竄シ其箇所ニ捺印セサルモノ
- 三 入札者ノ署名捺印ナキモノ
- 四 入札ノ要件ヲ認知シ難キモノ
- 五 自己及他人ヲ代理シテ入札セサルモノ

- 六 一人ニシテ二人以上ヲ代理シテ入札セシモノ
 - 七 入札者又ハ其代理人開札ノ場所ニ立會ハサルトキ
 - 八 一人ニシテ二通以上同一事項ノ入札ヲ爲シタルトキ
 - 九 落札者其落札ヲ辭シ又ハ期限内ニ契約ヲ締結セサルトキ
- 第三十三條 前條及第二十四條第一項第十號ノ場合ニ於テ更ニ競争入札ヲ執行スルトキハ廣告ノ日限ヲ三日迄ニ短縮スルコトヲ得

第三十四條 時限後ノ入札又ハ入札ノ引換其他入札ノ取消訂正等ノ請求ハ一切之ヲ許サス

第三十五條 請負人故意若ハ怠慢ニヨリ事業又ハ物件ヲ粗悪ニシ又ハ契約期限内ニ竣功若ハ納付ノ見込ナシト認メタルトキハ解約スルコトアルヘシ

第三十六條 前條ニ依リ契約ヲ解除シタルトキハ保證金ヲ沒收シ請負金額百分ノ一ニ相當スル違約金ヲ徵收シ且縣ノ受ケタル損害ヲ賠償セシム此場合ニ於テハ請負金額ハ知事又ハ麻長決定交付ス

第三十七條 請負人故意若ハ怠慢ニヨリ契約期間ニ其義務ヲ履行セサルトキハ其期限ノ翌日ヨリ一日毎ニ請負金額二百分ノ一ニ相當スル延滞償金ヲ徵收ス

第三十八條 事業又ハ物件ノ性質ニ依リ適當ナル競争者ヲ得難シト認メタルトキ又ハ無制限ノ競争ニ付スルヲ不利トスルトキハ特ニ二名以上ノ入札者ヲ指名シ競争入札ニ付スルコトヲ得此場合ニ於テハ第二十八條ノ廣告ヲ要セス

第三十九條 隨意契約ノ場合ニ於テハ契約書ヲ省略シ保證金ヲ徵セサルコトヲ得

第四十條 賣却シタル物件ハ其代金完納前ニ之ヲ引渡スコトヲ得但左ノ場合ハ此限ニアラス

- 一 官公署又ハ公共團體ニ賣却シタルトキ
- 二 代金ニ相當スル保證金ヲ納メタルトキ

- 三 保管ニ費用ヲ要シ又ハ保管ニ困難ナル物件ニシテ其代金不納又ハ滯納ノ虞ナキトキ
 - 四 代金完納前特ニ物件ノ引渡ヲ爲スノ必要アリタルトキ
- 第四十一條 土木建築工事請負及之ニ要スル物件供給ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

2 縣會計規則施行細則 (明治四十二年二月 縣訓令第七號)

第三章 事業ノ請負及物件ノ賣買貸借

第二十三條 競争入札ニ付シ事業ノ請負ヲ爲サシメ又ハ物件ノ賣買貸借ヲ爲サントスルトキハ其事項ノ設計仕様書又ハ見本等ヲ入札前希望者ニ熟覽セシムヘシ

第二十四條 入札心得書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 入札書式
- 二 入札保證金額
- 三 落札者ノ契約ヲナスヘキ期限
- 四 契約書案
- 五 工事又ハ物件ノ受渡及代價ノ仕拂納付期限納付箇所契約違背ノトキ保證金處分ニ關スルコト
- 七 入札ノ有效無効ハ擔任者ノ定ムル處ニ從フヘキコト
- 七 其他必要ノ事項

第二十五條 隨意契約ニ依リ事業ノ請負ヲ爲サシメ又ハ物件ノ賣買貸借ヲ爲サントスルトキハ設計仕様書又ハ見本等ヲ示シ成ルヘク二人以上ヨリ見積書ヲ徵シ事業ノ請負物件ノ買入借入ノ場合ハ最低價格賣渡ノ場合ハ最高價格ノ見積者ト契約スヘシ

第二十七條 見積書ニハ品目數量價格納期納付場所納人ノ住所氏名ヲ記シ捺印セシムルモノトス

第二十八條 事業及物件ノ檢收ヲ爲スヘキ擔任者ハ設計仕様書見本ト對照シ受領ノ手續ヲ爲スヘシ

3 工事執行規程 (大正十五年十二月 縣令第三百三十六號)

第一條 縣費ヲ以テ支辨スヘキ道路以外ノ工事執行ニ關シテハ大正九年十一月內務省令第三十六號道路工事執行令ヲ準用ス

附 則

第二條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

4 道路工事執行令 (內務省令第三十六號 大正九年十一月八日)

第一條 道路工事執行ノ方法ハ直營及請負トス

第二條 左ニ掲クル場合ニ於テハ直營トナスヘシ

- 一 請負ニ付スルヲ不適當ト認ムルトキ
- 二 急施ヲ要シ請負ニ付スルノ暇ナキトキ
- 三 請負契約ヲ締結スルコト能ハサルトキ
- 四 特ニ直營ト爲スノ必要アリト認ムルトキ

第三條 請負ニ付セムトスルトキハ一般競争入札ニ付スヘシ

第四條 左ニ掲クル場合ニ於テハ三名以上ヲ指名シ競争入札ニ付スルコトヲ得

- 一 一般競争入札ニ付スルヲ不適當ト認ムルトキ
- 二 急施ヲ要シ一般競争入札ニ付スルノ暇ナキトキ
- 三 一般競争入札ニ付スルモ入札人ナキトキ又ハ落札人ナキトキ

- 四 特ニ指名競争入札ニ付スルノ必要アリト認ムルトキ
- 第五條 左ニ掲クル場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得
- 一 競争入札ニ付スルヲ不適當ト認ムルトキ
 - 二 急施ヲ要シ競争入札ニ付スルノ暇ナキトキ
 - 三 競争入札ニ付スルモ入札人ナキトキ又ハ落札人ナキトキ
 - 四 豫定價格國道、府縣道、地方費道又ハ道路法第十七條但書ノ規定ニ依ル市ノ市道ニ在リテハ二千圓未満〔郡道〕、準地方費道、道路法第十七條但書ノ規定ニ依ラサル市ノ市道又ハ區道ニ在リテハ千圓未満町村道ニ在リテハ五百圓未満ナルトキ
 - 五 競争入札ニ付スルコト能ハサルトキ
- 第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ入札人若ハ請負人又ハ其ノ代理人トナルコトヲ得ス
- 一 無能力者
 - 二 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨濟ヲ了ヘサル者
 - 三 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
 - 四 六年未満ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者
 - 五 責付又ハ保釋中ノ者
 - 六 入札又ハ請負ニ關シ不正ノ行爲アリタル後二年ヲ經過セサル者
- 道路管理者ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外市區町村ト請負契約ヲ締結スルコトヲ得ス
- 第七條 一般競争入札ハ入札期日ヨリ五日前入札ニ必要ナル事項ヲ公告スヘシ
- 第八條 入札人ハ左ニ掲クル要件ヲ具備スルコトヲ要ス但シ道路管理者ニ於テ相當ト認ムル學識經驗ヲ有スル技術者ヲシテ工事ヲ擔當セシムルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

- 一 引續二年以上土木請負業ニ從事スルコト
 - 二 其ノ他地方長官ノ定ムル要件
- 第九條 入札ヲ爲サムトスル者ハ入札金額ノ百分ノ三以上ノ入札保證金ヲ納付スヘシ但シ指名競争入札又ハ豫定價格二千圓未満ノ工事ニ付テハ之ヲ減免スルコトヲ得
- 第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル入札ハ之ヲ無効トス
- 一 本令、本令ニ基キテ發スル命令又ハ道路管理者ノ定ムル入札條件ニ違反シタルトキ
 - 二 入札人又ハ其ノ代理人二以上ノ入札ヲ爲シタルトキ
 - 三 入札人協定シテ入札ヲ爲シタルトキ
 - 四 入札ニ際シ不正ノ行爲アリタルトキ
- 第十一條 入札人中豫定價格以內ニシテ豫定價格ノ三分ノ二ヲ下ラサル最低價格ノ入札ヲ爲シタル者ヲ以テ落札人トス但シ設計附入札ニ在リテハ設計及入札金額ニ依リ落札人ヲ定ム
- 同一ノ入札アリタルトキハ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ム
- 落札人ナキトキハ直ニ再入札ニ付スルコトヲ得
- 第十二條 落札人ハ落札ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ五日內ニ道路管理者ト請負契約ヲ締結シ契約書ヲ作成スヘシ
- 落札人前項ノ期間內ニ請負契約ヲ締結セサルトキハ落札ハ其ノ效力ヲ失フ
- 第十三條 請負人ハ請負金額ノ百分ノ十以上ノ契約保證金ヲ納付スヘシ但シ指名競争入札又ハ隨意契約ノ方法ニ依リ請負契約ヲ締結スル場合ニ在リテハ之ヲ減免スルコトヲ得
- 第十四條 入札保證金及契約保證金ハ國債證券、地方債證券、勸業債券、農工債券、拓殖債券、興業債券其ノ他道路管理者ニ於テ適當ト認ムル有價證券ヲ以テ代用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ國債證券ハ其ノ額面金額ニ依リ其ノ他ハ該地方ニ於ケル前月市場價格ノ十分ノ八ヲ以テ之ヲ換算ス

第十五條 入札保證金ハ入札終了後之ヲ還付ス但シ落札人ニ對シテハ契約保證金納付ノ際之ヲ還付ス

第十六條 請負人ハ工事完成後之ヲ還付ス但シ契約ニ依リ擔保義務終了迄其ノ全部又ハ一部ヲ留保スルコトヲ得

第十七條 請負人ハ道路管理者ノ承諾ヲ得シテ工事ノ執行ヲ他人ニ委託スルコトヲ得

第十八條 請負人ハ工事ノ執行ニ付道路管理者ノ指揮監督ニ從フヘシ

第十九條 請負人天災事變其ノ他正當ノ事由ニ依リ契約期間内ニ工事ヲ竣功スルコト能ハサルトキハ道路管

理者ニ期間ノ延長ヲ求ムルコトヲ得

第二十條 契約期間内ニ工事ヲ竣功セサルトキハ遲延日數一日ニ付請負金額千分ノ一ノ違約金ヲ徵收ス

前項ノ違約金ハ請負金額中ヨリ之ヲ控除ス

第二十一條 左ニ掲クル場合ニ於テハ道路管理者ハ契約ヲ解除スルコトヲ得

一 契約期間内ニ工事竣功ノ見込ナキトキ

二 工事ノ執行ニ付不正ノ行爲アリタルトキ

三 正當ノ事由ナクシテ管理者ノ指揮監督ニ從ハサルトキ

四 本令ニ基キテ發スル命令又ハ契約ニ違反シタルトキ

第二十二條 前條ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタルトキハ工事ノ既成部分ニ對シ道路管理者ニ於テ相當ト認ム

ル金額ヲ交付ス契約無効ノ場合亦同シ

第二十三條 入札ニ付不正ノ行爲アリタルトキ又ハ第十二條第二項ノ規定ニ依リ落札其ノ效力ヲ失ヒタルト

キハ入札保證金ヲ沒收ス

第二十一條ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタルトキハ契約保證金ヲ沒收ス請負人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ依リ契約無効トナリタル場合亦同シ

前二項ノ規定ニ依リ沒收シタル保證金ハ道路管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ收入トス

第二十四條 道路管理者ハ請負人ニ對シ工事ノ出來形ニ相當スル金額ノ十分ノ八以內ノ假拂ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 本令ニ規定セサル事項ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

第二十六條 道路法第十八條第二項ノ規定ニ依ル管理者竝道路管理者ニ非サル者ニ於テ工事ヲ執行スル場合

及北海道拓殖費ヲ以テ工事ヲ執行スル場合ハ本令ヲ適用セス

第二十七條 本令ハ工事ニ要スル物件ノ購入借入又ハ勞力供給ノ場合ニ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ大正九年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

5 工事執行細則 (大正十五年十二月二十九日 縣告示第四百三十九號)

第一條 縣費ヲ以テ支辨スヘキ道路以外ノ工事執行細則ニ關シテハ大正十年三月埼玉縣令第二十九號道路工

事執行細則ヲ準用ス

附 則

第二條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

6 道路工事執行細則 (大正十年三月二十九日 埼玉縣令第二十九號)

第一條 道路工事ノ執行ニ關シテハ道路工事執行令以下單ニ執行令ト稱スニ規定スルモノノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 執行令第七條ノ公告ハ縣報新聞紙又ハ揭示其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ公告ニハ左ノ事項ヲ掲クヘシ

- 一 入札ニ附スル事項
- 二 設計書、仕様書、圖面及標本等ヲ示スヘキ場所
- 三 入札及開札ノ場所及日時
- 四 入札保證金
- 五 契約擔當者ノ官職氏名
- 六 其ノ他必要ナル事項

第三條 入札人ハ執行令第八條第一號ニ規定スルモノノ外引續キ二年以上直接國稅年額貳拾圓以上ヲ納ムル者ナルコトヲ要ス但シ家督相續ニ依リ財產ヲ取得シタル者ニ付テハ其ノ財產ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

法人中合名會社ニ在リテハ其ノ社員ノ納稅額ヲ併セ合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ納稅額ヲ併セ前項ノ額ニ達スルヲ以テ足ル

第三條ノ二 工事ノ種類ニ依リ道路管理者ニ於テ必要アリト認ムルトキハ特ニ入札ノ要件ヲ定ムルコトヲ得

第三條ノ三 執行令第八條但書ニ依ル技術者ヲシテ工事ヲ擔當セシムル者ニ在リテハ學事及技術ニ關スル經歷書ヲ提出シ豫メ道路管理者ノ承認ヲ受クヘシ

第四條 入札ヲ爲サムトスル者ハ豫メ設計書、仕様書、圖面並實地ヲ熟覽シタル上執行令第六條第一項第一號乃至第四號同第八條第一號及第三條又ハ第三條ノ二ノ要件ニ關スル市區町村長ノ證明書及入札保證金ニ對スル保管證書ヲ差出スヘシ

前項證明書ハ其ノ證明ノ日ノ屬スル會計年度内ニ於テ執行スル競争入札ニ對シテノミ有效トス但シ證明事項ニ異動アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條ノ二 入札書ハ嚴封ノ上指定ノ時限迄ニ入札人自ラ之ヲ入札函ニ投入スヘシ但シ郵便ヲ以テ入札ニ付

スル旨ヲ指定シタルモノニ在リテハ書留郵便ヲ以テ之ヲ差出スヘシ

代理人ヲシテ入札ニ關スル行爲ヲ爲サシメントスルトキハ委任狀ヲ差出スヘシ

郵便ヲ以テ入札スル場合ニ在リテハ其ノ封皮ニ「何工事入札書在中」ト表示スヘシ

第五條 入札書ハ之ヲ差出シタル後ハ訂正又ハ引換ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 開札ハ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フ但シ入札人一名モ出席セサルトキハ入札ニ關係ナキ官吏又ハ吏員ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ

第六條ノ二 執行令第十一條第二項ノ場合ニ於テ入札人出席セサルトキハ入札ニ關係ナキ官吏又ハ吏員ヲシテ之ヲ抽籤セシム

第六條ノ三 道路管理者ニ於テ必要アリト認ムルトキハ入札ヲ延期シ又ハ停止若ハ取消スコトアルヘシ

第六條ノ四 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ再入札ニ加ハルコトヲ得ス

- 一 第一次ノ入札ヲ爲ササリシ者
- 二 執行令第十條ノ規定ニ依リ無効トナリタル者

第七條 入札保證金ハ落札人ノ都合ニ依リ契約保證金ノ一部ニ充當スルコトヲ得

第七條ノ二 隨意契約ノ場合ニ於ケル契約書ハ見積書若ハ承諾書又ハ商業上ノ習慣ニ從ヘル往復書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第八條 請負人ハ工事ノ施行ニ付日程表ヲ調製シ契約ヲ爲シタル日ヨリ七日内ニ道路管理者ニ差出スヘシ但シ道路管理者ニ於テ其ノ必要ナシト認ムルトキハ此限ニ在ラス

第九條 請負人ハ契約ヲ爲シタル日ヨリ十日内ニ工事ニ着手スヘシ但シ請負期間ハ契約ヲ爲シタル日ヨリ起算ス

工事ニ着手シタルトキハ請負人ハ遲滞ナク道路管理者ニ届出ツヘシ

第十條 天災事變其ノ他正當ノ事由ニ依リ工事ノ着手ヲ延期シ又ハ工事ヲ休止セムトスルトキハ道路管理者ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 請負人ハ工事ヲ施行スヘキ場所ニ在リテ其ノ施行ニ従事スヘシ若シ出場シ難キ事故アルトキハ代理人ヲ定メ主務官吏員ノ承認ヲ受クヘシ

第十二條 工事ニ使用スヘキ材料又ハ納付スヘキ物件ハ主務官吏員ノ検査ヲ受クヘシ

前項ノ検査ニ合格セサルモノハ主務官吏員ノ指定スル期間内ニ他ニ搬出スヘシ

第十三條 工事完成ノ後検査シ難キ部分ハ豫メ主務官吏員ノ検査ヲ受ケ施行スヘシ

第十四條 道路管理者ヨリ交付ヲ受ケタル工使用物件ハ之ヲ請負人ニ於テ保管スヘシ若シ之ヲ紛失シ又ハ毀損シタルトキハ賠償ノ責ニ任スヘシ

設計書中現存ノ材料ヲ使用セシムルモノアルトキハ請負契約締結ト同時ニ交付シタルモノト看做ス現存ノ

工作物ヲ充當スル場合亦同シ

第十五條 請負工事ノ爲使役スル職工人夫等ノ行爲ニ付テハ請負人ニ於テ一切ノ責ニ任スヘシ

第十六條 道路管理者ニ於テ必要アリト認ムルトキハ工事ヲ増減變更シ又ハ工事ノ全部若ハ一部ヲ停止スル

コトヲ得

前項ノ規定ニ依リ工事ヲ増減變更シタルカ爲請負金額ニ増減ヲ要スルトキハ道路管理者ノ認ムル金額ヲ標準トシ請負人ト協定スヘシ

工事ノ増減變更ノ場合ニ於テ材料中不用ニ屬スルモノアルトキハ検査済ノ分ニ限り道路管理者ニ於テ相當ト認ムル金額ヲ補給スルコトヲ得

工事ノ停止ヲ命シタル場合ニ於テ停止期間三十日以上ニ涉リ損害ヲ生シタルトキハ其ノ損害ヲ補償スルコ

トヲ得

第十六條ノ二 道路管理者ニ於テ必要アリト認ムルトキハ契約ヲ解除スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ工事ノ既成部分及検査済材料ニ對シ相當ノ金額ヲ交付シ契約保證金ハ之ヲ還付ス

第十六條ノ三 契約ノ解除ハ書面ヲ以テ請負人ニ通知ス若シ其ノ所在不明ナルトキハ縣報又ハ揭示其ノ他ノ方法ニ依リテ公告スルヲ以テ通知シタルモノト看做ス

第十七條 道路管理者ハ請負人ヨリ竣功検査ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ受領ノ日ヨリ十日内ニ検査ヲ行フ其ノ日時ハ豫メ請負人ニ通知スヘシ

竣功検査ノ結果適當ト認メタルトキハ竣功證明書ヲ交付ス

第十八條 竣功検査ニ依リ工事ニ瑕疵アリト認ムルトキハ期限ヲ定メ修補ヲ爲サシムヘシ

道路管理者ニ於テ必要アリト認ムルトキハ工事ノ一部ヲ取毀タシムルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ取毀チタル部分ハ期間ヲ指定シ復築セシム

前各項ノ取毀、修補及復築ニ要スル費用ハ請負人ノ負擔トス

執行令第二十條ノ規定ハ第一項又ハ第二項ノ處分ニ依リ其ノ期限迄ニ竣功セサル場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 請負金ハ工事竣功證明書交付ノ後支拂フヘシ但シ執行令第二十四條ノ規定ニ依ル假拂ハ左ノ制限ニ依ル

請負金額 千圓以上參千圓未滿 一回

同 上 五千圓未滿 二回

同 上 壹萬圓未滿 三回

請負金額壹萬圓以上ニ在リテハ壹萬圓迄ヲ増ス毎ニ一回ヲ遞加ス

工事ノ出來形若ハ検査済材料ニ對スル價格ハ道路管理者ノ認定スル所ニ依ル

第二十條 工事竣功證明書交付前ニ生シタル損害ハ總テ請負人ノ負擔トス但シ天災事變其ノ他正當ノ事由ニ依リ工事カ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ損害ノ一部ヲ補助スルコトヲ得

第十六條 第一項ノ工事停止中前項但書ノ事由ニ依リ工事ニ損害ヲ生シタリト認ムルトキハ其ノ損害ノ全部又ハ一部ヲ補助スルコトヲ得

第二十一條 執行令及本令ノ規定ニ依ル道路管理者ノ認定又ハ處分ニ對シテハ入札人若ハ請負人ニ於テ異議ノ申立ヲ爲シ又ハ損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

第二十二條 道路管理者ニ於テ必要ト認ムルトキハ本令ニ定ムルモノノ外特ニ條件ヲ附スルコトヲ得

第二十三條 入札書及請負契約書ハ第一號及第二號書式ニ準スヘシ

附 則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前爲シタル契約ハ仍從前ノ例ニ依ル

(第一號入札書式)

入 札 書

第 號

何郡何町村大字何々地内何々工事

此請負金何 程

入札保證金何 程

右金額ヲ以テ請負仕度道路工事執行令並道路工事執行細則及設計書、仕様書、圖面並現場熟知ノ上入札仕候也

年 月 日

住 所

氏

名 印

道路管理者宛

備 考

一、入札書ハ一廉毎ニ調製シ改竄塗抹ノ所ニハ必ス捺印スヘシ

(第二號請負契約書式)

請 負 契 約 書

第 號

何郡何町村大字何々地内

一、何々工事(又ハ何々)

此請負金何 程

契約保證金何 程

竣功期日 何年何月何日

前記ノ金額ヲ以テ工事(何々供給)請負被命候ニ付テハ道路工事執行令並道路工事執行細則(及附記特定條件)ヲ遵守シ別冊設計書及圖面ノ通期限迄ニハ必ズ竣功可致仍テ契約書差出候也

年 月 日

住 所

請 負 人 氏

名 印

道路管理者宛

備 考

一、入札書式ノ備考ハ本書式ニモ之ヲ適用ス

二、特定條件アルモノハ其ノ條件ヲ記スルコトヲ要ス

○國庫出納金端數計算法 (大正五年一月 法律第二號)

第一條 國庫ノ收入金又ハ仕拂金ニシテ一錢未滿ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ其ノ全額一錢未滿ナルトキハ之ヲ一錢トス

第二條 國稅ノ課稅標準額ノ算定ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス

命令ヲ以テ指定スル國稅ノ課稅標準額ニシテ一圓未滿ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第三條 分割シテ收入シ又ハ仕拂フ金額ニ在リテハ其ノ總額ニ付第一條ノ規定ヲ準用ス

第四條 分割シテ收入又ハ仕拂ヲ爲ス場合ニ於テ分割金額壹錢未滿ナルトキ又ハ之ニ壹錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ其ノ分割金額又ハ端數ハ最初ノ收入金又ハ仕拂金ニ之ヲ合算ス但シ地租ノ分納額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條 〔賣藥印紙稅〕及郵便切手ヲ以テ納ムル郵便料金ニ付テハ本法ヲ適用セス

法律ニ別段ノ定アルモノノ外本法ヲ適用セサルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 本法ハ北海道府縣郡市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル公共團體ノ收入及仕拂ニ關シテ之ヲ準用ス

附 則

第七條 本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八條 明治四十年法律第三十一號ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前納入ノ告知ヲ爲シ又ハ仕拂ノ命令ヲ發シタルモノニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

○公共團體ノ收入及仕拂ニ關シ國庫出納金端數計算法準用ノ件

(大正五年八月勅令第二百九號)

第一條 國庫出納金端數計算法第六條ノ規定ニ依リ公共團體ヲ指定スルコト左ノ如シ

市制第六條ノ市ノ區

水利組合

北海道土功組合

健康保險組合

朝鮮ノ道地方費、府邑面、郡島學校費、學校組合及水利組合

臺灣ノ州、廳地方費、市街庄及水利組合

樺太ノ町村

第二條 國庫出納金端數計算法第六條ノ公共團體ノ收入及仕拂中左ニ掲クル種目ニハ同法ヲ準用セス

一 法令ニ依リ當然公共團體ニ歸屬スル收入金

二 貨幣交換差金

三 外國貨幣ヲ基礎トスル收入金及仕拂金

四 缺損補填金

附 則

本令ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

○町村稅其ノ他公課ノ滯納處分ニ準用セララルヘキ法令

1 國稅徵收法 (明治三十年三月 法律第二十一號)

第三章 滯納處分

第十條 左ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ納稅者ノ財産ヲ差押フヘシ

一 納稅者督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限マテニ督促手数料、延滯金及税金ヲ完納セサルトキ

二 第四條ノ一第一號及第七號ノ場合ニ於テ納稅者納期ノ到ラサル國稅納付ノ告知ヲ受ケ稅金ヲ完納セザルトキ

第十一條 收稅官吏滯納處分ノ爲財產ノ差押ヲ爲ストキハ其ノ命令ヲ受ケタル官吏タルノ證票ヲ示スヘシ

第十二條 差押フヘキ財產ノ價格ニシテ督促手數料、延滞金、滯納處分費及第三條ニ依リ控除スヘキ債務額ニ充テ殘餘ヲ得ル見込ナキトキハ滯納處分ノ執行ヲ止ム

(參照)第三條 納稅人ノ財產上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定カ國稅ノ納期限ヨリ一箇年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明シタルトキハ該物件ノ價額ヲ限トシ其ノ債權ニ對シテ國稅ヲ先取セサルモノトス

第十三條 收稅官吏滯納者ノ財產ヲ差押フルニ當リ質權ノ設定セラレタル物件アルトキハ質權設定時期ノ如何ニ拘ラス其ノ質權者ハ質物ヲ收稅官吏ニ引渡スヘシ

第十四條 收稅官吏財產ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者其ノ財產ニ就キ所有權ヲ主張シ取戻ヲ請求セムトスルトキハ賣却執行ノ五日前マテニ所有者タルノ證憑ヲ具ヘテ收稅官吏ニ申出ヘシ

第十五條 滯納處分ヲ執行スルニ當リ滯納者財產ノ差押ヲ免ルル爲故意ニ其ノ財產ヲ讓渡シ讓受人其ノ情ヲ知リ讓受ケタル場合ニ於テ政府ハ其ノ行爲ノ取消ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 左ニ掲クル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

- 一 滯納者及其ノ同居ノ家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服、寢具、家具及廚具
- 二 滯納者及其ノ同居家族ニ必要ナル一箇月間ノ食料及薪炭
- 三 實印其ノ他職業ニ必要ナル印
- 四 祭祀禮拜ニ必要ナリト認ムル物及石碑、墓地
- 五 系譜其ノ他滯納者ノ家ニ必要ナル日記書付類

六 職務上必要ナル制服、祭服、法衣

七 勳章其ノ他名譽ノ章票

八 滯納者及其ノ同居家族ノ修學上必要ナル書籍器具

九 發明又ハ著作ニ係ル物ニシテ未タ公ニセサルモノ

第十七條 左ニ掲クル物件ハ他ニ督促手數料、延滞金、滯納處分費及稅金ヲ償フニ足ルヘキ物件ヲ提供スルトキハ滯納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲ササルモノトス

一 農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬並其ノ飼料

二 職業ニ必要ナル器具及材料

第十八條 差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然及法定ノ果實ニ及フモノトス

第十九條 滯納處分ハ裁判上ノ假差押又ハ假處分ノ爲ニ其ノ執行ヲ妨ケラルルコトナシ

第二十條 收稅官吏財產ノ差押ヲ爲ストキハ滯納者ノ家屋、倉庫及筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉、筐匣ヲ開カシメ若ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得滯納者ノ財產ヲ占有スル第三者其ノ財產ノ引渡ヲ拒ミタルトキ亦同シ

第三者ノ家屋、倉庫及筐匣ニ滯納者ノ財產ヲ藏匿スルノ疑アルトキハ收稅官吏ハ前項ニ準シ處分スルコトヲ得

前二項ニ依リ家屋、倉庫又ハ筐匣ヲ搜索スルハ日出ヨリ日没マテニ限ル

第二十一條 收稅官吏前條ノ處分ヲ爲ストキハ滯納者若ハ前條ニ掲ケタル第三者又ハ其ノ家族雇人ヲシテ立會ハシムヘシ若シ立會フヘキ者不在ナルトキ又ハ立會ニ應セサルトキハ成丁者二人以上又ハ市町村吏員

市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ區戸長及其ノ附屬吏員 若ハ警察官吏ヲ證人トシテ立會ハシムヘシ

第二十二條 動産及有價證券ノ差押ハ收稅官吏占有シテ之ヲ爲ス但シ差押物件運搬ヲ爲スニ困難ナルトキハ

市町村長、滞納者又ハ第三者ヲシテ保管ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ封印其ノ他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスヘシ

差押物件ノ保管證ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス

第二十三條ノ一 債權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ之ヲ債務者ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ政府ハ督促手數料、延滞金、滞納處分費及稅金額ヲ限度トシテ債權者ニ代位ス

第二十三條ノ二 債權及所有權以外ノ財産權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ之ヲ其ノ權利者ニ通知スヘシ

前項ノ財産權ニシテ其ノ移轉ニ付登記又ハ登録ヲ要スルモノニ在リテハ差押ノ登記又ハ登録ヲ關係官廳ニ囑託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ニ付テモ亦同シ

第二十三條ノ三 不動産又ハ船舶ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏ハ差押ノ登記ヲ所轄登記所ニ囑託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ノ登記ニ付テモ亦同シ

差押ノ爲不動産ヲ分割又ハ區分シタルトキハ收稅官吏ハ分割又ハ區分ノ登記ヲ所轄登記所ニ囑託スヘシ其ノ合併又ハ變更ノ登記ニ付テモ亦同シ

第二十三條ノ四 差押ノ解除ニ關シテハ登録稅ヲ納ムルコトヲ要セス

第二十四條 差押タル動産、有價證券、不動産及第二十三條ノ一ニヨリ收稅官吏カ第三債務者ヨリ給付ヲ受ケタル物件ハ通貨ヲ除クノ外公賣ニ付ス公賣ノ手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公賣ニ付スルモ買受人ナキカ又ハ其ノ價格見積價格ニ達セサルトキハ其ノ見積價格ヲ以テ政府ニ買上クルコトヲ得

債權及所有權以外ノ財産權ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

第二十五條 見積價格僅少ニシテ其ノ公賣費用ヲ償フニ足ラサル物件ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得

得

第二十六條 滞納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官吏、公吏、雇員ハ直接ト間接トヲ問ハス其ノ賣却物件ヲ買受クルコトヲ得ス

第二十七條 滞納處分費ハ財産ノ差押、保管、運搬、公賣ニ關スル費用及通信費トス

第二十八條 物件ノ賣却代金、差押ヘタル通貨及第二十三條ノ一ニ依リ第三債務者ヨリ給付ヲ受ケタル通貨ハ督促手數料、延滞金、滞納處分費及稅金ニ充テ尙殘餘アルトキハ之ヲ滞納者ニ交付ス

賣却シタル物件質權、抵當權ノ目的物タルトキハ其ノ代金ヨリ先ツ督促手數料、延滞金、滞納處分費及稅金ヲ控除シ次ニ其ノ債務額ニ充ツルマテテ債權者ニ交付シ尙殘餘アルトキハ之ヲ滞納者ニ交付ス但シ第三條ニ掲ケタル質權、抵當權ノ目的タル物件ニ關シテハ其ノ代金ヨリ先ツ督促手數料、延滞金、滞納處分費ヲ徵シ次ニ其ノ債務額ニ充ツルマテテ債權者ニ交付シ次ニ稅金ヲ控除シ尙殘餘アルトキハ之ヲ滞納者ニ交付ス

賣却シタル物件抵當證券ヲ發行シタル抵當權ノ目的物ニシテ第三條ノ證明ヲ爲スヘキ抵當證券所持人分明ナラサル場合ニ於テ其ノ代金ヨリ督促手數料、延滞金及滞納處分費ヲ徵シタル殘額カ債權者ニ交付スヘキ債務額及徵收スヘキ稅金ニ充タサルトキハ其ノ抵當證券所持人ニ交付スヘキ金額ハ之ヲ保管ス此ノ場合ニ於テ債權ノ辨濟期限後四月ヲ過クルモ尙其ノ證明ヲ爲ササルトキハ其ノ保管シタル金額ヲ稅金ニ充テ尙殘餘アルトキハ之ヲ抵當證券所持人ニ交付ス物件ノ賣却後二年内ニ其ノ證明ヲ爲サザルトキ亦同シ

第二十九條 會社ニ對シ滞納處分ヲ執行スル場合ニ於テ會社財産ヲ以テ督促手數料、延滞金、滞納處分費及稅金ニ充テ仍不足アルトキハ無限責任社員ニ就キ之ヲ處分スルコトヲ得

第三十條 此ノ法律ニ依リ債權者又ハ滞納者ニ交付スヘキ金錢ハ之ヲ供託スルコトヲ得

第三十一條 滞納處分ヲ結了シ若ハ之ヲ中止シタルトキハ納稅義務及督促手數料、延滞金、滞納處分費納付

2 國稅徵收法施行規則 (明治三十五年四月勅令第百三十五號)

第十二條 質權又ハ抵當權ノ設定セラレタル財産ヲ差押フルトキハ收稅官吏ハ督促手数料、延滞金、滯納處分費及稅金額其ノ他必要ト認ムル事項ヲ其ノ債權者ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ抵當證券ヲ發行シタル抵當權ニ付其ノ證券所持人分明ナラサルトキハ債務者又ハ證券ノ讓渡人等ニ付調査シ尙分明ナラサルトキハ前項ニ依リ通知スヘキ事項ヲ公告スヘシ
前二項ノ場合ニ於テ國稅ニ對シ先取權ヲ有スル債權者其ノ權利ヲ行使セムトスルトキハ證憑書類ヲ添ヘ其ノ事實ヲ證明スヘシ

第十三條 民事訴訟法ニ依リ假差押ヲ受ケタル財産ヲ差押フルトキハ之ヲ執行裁判所又ハ執達吏若ハ強制管理人ニ通知スヘシ假處分ヲ受ケタル財産ヲ差押フルトキ亦之ニ準ス

第十四條 差押フヘキ財産管轄區域外ニ在ルトキハ收稅官吏ハ其ノ財産所在地ノ收稅官吏ニ滯納處分ノ引繼ヲ爲スヘシ

第十五條 差押フヘキ財產數人ノ所有ニ係ルトキハ滯納者ニ屬スル持分ニ就キ滯納處分ヲ爲シ其ノ持分ノ定メナキモノハ持分相均キモノトシテ處分スヘシ

第十六條 收稅官吏財産ヲ差押ヘタルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル差押調書ヲ作り之ニ署名捺印スヘシ
一 滯納者ノ氏名及住所若ハ居所
二 差押財産ノ名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項
三 差押ノ事由
四 調書ヲ作りタル場所、年月日

國稅徵收法第二十一條ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ立會人ト共ニ差押調書ニ署名捺印スヘシ但シ立會人ニ於

テ署名捺印ヲ拒ミ又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ附記スヘシ
收稅官吏差押調書ヲ作りタルトキハ其ノ謄本ヲ滯納者及立會人ニ交付スヘシ但シ債權及所有權以外ノ財産權ノミヲ差押ヘタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 收稅官吏財産ヲ差押ヘタル場合ニ於テ滯納者又ハ第三者ヨリ督促手数料、延滞金、滯納處分費及稅金ヲ完納シタルトキハ其ノ財産ノ差押ヲ解クヘシ

第十八條 公賣ハ入札又ハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
第十九條 國稅徵收法第二十四條ニ依リ公賣ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ公告スヘシ

- 一 滯納者ノ氏名及住所若ハ居所
- 二 公賣財産ノ名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項
- 三 入札又ハ競賣ノ場所、日時
- 四 開札ノ場所、日時
- 五 保證金ヲ徵スルトキハ其ノ金額
- 六 代金納付ノ期限

第二十條 財産公賣ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ加入保證金又ハ契約保證金ヲ徵スヘシ
加入者保證金又ハ契約保證金ハ國債ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

落札者又ハ買受人義務ヲ履行セサルトキハ其ノ保證金又ハ之ニ代用シタル國債ハ之ヲ政府ノ所得トス

第二十一條 公賣ハ財産所在ノ市區町村内ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ收稅官吏必要ト認ムルトキハ他ノ地方ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 公賣ハ公告ノ初日ヨリ十日ノ期間ヲ過キタル後之ヲ執行スヘシ但シ其ノ物件不相應ノ保存費ヲ要スルモノ若ハ著シク其ノ價格ヲ減損スルノ虞アルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 財産ヲ公賣セムトスルトキハ收稅官吏ハ其ノ財産ノ價格ヲ見積リ之ヲ封書トシ公賣ノ場所ニ置

クヘシ

第二十四條 賣却シタル財産ニ付滞納者ヲシテ權利移轉ノ手續ヲ爲サシムル必要アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シ其ノ手續ヲ爲サシムヘシ

前項ノ期間内ニ滞納者其ノ手續ヲ爲ササルトキハ收稅官吏ハ滞納者ニ代リテ之ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 入札ノ方法ヲ以テ公賣ニ付スル場合ニ於テ落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二名以上アルトキハ其ノ同價ノ入札人ヲシテ追加入札ヲ爲サシメ落札者ヲ定ム追加入札ノ價格仍同キトキハ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ム

第二十六條 財産ヲ公賣ニ付スルモ買受望人ナキカ又ハ其ノ價格見積價格ニ達セサルトキハ更ニ公賣ヲ爲スコトアルヘシ

第二十七條 公賣財産ノ買受人代金納付ノ期限迄ニ其ノ代金ヲ完納セサルトキハ收稅官吏ハ其ノ賣買ヲ解除シ更ニ之ヲ公賣ニ付スヘシ

第二十八條 前二條ニ依リ再公賣ヲ爲ス場合ニ於テハ第二十二條ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

第二十九條 國稅徵收法第四條ノ一第二號乃至第六號ニ該當スル場合ニ於テハ收稅官吏ハ當該官廳、公共團體、執行裁判所、執達吏、強制管理人、破産管財人又ハ清算人ニ督促手數料、延滞金、滞納處分費及滞納税金ノ交付ヲ求ムヘシ但シ他ニ差押フヘキ財産アルトキハ之ヲ差押フルコトヲ妨ケス

第三十條 滞納處分ヲ結了シタルトキハ收稅官吏ハ其ノ處分ニ關スル計算書ヲ作り之ヲ滞納者ニ交付スヘシ賣却シタル財産ニ對シ質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ計算ニ關スル記録ノ閱覽ヲ收稅官吏ニ求ムルコトヲ得

第三十一條 納稅告知督促及滞納處分ニ關スル公告ハ稅務署ニ之ヲ爲スヘシ但シ必要ト認ムルトキハ稅務署ノ外適當ノ場所ニ又ハ他ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第九條 稅務署長ハ國稅滞納者ノ財産差押ヲ命シタル收稅官吏ニ左ノ證票ヲ交付スヘシ

3 國稅徵收法施行細則 (明治三十年六月 大藏省令第十號)

第何號	「何」稅務署	用紙厚紙
國稅滞稅者	「官」氏名	縱二寸五分
證財產差押		橫一寸五分
票押		
署印		

第十條 收稅官吏債權ノ差押ヲ爲ストキハ債務者ニ對シ第十號書式、債權及所有權以外ノ財産權ノ差押ヲ爲ストキハ權利者ニ對シ第十一號書式ノ差押通知書ヲ發スヘシ

第十一條 國稅徵收法施行規則第十二條第二項ノ公告ハ第十一號ノ二書式ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第十二條 國稅徵收法施行規則第十六條ノ差押調書ハ第十二號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十三條 收稅官吏財産ヲ賣却セムトスル場合ニ其ノ價格ヲ見積リ難キモノアルトキハ適當ナル鑑定人ヲ選ミ其ノ評價ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條 入札ノ方法ヲ以テ財産ヲ公賣スル場合ニハ買受望人ハ其ノ住所氏名買受財産ノ種類員額及入札價格ヲ記シタル入札書ヲ封緘シテ差出スヘシ

第十五條 入札書ハ公告ニ示シタル開札ノ場所、日時ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ開クモノトス但シ入札人又ハ其ノ代理人開札ノ場所ニ出席セサルトキハ其ノ立會ヲ要セスシテ開札スルコトヲ得

第十六條 競賣ノ方法ヲ以テ財産ヲ公賣スルトキハ競賣人ヲ選ミ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第十七條 加入保證金又ハ契約保證金ノ割合ハ買受望人各自ノ公賣財産見積價格百分ノ五以上トシ公賣ノ時々之ヲ定ムルモノトス

第十七條 公賣財産ノ買受人又ハ競賣人ハ納付書ヲ添ヘ其ノ代金ヲ稅務署長ニ納付スヘシ

第十七條ノ二 國稅徵收法第二十八條ニ依リ抵當證券所持人ニ債務額ヲ交付スル場合ニ於テハ抵當證券ヲ提出セシメ左ノ取扱ヲ爲スヘシ

一 債務額ノ全部ヲ交付シタルトキハ其ノ提出ニ係ル抵當證券ニ第十二號ノ二書式ノ通知書ヲ添付シ之ヲ證券交付登記所ニ送付スヘシ

二 前號以外ノ場合ニ於テハ其ノ提出ニ係ル抵當證券ニ第十二號ノ三書式ノ通知書ヲ添付シ之ヲ證券作成登記所ニ送付シテ其ノ記載ノ變更ヲ受ケタル後抵當證券所持人ニ還付スヘシ此ノ場合ニ於テ共同證券ニシテ數個ノ登記所ニ於テ記載ノ變更ヲ要スルトキハ其ノ一ノ登記所ニ證券ヲ送付シ其ノ登記所ヨリ順次他ノ登記所ニ之ヲ轉送スヘキ旨ヲ囑託スルコトヲ得

第十八條 督促又ハ滯納處分ニ關シ使丁ヲ以テ書類ノ送達ヲ爲ストキハ第十三號書式ノ送達書ニ受取人ノ署名捺印ヲ求ムヘシ

第十九條 滯納處分ヲ結了シタルトキハ收稅官吏ハ第十四號書式ノ計算書ヲ調製シ之ヲ滯納者ニ交付スヘシ

第二十條 收稅官吏ハ債權者又ハ滯納者ニ交付スヘキ金錢ヲ供託シタルトキハ其ノ旨債權者又ハ滯納者ニ通知スヘシ

(書式省略)

○租稅其他ノ收入徵收處分囑託ノ件 (明治四十年四月 法律第三十四號)

第一條 法令ノ規定ニ依リ國稅ヲ徵收セラルヘキ者又ハ其ノ者ノ財産ニシテ其ノ法令施行地外ニ在ルトキハ當該官吏ハ本人又ハ財産所在地ノ當該官吏又ハ吏員ニ其ノ徵收ヲ囑託スルコトヲ得 前項ノ場合ニ於ケル國稅ノ徵收ハ囑託ヲ受ケタル地ノ當該法令ニ依ル

第二條 前條ノ規定ハ公共團體又ハ之ニ準スヘキモノノ租稅其他ノ他ノ收入ヲ徵收セラルヘキ者又ハ其ノ者ノ財産力其ノ公共團體又ハ之ニ準スヘキモノノ區域外ニ在ル場合ニ之ヲ準用ス

○租稅其他ノ收入徵收處分囑託ニ關シ費用負擔ノ件通牒

(明治四十年六月十四日地 甲第二九號地方局長)

本年法律第三十四號ヲ以テ公共團體又ハ之ニ準スヘキモノノ租稅其他ノ收入徵收處分囑託ニ關スル件發布相成候ニ付テハ右事務取扱ニ要スル費用及送金費用ハ總テ囑託ヲ受ケタル應ノ負擔トシ督促手数料ハ直ニ其應ノ收入ニ充テ可然コトニ決定相成候條爲念此段及通牒候也

○滯納者所在不明ノ場合滯納處分ニ依ル剩餘金處分ノ件通牒

(明治三十二年九月二十一日 地甲第八七號內務省)

府縣郡市町村其他公共團體ニ於ケル徵收金ニシテ國稅滯納處分ノ例ニ依リ處分シタル場合ニ於テ滯納者へ還付スヘキ剩餘金アルトキ滯納者所在不明等ノ爲メ還付シ得サルモノハ國稅ノ例ニ依リ民法第四百九十四條ニ依リ供託スルコトニ決定相成候條此段及通牒候也

○滯納處分ノ爲差押タル土地買上登記ニ關スル件通牒

(大正三年十一月二日 地第一七〇號地方局長)

縣稅滯納處分ノ爲差押タル土地ヲ公賣ニ付シタルモ買受人ナキカ又ハ其入札價額見積價格ニ達セサル爲該土地ヲ縣ニ買上タル場合其所有權移轉ノ登記手續ハ不產動登記法第二十九條ニ依ルヘキ義ト決定相成候ニ付左様御承知相成度

追テ本件ハ司法省トモ打合濟ニ有之候

○電話加入權差押登録囑託書送達ニ關スル件通牒

(昭和五年五月二十一日五地收)
(第四九一〇號內務部長)

電話加入權ヲ差押ヘタル場合之レカ登録囑託書ヲ直接加入事務所管局ニ送達セサル向有之趣斯クテハ當該所管局ニ移送スル關係上其ノ間多少ノ時日ヲ經過シ囑託書送付後ト雖名義變更ヲ行ハレ差押ノ目的ヲ達スルコト能ハサル場合モ生スヘキニ付テハ爾今左記ノ區分ニ依リ當該所管局ニ送達相成度

記

- 一、特設電話規則ニ依ルモノハ東京遞信局ヘ送達スルコト
- 二、前號以外ノモノ(普通電話)ハ總テ當該電話取扱局ヘ送達スルコト

○南滿洲鐵道附屬地移住者ニ係ル租稅公課

徵收囑託ニ關スル件通牒 (大正二年二月二十七日二地收)
(第一二二八號ノ二內務部長)

南滿洲鐵道附屬地移住者ニ對シ內地郡市町村長ヨリ關東都督府宛府縣市町村稅徵收處分囑託ノ向有之候處右鐵道附屬地ハ該都督府ニ於ケル租稅其他公課徵收規則施行區域外ナルヲ以テ四十年法律第三十四號ニ依ル徵收囑託ニ應シ難キ旨其筋ヨリ通牒有之候條御心得ノ上各町村長ヘモ示達相成度依命通牒ス

○徵兵旅費繰替金支給及請求ニ關スル規則 (大正二年三月內)
(務省令第五號)

大正二年勅令第二十五號施行ニ關スル規則左ノ通り定メ大正二年四月一日ヨリ施行ス

第一條 徵兵検査及入營旅費ハ市町村又ハ之ニ準スヘキモノニ於テ明治三十年內務省令第三十二號 (大正九

年十一月內務省令第三十八號ヲ以テ全部改正) 徵兵旅費規則ニ依リ仕拂ヲ爲スヘシ
第二條 市町村又ハ之ニ準スヘキモノニ於テ仕拂タル額ハ便宜ノ時期ニ於テ左記書式ニ準據シ其拂戻ヲ所屬地方廳ニ請求スヘシ但シ權太ニ本籍ヲ有スル者ニ支拂タル額ハ所轄權太廳支應ニ請求スヘシ

徵兵旅費拂戻請求書

一金 何 圓 也

但(検査)(入營)旅費何人分ニシテ各債權者ノ氏名ハ別紙ノ如シ (別紙ニハ氏名ヲ列記スルコト)

一人ニ對スル旅費內譯

種別	摘要	金額
陸路雜費	何里	
汽車賃	實費	
渡航賃	實費	
日當	何日	
宿泊料	何夜	
何々	何々	
合計	金	

右何郡何市町村ヨリ(何府縣)何郡何市町村(徵兵検査場往復)(營所ニ至ル)旅費請求候也

年月日

何道(府)(縣)何郡何市町村長

誰

印

地方廳宛

第六章 町村ノ財務

第一款 財務一般

○徴兵旅費繰替拂ニ關スル件通牒(大正五年二月十八日和地第
二五號會計課長地方局長)

大正二年勅令第二十五號ニ依リ徴兵歸郷旅費ハ歸郷スヘキ事實ノ生シタル地ノ市町村又ハ之ニ準スヘキモノニ於テ一時繰替支辨シ得ルコトニ相成居候處本人カ歸郷スヘキ事實ノ生シタル地ノ市町村等ニ於テ繰替拂ヲ受ケス歸郷シタル場合ノ繰替ニ關シ疑義ノ向モ有之趣ニ候得共右ハ繰替拂ヲ要スル事由消滅セルヲ以テ歸郷後歸郷スヘキ事實ノ生シタル地ノ市町村又ハ之ニ準スヘキモノニ於テ繰替支辨スルノ限リニ無之本人ヲシテ地方廳ニ仕拂ノ請求ヲ爲サシムヘキ義ニ付爾今右様御取扱相成度

(大正五年三月二日會計課長)

客月十八日和地第二五號ヲ以テ徴兵旅費繰替拂ノ件ニ付依命及通牒候處右通牒中地方廳トハ當初入營旅費ヲ支給シタル本籍若ハ寄留地地方廳ヲ指稱セラレタル義ニ有之候

○國庫ノ補助スル公共團體ノ事業ニ關スル法律(明治三十年四月
法律第三十七號)

第一條 府縣郡市區町村其ノ他公共團體ノ事業ニシテ國庫ヨリ其ノ費用ヲ補助スルモノニ關シ必要アリト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ事業ノ設計施行管理並經費收支ノ方法等ニ付期間ヲ指定シテ之カ變更ヲ命シ若シ命ニ從ハサルトキハ直ニ之ヲ變更スルコトヲ得

主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ前項ノ事業ノ全部若ハ一部ヲ直接施行スルコトヲ得

第二條 前條ノ事業ニ關シ經費ノ負擔ヲ爲シ又ハ經費ノ變更ヲ爲スヘキ場合ニ於テ主務大臣ノ指定シタル期間内ニ之ヲ爲ササルトキハ主務大臣ハ直ニ豫算ヲ定メ又ハ豫算ヲ追加シ若ハ更正シ必要ナル費用ヲ支辨セシムルコトヲ得

第三條 此法律ニ規定シタル主務大臣ノ職權ハ其ノ委任ヲ受ケタル地方長官ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ

得

第四條 府縣郡市區町村其ノ他公共團體ノ事業ニシテ國ノ事業ト關聯スル場合ニ於テハ此法律ノ規程ヲ準用スルコトヲ得

第五條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

○同上施行ニ關スル件(明治三十一年八月
勅令第百八十四號)

第一條 內務大臣ニ於テ府縣郡市區町村其ノ他公共團體ノ事業ヲ直接施行スルトキハ官報ヲ以テ其ノ事業ノ屬スル公共團體並其ノ施行スヘキ事業及其ノ始期ヲ告示スヘシ

內務大臣ニ於テ前項事業ノ直接施行ヲ廢止シ又ハ事業ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第二條 府縣郡市區町村其ノ他公共團體ハ內務大臣ノ直接施行ニ係ル事業ニ要スル費用ノ豫算金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

前項ニ依リ納付スヘキ期間並豫算金額ハ內務大臣之ヲ定ム

第三條 府縣郡市區町村其ノ他公共團體ニ於テ內務大臣ノ直接施行ニ係ル事業ノ爲取得シタル物件及權利ヲ有スルトキハ之ヲ內務大臣ニ移付スヘシ

前項ニ依リ移付ヲ爲スヘキ期間並物件及權利ノ範圍ハ內務大臣之ヲ定ム

第四條 內務大臣ハ其ノ直接施行ニ係ル事業ニ關シ必要ナルトキハ其ノ事業ノ屬スル府縣郡市區町村其ノ他公共團體ヲ管轄スル行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

第五條 內務大臣ニ於テ其ノ直接施行ニ係ル事業ヲ終了シタルトキハ之ヲ其ノ所屬府縣郡市區町村其ノ他公共團體ニ引渡スヘシ但シ其ノ事業ノ數年ニ渉ル場合ニ於テハ其ノ完了シタル部分ヲ順次引渡スコトヲ得

第六條 內務大臣ニ於テ前條ニ依リ事業ノ引渡ヲ爲シタルトキハ其ノ事業ノ爲取得シ又ハ第三條ニ依リ移付

ヲ受ケタル物件及權利ニシテ現存スルモノハ之ヲ其ノ事業ノ屬スル府縣郡市區町村其他ノ公共團體ニ移付スヘシ

前項ニ依リ移付ヲ爲スヘキ物件及權利ノ範圍竝其ノ移付シ難キモノニ關スル處分ハ内務大臣之ヲ定ム

第七條 内務大臣ノ直接施行ニ係ル事業ニ要スル費用ノ不足額ノ補充及殘餘金ノ處分等ハ内務大臣之ヲ定ム

第八條 内務大臣ニ於テ府縣郡市區町村其ノ他公共團體ニ屬スル事業ノ直接施行ヲ廢止シタルトキハ前三條ノ規定ヲ準用ス

第九條 此勅令ニ規定シタルモノノ外内務大臣ハ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

○特別會計規程

何町村何々特別會計規程

何基本財産(何々費)ハ之ヲ特別會計トス

附 則

本規程ハ何年度ヨリ之ヲ施行ス

(備考)

一、特別會計ト爲スニハ本例ノ如ク必シモ單獨ニ規定セス基本財産蓄積條例又ハ積立金設置規程等ノ如キ當該條例又ハ規程中ニ規定スルモ差支ナシ

○資金前渡規程

第一條 本町村ハ公益質屋事務擔當吏員(何々)ニ對シ其ノ貸付(何々)資金トシテ一回ニ付(毎月)金何程以内ニ限リ資金前渡ヲ爲スコトヲ得

現ニ資金ヲ前渡シアル吏員ニ對シテハ其ノ精算ヲ了リタル後ニ非サレハ更ニ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二條 資金ノ前渡ヲ受ケタル者ハ之ヲ備付ノ金櫃ニ格納(何々)シテ保管スヘシ

第三條 資金前渡ヲ受ケタル者ハ支拂事務終了後(毎月何日)別記様式ニ依ル精算書ヲ提出スヘシ(一月内更ニ資金ノ前渡ヲ受ケムトスルトキ亦同シ)

何年度(何月分)資金前渡支拂計算書

一金何 程

本月領收高

内 譯

一金何 程

本月領收高

一金何 程

前月ヨリ越高

内 譯

一金何 程

本月中支拂高

差引金何 程

本月中戻入高

支拂内譯

返 納 高(翌月ニ繰越高)

費		目		金		額	
款	「何」	「何」	「何」	「何」	「何」	「何」	「何」
種	目	「何」	「何」	「何」	「何」	「何」	「何」
計							

右之通候也

年 月 日

何町村長 何 某 殿

職 氏 名 印

(備考)

正當債主ノ領收證ヲ添付スルコト

○豫算各項金額流用議案

議案第 號

豫算流用ノ件

何年度何町村歳入出豫算歳出經營部(臨時部)第何款何々費第何項何費第何目何費ニ於テ豫算金何程不足ニ付本款第何項何費第何目何費ヨリ金何程ヲ流用スルモノトス

年 月 日提出

何町村長 氏 名

理 由

何々.....

○豫算外義務負擔ニ關スル議案

議案第 號

豫算外義務負擔ノ件

何町村何某所有ニ係ル左ノ土地ヲ町村役場(何々)敷地トシテ(何々)何年度ヨリ何年度迄何年間借入シ毎年度地料金何程ヲ支拂フコトヲ契約スルモノトス

年 月 日提出

何町村長 氏 名

記

何町村大字何字何々番地

一、何々何反何畝歩

(備考)

一、繼續費ヲ以テスル以外數ヶ年度ニ亘ル町村ノ支出ニ付契約等ヲ必要トスルトキハ本例ニ準シ町村會ノ議決ヲ經ルコト

○過料條例

過料ニ關スル條例(國神村)

詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ因リ本村使用料ノ徵收ヲ免レ又ハ村稅ヲ逋脱シタル者ハ其ノ徵收ヲ免レ又ハ逋脱シタル金額ノ三倍ニ相當スル金額以下ノ過料ヲ科スルコトアルヘシ但シ其ノ金額五圓未満ナルトキハ五圓以下トス

附 則

本條例ハ告示ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二款 財産及營造物

○町 村 制

第八十九條 收益ノ爲ニスル町村ノ財産ハ基本財産トシテ之ヲ維持スヘシ

町村ハ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財産ヲ設ケ又ハ金穀等ヲ積立ツルコトヲ得

第九十條 舊來ノ慣行ニ依リ町村住民中特ニ財産又ハ營造物ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ舊慣

ニ依ル舊慣ヲ變更又ハ廢止セムトスルトキハ町村會ノ議決ヲ經ヘシ

前項ノ財産又ハ營造物ヲ新ニ使用セムトスル者アルトキハ町村ハ之ヲ許可スルコトヲ得

第九十一條 町村ハ前條ニ規定スル財産ノ使用方法ニ關シ町村規則ヲ設クルコトヲ得

第四百十七條 左ニ掲クル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

二 基本財産及特別基本財産並林野ノ處分ニ關スル事

三 第九十條ノ規定ニ依リ舊慣ヲ變更又ハ廢止スル事

○町村基本財産蓄積條例準則(大正十年四月縣訓令第三十六號)

何町村基本財産蓄積條例

第一條 本町村ハ本條例ノ規定ニ依リ何萬圓ニ達スル迄毎年度基本財産ヲ蓄積ス

第二條 左ノ收入ハ基本財産トシテ蓄積ス

- 一 基本財産ヨリ生スル收入
- 二 町(村)條例ニ依リ徵收スル使用料及手数料
- 三 戶籍手数料及寄留手数料
- 四 國稅徵收交付金
- 五 縣稅徵收交付金
- 六 水利組合費徵收交付金
- 七 基本財産指定寄附金

八 費途指定ナキ寄附金

九 基本財産ニ屬スル動産不動産ノ賣拂代金

十 不用品賣拂代金

十一 公金ノ保管ヨリ生スル收入

十二 歲計剩餘金(ノ何分ノ一)

十三 何々

前項ノ外毎年度何圓以上ヲ基本財産トシテ蓄積ス

第三條 町(村)債ヲ起シタル場合ハ其ノ年度及其ノ償還ヲ了スル年度迄町(村)會ノ議決ヲ經テ第二條第一項

第二號乃至第何號及同條第二項ノ蓄積額ヲ減少シ又ハ蓄積ヲ停止スルコトヲ得

制限外ノ課稅ヲ爲シタル年度ニ在リテハ前項ノ規定ヲ準用ス

徵稅改善ノ爲費用ヲ要スル年度ニ在リテハ町(村)會ノ議決ヲ經テ第二條第一項第四號ノ蓄積額ヲ減少スルコトヲ得

附 則

本條例ハ告示ノ日(大正何年度)ヨリ之ヲ施行ス

本條例施行ノ際現在スル基本財産ハ本條例ニ依リ蓄積シタルモノト看做ス

○基本財産蓄積條例ニ關スル件通牒(大正十年四月十一日十地發第一五五七號內務部長)

今般訓令第三十六號ヲ以テ町村基本財産蓄積條例準則改正相成候處右ハ從前ノ準則ノ不備ヲ補正セラレタル義ニ有之候ニ就テハ條例既設ノ町村ニ對シテハ機ヲ見テ漸次改正セシメ又未設ノ町村ニ對シテハ此ノ際設定スヘキ様御取計相成度尙條例ノ設定改正及其ノ運用ニ關シテハ左記各項ニ依ラシメラレ度

記

- 一 準則第一條ノ蓄積總額ハ町村ノ財政状態ニ應シ遅クモ五十年以内ニ於テ其ノ收益ヲ以テ町村經常費ノ全部ヲ支辨スルニ足ル見積ニ依ルコト
- 二 小學校基本財産ヲ設置シアリテ將來其ノ收益ヲ以テ教育費ヲ支辨シ得ヘキ計畫成リ居ル町村ハ第一項ノ蓄積額ヲ相當減少スルコト
- 三 準則第二條ノ蓄積科目ハ町村財政ノ狀況ト前二項ニ依ル蓄積額及蓄積豫定年限ヲ標準トシテ適宜取捨選擇シテ之ヲ定メ蓄積財源ノ確實ヲ期スルコト但シ準則第二條第一項第一號第七號及第九號ノ科目ハ必ス條例中ニ規定スルコト
- 四 準則第四條第一項第十二號ノ歲計剩餘金トアルハ前年度ノ豫算ニ計上シタル事業費ニシテ其ノ年度ニ於テ事業ノ一部又ハ全部ヲ執行セス翌年度ニ於テ更ニ其ノ事業ヲ執行スル爲其ノ事業費ノ殘額ヲ翌年度ヘ繰越ス場合ニ於ケル繰越金ハ包含セサルモノトス
- 五 準則第三條第一項ノ蓄積ノ減少又ハ停止ノ金額ハ起債額ノ減少又ハ償還若ハ利子支拂ニ要スル費用ニ充ツル以外ニ使用セサルコト
- 六 準則第三條第二項ノ蓄積ノ減少又ハ停止ニ就テハ大正八年十月十日八地收第四四一八號ノ二通牒ニ依ルコト(本章第五款町村稅制限外課稅特別稅ノ新設增額等ノ場合基本財産等ノ蓄積財源ニ關スル件通牒參照)
- 七 準則第三條第三項ノ場合ニ於テハ納稅告知書ニ對スル交付金以外ハ減少セサルコト
- 八 準則第三條第一項ノ蓄積減少又ハ停止ノ科目中ニハ準則第二條第一項第一號第七號及第九號ノ科目ヲ除クコト
- 九 大正元年八月一日元地發第五、四九七號基本財産蓄積ニ關スル通牒ハ廢止ス

○基本財産造成條例 (明治三十七年二月十八日)
(地甲第七號地方局長)

市町村ニ於テ基本財産ノ造成ヲ圖ルハ目下緊切ノ事ナルヲ認メ曩ニ標準條例按等添付通牒及ヒ置候處爾來該條例ノ設定ヲ稟請スルモノ多々有之候ヘ共是等ノ多クハ金錢ノ蓄積ニ係リ其ノ以外ニ於テ地方適宜ノ方法ヲ規定シタルモノ至テ稀少ニ有之候金錢ノ蓄積固ヨリ良好ノ方法ニ外ナラサルモ市町村各自ノ實況ニ應シ苟モ基本財産造成ノ資料トナルヘキモノハ採テ以テ之カ増殖ヲ圖ルハ亦必要ノ事タリト信シ候現ニ市町村ニ於テ山林原野ヲ所有シナカラ之ヲ荒廢ニ委スルカ如キモノ鮮シトセス斯ノ如キハ基本財産造成上甚タ遺憾トスル處ナルニ依リ經費ノ許ス限リ條例ヲ設ケテ之カ造林ヲ遂行シ遺算ナカラシムル様致度猶御參考ノ爲造林ニ關スル三重縣度會郡瀧原村高知縣長岡郡天坪村標準條例按ヲ添ヘ依命此段及通牒候也

追而金錢ノ蓄積ト造林等ヲ併セ實行セントスルトキハ一條例ノ下ニ之ヲ規定スル方簡便ト存候

基本財産造成條例

- 第一條 本市(町村町村組合)ハ基本財産造成ノ爲本條例ノ規定ニ依リ植林ヲ爲スモノトス
- 第二條 植林地ハ本市(町村町村組合)有ノ土地何々ヲ以テ(本市(町村町村組合)内何々區有ノ土地何々ヲ借入)之レニ充テ其ノ栽植スヘキ樹ノ種類ハ何々トス
- 第三條 毎年度ニ於テ栽植スヘキ樹數ハ何本以上トシ豫定ノ反別ニ植付完了スルヲ以テ之ヲ止ム
- 第四條 植林ニ關スル費用ハ市(町村町村組合)費ヨリ支出ズルモノトス其植付手入ニ關シテハ夫役ヲ賦課スルコトヲ得
- 第五條 公債ヲ起ス場合ニ於テハ市(町村町村組合)會ノ議決ヲ經其起債ノ年度ニ限リ第三條ノ植付ノ全部若ハ一部ヲ停止スルコトヲ得

第六條 間伐輪伐植繼及管理方法ニ關シテハ市(町村町村組合)會ノ議決ヲ經テ別ニ之ヲ定ム

附 則

第七條 本條例ハ明治何年度ヨリ施行ス

三重縣度會郡瀧原村(明治三十六年一月十二日稟請同年二月二十二日許可)

基本財産造成條例

第一條 本村ハ本條例ノ規定ニ依リ本村有山林三十二町步へ毎年杉檜ノ植栽ヲナシ以テ基本財産ヲ造成ス

第二條 植付ハ初年ニ於テ十萬本次年以後毎年二萬本以上ヲ植付ケ豫定ノ反別ニ植付完了スルヲ待テ止ム但シ漸次植付ヲ了シタル林地ニ對シテハ年々栽培保護ノ手入ヲナス可シ

第三條 町村制(第八十一條第二項)ニ掲クルモノノ外左ノ收入ハ第二條ノ造林費ニ充テ尙不足ヲ生スルトキハ村費ヲ以テ補足スルモノトス但シ基本財産ヨリ生スル收入ニシテ造林費ニ充テ猶餘裕ヲ生スルトキハ基本財産ニ編入スルモノトス

一 基本財産ヨリ生スル收入

二 歲計剩餘金

三 國稅徵收法、(府縣稅徵收法)ニヨリ收入スル交付金

四 戶籍法ニヨリ收入スル手数料

第四條 公債ヲ起ス場合ニ於テハ村會ノ議決ヲ以テ其年ニ於ケル第三條ノ支出ヲ停止ス

第五條 植付完了以後ニ於ケル下草刈取其他保護ニ關スル費用ハ村費ヲ以テ支出スルモノトス

第六條 造林ニ關スル費用ハ總テ豫算ニ編入スヘシ

第七條 村長ハ立木臺帳ヲ備へ左ノ事項ヲ記載ス可シ

一 植樹ノ種類員數

一 植栽ノ年月日

一 樹木員數異動ノ年月日及事由

一 栽培保護ノ要領

第八條 本條例ハ明治三十五年度ヨリ實施ス

高知縣長岡郡天坪村(明治三十六年三月二十五日稟請同年六月六日許可)

植林ニ關スル條例

第一條 本村ハ基本財産ヲ造ルカ爲メ明治三十六年度ヨリ繼續事業トシ向三十ヶ年間植林ヲ爲スモノトス

第二條 前條ノ植林ニ要スル土地ハ各區ニ於テ毎年若クハ一時ニ村有トシテ買得又ハ個人若クハ團體ノ土地ヲ借受クルモノトス但シ借受ノ年限ハ少クモ五十年間以上ナルヲ要ス

第三條 栽植スヘキ樹ノ種類ハ杉、扁柏、樟、栗、松、樺ノ六種トス

第四條 一ヶ年中栽植スヘキ樹數ハ各種ヲ通シ三千本以上トス

第五條 村有土地ノ買得樹種ノ栽植等ニ要スル金額ハ一ヶ年參拾圓以上トス但シ經濟ノ都合ニ依リ増減スルコトアルヘシト雖モ前年度ノ國庫、縣交付金決算金額ヨリ減スルコトヲ得ス

第六條 本條例ニ依リ買得スヘキ土地及栽植スヘキ樹種其他必要ナル事項等ハ毎年植付前村會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

○基本財産蓄積停止條例

何町村(何)基本財産蓄積停止條例

何町村(何)基本財産蓄積條例第二條第二號乃至第何號及第二項ニ依ル蓄積ハ昭和何年度(及昭和何年度)ニ限り之ヲ停止ス

附 則

本條例ハ告示ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○町村財産管理規程(明治四十三年十月
縣訓令第四十五號)

町村ノ財産ハ其ノ管理ノ方法宜シキヲ得サルトキハ其蓄積ノ效果ヲ收ムルコト能ハス從來現金ヲ個人ニ貸付シタルモノハ回收ノ時期ヲ失シ延テ利殖ノ算定モ有名無實ニ終リ又町村ノ經費ニ充用シ一旦其ノ元本ヲ消費シタルモノハ往々其ノ元額ニ復セシメサルモノアリ如斯ハ當初蓄積ノ主旨ニ違フモノニシテ亦管理方法ノ備ハラサル結果ニ外ナラス就テハ現ニ財産ヲ所有スル町村ハ此際速ニ又自今財産ヲ蓄積若ハ造成シタルモノハ其ノ蓄積若ハ造成ト共ニ左ノ準則ニ據リ財産管理規程ヲ設ケ〔郡長ノ許可ヲ受ク〕ヘシ

町(村)財産管理規程準則

第一章 總 則

第一條 本町(村)財産ハ本規程ニ依リ管理スルモノトス但別ニ管理方法ヲ定メタルモノハ此限ニアラス

第二條 本規程ニ管理方法ヲ規定セサル財産ハ町(村)長ニ於テ適宜管理スルモノトス

第三條 財産ハ會計規程ノ定ムル所ニ依リ之ヲ整理ス

第二章 土地建物

第四條 土地建物ニシテ公用又ハ公共ノ用ニ供セサルモノハ町(村)會ノ議決ニ依リ五ヶ年以内ノ期間ヲ以テ之ヲ貸貸スルモノトス但舊慣ニ因リ使用セシムルモノノ期間ハ本文ニ依ラス又貸付期間六ヶ月未滿ノモノハ町(村)長ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得

營利ノ目的ニアラサル事業ノ爲メ貸付スル場合ハ料金を徴收セサルコトアルヘシ

第五條 土地建物ノ貸貸料額ハ町(村)會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム但貸付期間六ヶ月未滿ノモノハ町(村)長ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得

貸貸料ハ毎年四月十月ノ二期ニ其年度分ノ半額宛ヲ前納セシム但貸與期間一ヶ年ニ滿タサルモノハ貸付ノ

トキニ又年額貳圓以内ノモノハ毎年四月ニ其全額ヲ前納セシム

第六條 土地建物ヲ貸貸スルトキハ借主ヨリ町(村)内に在スル能力者ニシテ辨償ノ資力ヲ有スル保證人二名以上連署ノ契約書ヲ徵スルモノトス但シ第四條第一項但書ニ依リ貸付スル場合ハ保證人ヲ要セス

第七條 土地建物貸貸ニ關スル契約ニハ左ノ條件ヲ付セシムルモノトス

一 貸付期間中本町(村)ニ於テ使用シ又ハ公用若クハ公共ノ用ニ供スルノ必要ヲ生シタルトキハ一ヶ月以内ニ之ヲ返還セシメ前納ノ料金を過納アルトキハ月割ヲ以テ還付スルコト

二 貸付期間中借主ノ都合ヲ以テ返還スルコトアルモ既納ノ料金を還付セサルコト

三 借主ハ承諾ヲ受ケスシテ使用ノ目的及方法ヲ變更セサルコト若シ之ヲ猥リニ變更シタルトキハ直ニ返還セシメ其既納ノ料金を還付セサルコト

四 前號ノ場合ニ於テ損害アルトキハ之ヲ賠償セシムルコト

第四條第二項ニ依リ無料貸付ノ契約ハ前項第一號第三號第四號ニ準シ條件ヲ付セシムルモノトス

第三章 有價證券及債券

第八條 國債證券勸業債券貯蓄債券興業銀行債券等郵便官署へ保護預ケヲ爲シ得ルモノハ之ヲ同官署ニ預託

前項以外ノ證券及債券ハ町(村)長ニ於テ確實ナル銀行ニ保護預ケト爲シ其預リ證書ヲ徵シ保管スルモノトス

第九條 有價證券及債券ハ新債ニ乘換ヘ又ハ町(村)經濟上特ニ現金ニ換ユル必要ヲ生シタル場合ヲ除クノ外ハ之ヲ交換又ハ賣却スルコトヲ得ス

第十條 擔保トシテ徵シタル有價證券及債券ノ領置期間一ヶ年未滿ノモノハ町(村)役場備置ノ金庫ニ格納シ

金庫ヲ開閉スルトキハ特ニ注意シ其ノ一ケ年以上ニ亘ルモノ又ハ金庫ノ備置キナキ町(村)ニ於テハ第八條第二項ニ依ルモノトス

第四章 現 金(歳出ニ充ツルモノハ包含セス)

第十一條 現金ハ郵便貯金大藏省預金信用組合貯金若ハ確實ナル銀行ニ利付預ケ入レト爲スモノトス

前項ノ預金貯金ノ證書ハ町(村)役場備置キノ金庫ニ格納シ金庫ヲ開閉スルトキハ特ニ注意スルモノトス

第十二條 現金ノ運用ハ左ノ範圍ヲ出ツルコトヲ得ス

- 一 甲種國債登錄ヲ爲シ又ハ國債證券府縣債證券勸業債券貯蓄債券興業銀行債券北海道拓殖銀行債券府縣農工銀行株券債券ヲ購入シ若ハ其ノ募債ニ應スルコト
- 二 收益ノ確實ナル土地ヲ購入スルコト

第五章 穀 物

第十三條 穀物ハ利息附貸付ヲ爲スモノトス

穀物ノ貸付期間ハ一ケ年以内トシ借主ヨリ擔保附契約書ヲ徵シ又ハ町(村)内ニ在住スル能力者ニシテ辨償ノ資力ヲ有スル二名以上ノ保證人連署ノ契約證書ヲ徵シ之ヲ保管スルモノトス

第十四條 穀物ノ保存中ハ町(村)役場倉庫ニ格納スルモノトス但倉庫ナキモノハ俵裝面ニ記號ヲ施シ町(村)長ニ於テ確實ナル者ニ保護預ケト爲シ其ノ預リ證書ヲ徵シ保管スルモノトス

第十五條 穀物ノ保存ヲ要セサルモノハ町(村)會ノ議決ニ依リ適當ノ時期ニ之ヲ賣却スルモノトス

第六章 附 則

第十六條 本規程ハ町(村)内ノ區及一部有財産ノ管理ニ就テ之ヲ準用ス但一部一區ノ財産ニシテ本規程ヲ準用シ得サル事實アルモノニ限リ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

第十七條 本規程施行前ニ貸付シタル土地建物又ハ金穀ニ付返還期限ニ達セサルモノニ限リ仍從前ノ契約ニ

依ルコトヲ得

第十八條 本規程ハ明治「何」年「何」月「何」日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條 明治「何」年「何」月「何」日設定ノ基本財産管理規程ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○市町村基本財産ヲ以テ海外移住組合出資ニ運用スルノ件

(昭和四年四月十九日四地收第四〇七二號內務部長)

標記ノ件ニ關シ熊本縣知事ヨリ地方局長ニ對スル照會乙號ニ對シ甲號ノ通回答有之候趣キニ付參考迄ニ及通知候

乙 號

地第五、〇四二號

昭和三年九月十九日

熊 本 縣 知 事

內務省地方局長殿

海外移住組合資金へ市町村基本財産運用ニ關スル件

熊本縣海外移住組合(昭和二年法律第二五號ニ依リ設立シタルモノ)ニ於テハ目下組合員募集中ノ處右ハ公益上適當ノ計劃ト認メ市町村ニ於テハ其ノ基本財産ヲ運用シテ之ニ應募セントシ往々伺出ノ向モ有之候處右ハ差支ナキカ如ク被認候へ共一應貴官ノ御意見豫メ承知致度

甲 號

昭和四年三月二十日

內務省地方局長

- 二 前年度歲計剩餘金ノ何分ノ何
- 三 指定寄附金
- 四 何々

前項ノ外町村費ヨリ毎年度何圓以上ヲ積立金ニ編入ス

第三條 町村財政ノ都合ニ依リ積立額ヲ減少シ又ハ積立ヲ停止スルコトヲ得

附 則

本規程ハ何年度ヨリ之ヲ施行(適用)ス

○積立金處分ニ關スル議案

議案第

號

何々積立金處分ニ關スル件

何年度何々費ニ充ツル爲何々積立金何程(全部)ヲ町村費ニ繰入スルモノトス

年 月 日提出

何町村長 氏

名

○罹災救助資金貯蓄及管理並支出方法規程準則(大正元年十月 縣訓令第六號)

町村罹災救助資金貯蓄及管理並支出方法規程ヲ設定又ハ改正セントスル場合ハ左ノ準則ニ依リ知事ノ許可ヲ受クヘシ

罹災救助資金貯蓄及管理並支出方法規程

第一章 貯 蓄

第一條 縣罹災救助基金(又ハ郡罹災救助資金)ヨリ救助ヲ受クルニ至ラサル災害又ハ其ノ救助ヲ受クル前後

ニ於テ本市(町村)内罹災者ノ救助ヲ爲ス爲罹災救助資金ヲ貯蓄スルモノトス

第二條 罹災救助資金ハ一ケ年度金何圓ノ割合ヲ以テ明治何年度ヨリ明治何年度迄(又ハ大正何年度ヨリ何年度迄)何ケ年度ニ金何圓ヲ積立ツルモノトス(又ハ何年度ヨリ何年度迄ハ一ケ年度何程何年度ヨリ何年度迄ハ何程トシ金何程ヲ積立ツルモノトス又ハ何々金何程ヲ土臺金トシ積立ツルモノトス)但經濟上餘裕アル場合ニ於テ一ケ年度積立額ヲ増加シ其年限ヲ短縮シ非常災害若ハ事變ニ遭遇シ又ハ起債ヲ爲シ其償還ヲ了セサルノ間ハ一ケ年度ノ積立額ヲ減少シ又ハ積立ヲ停止スルコトアルヘシ

前項但書ニ依リ積立ヲ停止シタル場合ハ其ノ年數ニ應シ積立年數ヲ延長シ積立額ヲ減少シタル場合ハ平時一ケ年度積立額ノ割合ヲ以テ其年度ヲ延長ス

第三條 前項ノ外左ノ收入ハ罹災救助資金ニ編入スルモノトス

一 罹災救助資金ヨリ生スル收入

二 罹災救助資金トシテ收入スル寄贈金

第四條 救助施行ノ爲多額ノ支出ヲ要シ罹災救助資金ノ貯蓄高第二條ノ額ヲ下リタルトキハ村税又ハ其ノ他ノ收入ヲ以テ其ノ不足額ヲ補充スルモノトス

第二條ノ貯蓄期間ニ於テ積立元資ヲ支出シタルトキハ前項ノ例ニ依ル但資金ヨリ生シタル收入金ニシテ元資ニ編入シタルモノノ支出ハ之ヲ補充セサルコトヲ得

第二章 管 理

第五條 罹災救助資金ハ甲種國債登錄トシ若クハ國債證券勸業債券地方債證券日本興業銀行債券北海道拓殖銀行債券又ハ農工債券ヲ購入ス但救助準備トシテ金百圓未滿ニ限り郵便貯金又ハ確實ナル銀行ニ預入スルモノトス證券債券ハ郵便官署ニ預入ス但記名證券債券等ニシテ郵便官署ニ預入シ難キモノハ確實ナル銀行ニ保護預トス

第六條 救助施行上多額ノ費用ヲ要シ郵便貯金又ハ銀行預金ヲ以テ支辨シ難キトキハ證券又ハ債券ヲ賣却シテ其支出ニ充ツ

第七條 非常災害ニ依リ市(町村)ノ課稅減縮ノ爲歲計ヲ維持スルコト能ハサルトキ又ハ多額ノ市(町村)費ヲ要シ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限リ知事ノ許可ヲ受ケ十ヶ年以内ノ期限ヲ以テ利付積戻方法ヲ定メ其市(町村)費ニ充用スルコトヲ得但前五ヶ年度間ノ救助費平均額ノ二十倍ニ相當スル資金ハ之ヲ充用スルコトヲ得ス

第三章 支出方法

第八條 救助ノ爲罹災救助資金ヲ支出スヘキ費目左ノ如シ

- 一 避難所費
- 二 食料費
- 三 被服費
- 四 治療費
- 五 小屋掛費
- 六 就業費
- 七 學用品費
- 八 運搬用具費
- 九 人夫賃

第九條 避難所費ハ罹災者其住家ニ起臥シ難キ事實アリト認ムル場合ニ限リ必要ナル避難所ヲ設置スル爲支出スルモノトス

第十條 食料費ハ罹災者自ラ炊爨ヲ爲スコト能ハサルカ又ハ食品ヲ自辨スルニ由ナキ事實アリト認ムル場合ニ限リ焚出ヲ爲シ又ハ焚出ニ代ヘ必要ナル食品ヲ給與スル爲支出スルモノトス

焚出又ハ食品ハ一人一日白米三合ノ割合ヲ以テ之ヲ給與シ尙一人一日價格三錢以内ニ於テ鹽味噌漬物ノ内一品ヲ加給ス

焚出ノ給與ハ二日トシ食品ノ給與ハ十日以内トス但焚出ノ給與ヲ受ケタルモノニシテ尙食品ノ給與ヲ要スルトキハ焚出給與ノ日數ヲ併算シテ十日ヲ超エサルモノトス

第十一條 被服費ハ罹災者之ヲ自辨スルコト能ハサル事實アリト認ムル場合ニ限リ左ノ標準ニ依リ罹災當時必要ノ時服ヲ給與スル爲支出スルモノトス

- 一 單衣 一人一枚 價格壹圓貳拾錢以内
- 一 袷衣 一人一枚 價格壹圓八拾錢以内

第十二條 治療費ハ罹災者自ラ傷痍疾病ヲ治療シ難キ事實アリト認ムル場合ニ限リ左ノ標準ニ依リ支出スルモノトス

- 一 醫師診察料手術料旅費日當宿泊料 參拾五錢以内
- 診察料 一度 實 費
- 手術料 實 費
- 旅費 車馬賃一里 貳拾七錢以内
- 汽車賃一哩 四錢以内
- 日當 壹圓貳拾錢以内
- 宿泊料 一夜 貳圓以内
- 二 藥價及療養ニ關スル諸費
- 藥價 拾五錢以内
- 看護人 一人一日晝夜共 六拾錢以内
- 入院料 下等實費
- 治療所借家料 六錢以内
- 療養ニ關スル必要品費 實 費

但必要品ハ之ヲ給與シ又ハ貸與スルコトアルヘシ

治療ヲ爲スノ日數ハ七日以内トス但傷病者ノ情況ニ依リ尙十日以内ニ於テ其日數ヲ延長スルコトヲ得

第十三條 小屋掛費ハ災害ニ因リ家屋ヲ亡失シ又ハ潰倒セフレタル爲メ自ラ小屋掛ヲ爲スコト能ハサル事實

アリト認ムル場合ニ限り左ノ標準ニ依リ小屋掛ヲ爲シ又ハ其材料ヲ給與スル爲支出スルモノトス但小屋掛ハ亡失ノ場合材料ハ潰倒ノ場合ニ給與スルモノトス

一 小屋掛 拾五圓以内

一 小屋掛材料 八圓以内

小屋掛ハ災害ノ情況ニ依リ數家ヲ合シテ之ヲ設クルコトアルヘシ

第十四條 就業費ハ價格僅少ナル資料又ハ器具ニ依賴シ業務ニ従事スル者ニシテ罹災ノ爲就業ニ必要缺クヘカラサル資料又ハ器具ヲ亡失シ自辨スルコト能ハサル事實アリト認ムル場合ニ限り其價格ヲ合セ拾貳圓ヲ超エサル現品ヲ給與スル爲支出スルモノトス

前項ニ依リ資料又ハ器具ヲ給與スル場合ニ於テ一家内ニ従業者數人アルトキハ主タル従事者ニ對シ救助スルモノトス但生計ヲ異ニスルモノハ此限ニ在ラス

第十四條ノ二 學用品費ハ尋常小學校兒童ニシテ罹災ノ爲就學ニ必要ナル教科書又ハ文房具ヲ自辨スルコト能ハサル事實アリト認ムル者ニ限り其ノ實費ヲ支出スルモノトス

第十四條ノ三 運搬用具費ハ罹災救助ノ爲必要ナル船車馬其ノ他ノ運搬用具借入ニ要スル費用ヲ左ノ標準ニ依リ支出スルモノトス

一 船借料 船夫附一艘 一晝夜 金參圓以内

一 荷馬車借料 馬丁附一輛 一晝夜 金四圓以内

一 馱馬借料 輓夫附一頭 一晝夜 金貳圓五拾錢以内

一 荷車借料 輓夫附一輛 一晝夜 金貳圓五拾錢以内

一 其他 實費

第十四條ノ四 人夫賃ハ災害ノ際罹災救助ノ爲必要ナル場合ニ限り左ノ標準ニ依リ其ノ傭入費用ヲ支出スル

モノトス

一 人夫賃 一人 一晝夜 金壹圓五拾錢以内

第十五條 焚出ニアラサル食品、被服、小屋掛、就業及學用品ニ關スル救助ハ代金ヲ以テ給與スルコトヲ得

第十六條 罹災救助資金ヨリ救助ヲ受ケントスル者ハ罹災ノ時ヨリ二日以内ニ市(町村)長ニ出願スルモノトス

第十七條 前條ノ出願アリタルトキハ市(町村)長ハ直ニ現場ニ臨ミ其實地及事實ノ調査ヲ遂ケ救助ヲ爲スヘキモノト認メタルトキハ前條ノ制限額以内ニ於テ救助ヲ施行スルモノトス

第十八條 焚出及食品ハ下等白米ヲ以テ之ヲ給與スルモノトス但下等白米ヲ以テ給與シ能ハサル場合ハ此限ニ在ラス

第十九條 傷病者ニ對シテハ時々診察ヲ爲サシムルモノトス

第二十條 傷病者ノ治療ヲ爲ストキハ戸主又ハ其家族ヲ立會ハシメ市(町村)吏員立會ヲ爲スモノトス

傷病者治療中ハ市(町村)長又ハ其他市(町村)吏員ニ於テ時々視察ヲ爲スモノトス

第二十一條 食品、被服、小屋掛材料、資料、器具、學用品ハ之ヲ罹災者ニ給與シ受取證書ヲ徴スルモノトス

第二十二條 物件ノ買入ヲ爲ストキハ便宜ノ地ニ據リ少クトモ二三ノ商店ヨリ價格見積書ヲ徴シ最低價格ノ者ヨリ購入スルモノトス但本文ニ依ルノ暇ナキトキ又ハ特ニ其商店ニ限ル場合ハ此限ニ在ラス

焚出米ハ急迫ノ場合ニ在リテハ特ニ商店ニアラサル者ヨリ買入ヲ爲スコトヲ得但其價格ハ時價ニ依ルモノトス

第二十三條 削除

第二十四條 給與品ノ運搬其他救助ノ爲要スル雜費ハ各條ノ制限額以外ニ於テ支出スルモノトス

第六章 町村ノ財務 第二款 財産及營造物

三三七

補則

第二十五條 本規程ニヨリ賣買貸借ヲ爲ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

第二十六條 救助ノ爲買入タル物件ニテ不用ニ屬シタルトキハ之ヲ賣却シ雜收入ニ收入ス

第二十七條 本資金ハ特別會計ヲ以テ整理スルモノトス

○罹災救助基金法施行規則 (昭和四年六月二十八日 縣令第二十四號)

第四條 市町村ニ於テ罹災救助資金ノ管理支出ニ關スル規程ヲ設ケ左記各號ニ依リ之ヲ貯蓄スルトキハ其ノ申請ニ依リ縣罹災救助基金ノ豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付ス但シ資金ノ總額カ市ニ在リテハ參千圓町村ニ在リテハ千圓以上ニ達シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 市ハ貯蓄スヘキ資金ノ最少額ヲ參千圓トシ一年度參百圓以上ヲ積立ツルトキ

二 町村ハ貯蓄スヘキ資金ノ最少額ヲ千圓トシ一年度百圓以上ヲ積立ツルトキ

第五條 補助ヲ申請スル市町村ハ毎年度六月三十日迄ニ別ニ定ムル様式ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第六條 災害其ノ他ノ事由ニ依リ多額ノ市町村費ヲ要シ負擔ニ堪ヘサルトキ又ハ課稅減縮ノ爲歲計ヲ維持スル能ハサルトキニ限リ市町村長ハ知事ノ許可ヲ受ケ市ニ在リテハ千圓、町村ニ在リテハ五百圓ヲ超過スル部分ニ限リ十ヶ年以内ノ期限ヲ以テ積戻方法ヲ定メ該資金ヲ市町村費ニ充用スルコトヲ得

第六條ノ二 市町村罹災救助資金ノ貯蓄額カ第四條所定ノ最少額ヲ超ユル市町村ハ毎年度其ノ前々年度ニ於テ資金ヨリ生シタル收入ヨリ其ノ年度ノ救助費管理費及資金運用上ノ損失ヲ控除シタル金額ヲ第四條ニ規定スル最少額ヲ下ラサル範圍内ニ於テ之ヲ救護法施行其ノ他ノ社會事業ニ要スル經費ニ充ツルコトヲ得

第七條 市町村ノ罹災救助資金ハ之ヲ特別會計トスヘシ

罹災救助資金補助申請

年度初現在資金總額	規定ニ依ル一年度積立額	初年度積立	本年度積立金ノ内	備	考
	補助申請年度積立額	年月日	充用額ニ對スル補填額		(資金充用ノ場合ハ其ノ金額年度事由等記入スヘキモノトス)

當(市、町、村)罹災救助資金前記ノ通ニ有之候條罹災救助基金法施行規則第四條ニ依リ相當補助相成度別紙資金貯蓄規程相添及申請候也

年 月 日
知 事 宛

市 町 村 長 印

○罹災救助基金法施行規則改正ニ關スル件

(昭和七年十一月廿六日七社 收第七、四三三號學務部長)

罹災救助基金法ノ改正ニ伴ヒ罹災救助基金法施行規則ヲ改正シ本年十一月二十二日縣令第六十九號ヲ以テ公布相成候處其ノ要點ハ市町村罹災救助資金ヨリ生スル收入ヲ救護法施行其他社會事業ニ要スル經費ニ充當シ得ルノ途ヲ拓キ且ツ新ニ救助費目トシテ埋葬費ヲ加ヘタルニ在リ之カ運用ニ關シテハ特ニ左記各項御留意ノ上萬遺憾ナキヲ期セラレ度此段依命及通牒候也

記

一、改正施行規則ノ實施ニ伴ヒ罹災救助資金ノ管理支出ニ關スル規程中改正ヲ要スルモノニ付テハ速ニ改正スルコト

尙從來ノ規程ハ社會事情ノ變遷ニ伴ヒ實情ニ副ハサル憾アルモノ尠カラサルヲ以テ此ノ機會ニ於テ夫々地方ノ實情ニ應シ適當ナル改正ヲ加フルコト

二、埋葬費ノ限度ハ一人十圓以内ニ於テ各地方ノ實情ニ應シ適宜之ヲ定ムルコト

三、被服費中ヨリ寝具費ヲ支出スルハ差支ナキニ付一人五圓以内ニ於テ定ムルコト
四、食料費中ヨリ食器又ハ炊爨用品ノ費用ヲ支出スルモ差支無之

(以下略)

○市區町村ノ農業倉庫業ニ關スル件通牒(大正六年十月四日內務省發地第二〇二號地方局長)

農業倉庫業法ニ依ル市區町村ノ農業倉庫業ニ關シテハ左記ノ通御取扱相成度

記

- 一 市區町村カ農業倉庫業者タラントシ之カ認可ヲ請フトキハ該事業及其財政計畫業務執行方法ノ當否ハ勿論當該市區町村吏員ノ能否納稅ノ成績、基本財産ノ管理其ノ他財務ノ狀況竝ニ一般事業ノ成績等篤ト審査ヲ遂ケ佳良ナル實績ヲ擧ゲ得ルモノト確認シ得ル場合ニ限り之ヲ認可スルノ方針ヲ以テ處理セラレ度特ニ町村カ農業倉庫業經營ノ爲ニ基本財産積立金穀ヲ繰入使用スル場合ニ在リテハ前段認可ヲ爲スニ付深甚ナル注意ヲ加ヘラレ度
- 二 農業倉庫ノ保管料ニ關シテハ農業倉庫業法施行規則第二條ニ依リ業務規程ニ之ヲ記載スルモ市區町村ノ農業倉庫ノ保管料ニ付テハ市區町村ノ營造物ノ使用料ニ關スル法令ノ適用アル義ニ付該保管料新設ノ許可ヲ內務大藏兩省ニ稟請スル場合ニハ農業倉庫業法施行規則第一條第二號乃至第九號ノ事項ヲ記載シタル書面ニ業務規程及市區町村ノ歳入出豫算ヲ添付セシメ尙第一項ニ依リ審査セラレタル事項ノヲ添御進達相成度調書
- 三 市區町村カ農業倉庫業ノ經營困難ナルカ又ハ其事業ノ施行違法若クハ不適當ニシテ市區町村ノ一般事務若ハ財政上ニ惡影響ヲ及ホシ又ハ及ホスノ虞アリト認メ市制第六十一條第二項町村制第四百四十一條第二項北海道區制第三百三條第二項沖繩縣區制第二百二十二條第二項等ノ規定ニ依リ必要ナル命令又ハ

處分ヲ爲シタルトキハ直ニ報告相成度

四 農業倉庫業者ニ對スル監督ニ付テハ農業倉庫業法第十六條ノ規定アルモ市區町村ノ農業倉庫業ニ關シテハ市制町村制及之ニ代ルヘキ制ノ規定ニ依リ市區町村ニ對シテ監督權ヲ有スル行政官廳ハ其法律勅令ニ依リ監督權ヲ行使シ得ル義ト御承相成度

○公共團體ノ管理スル公共用土地物件ノ使用ニ關スル法律

(大正三年四月法律第三十七號)

第一條 公共團體ニ於テ管理スル道路、公園、堤塘、溝渠其ノ他公共ノ用ニ供スル土地物件ヲ濫ニ使用シ又ハ許可ノ條件ニ反シ使用スル者ニ對シ管理者タル行政廳ハ地上物件ノ撤去其ノ他原狀回復ノ爲必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

第二條 前條ノ場合ニ於テハ行政執行法第五條及第六條ノ規定ヲ準用ス

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參 照)

道路法第六十三條 左ニ掲クル法令ノ規定ハ本法ニ依ル道路ニ關シ之ヲ適用セス
十三 大正三年法律第三十七號

○財産及營造物ニ關スル報告

市町村町村組合及水利組合事務報告規程(大正十五年七月縣訓令第三十一號)
第二條 左ノ事項ハ市町村長ヨリ知事ニ報告スヘシ

(様式省略第九章市町村組合及水利組合事務報告規程参照)

第三款 使用料及手数料

○町村制

第九十二條 町村ハ第九十條第一項ノ使用者ヨリ使用料ヲ徵收シ同條第二項ノ使用ニ關シテハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料及加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得

第九十三條 町村ハ營業物ノ使用ニ付使用料ヲ徵收スルコトヲ得

町村ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第九九條 使用料手数料及特別税ニ關スル事項ニ付テハ町村條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ
詐僞其ノ他ノ不正ノ行爲ニ依リ使用料ノ徵收ヲ免レ又ハ町村税ヲ逋脱シタル者ニ付テハ町村條例ヲ以テ其ノ徵收ヲ免レ又ハ逋脱シタル金額ノ三倍ニ相當スル金額(其ノ金額五圓未満ナルトキハ五圓)以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

前項ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手数料及町村税ノ賦課徵收ニ關シテハ町村條例ヲ以テ五圓以下ノ過料ヲ科スル規程ヲ設クルコトヲ得財産又ハ營造物ノ使用ニ關シ亦同シ

過料ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ町村長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四百十七條 左ニ掲クル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ但シ第一號、第四號、第六號及第十一號ニ掲ク

ル事件ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノハ其ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ
四 使用料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

○市制町村制施行令

第五十九條ノ二 左ニ掲クル事件ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ

一 水道(大正十年勅令第三百三十一號第一號ニ該當スルモノヲ除ク)、電氣、瓦斯、鐵道、軌道及自動車並中央卸賣市場法ニ依ル市場ノ使用料ニ關スルコト

第六十條 左ニ掲クル事件ハ監督官廳ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス

三 公告式、印鑑、書類送達、諸證明、市町村ノ一部ノ區會又ハ區總會ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改廢スルコト

四 公會堂、公園、水族館、動物園、植物園、鑛泉、浴場、共同宿泊所、消毒所、產婆、胞衣及產穢物焼却場、幼兒哺育場、商品陳列所、勸業館、農業倉庫、穀類乾燥場、種畜、牛馬種付所、斃獸解剖場、獸醫、上屋、荷揚場、貯木場、土砂採取場、石材採取場、農具ノ管理及使用並ニ使用料ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改廢スルコト

五 手数料、加入金、延滞金及積立金穀ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改廢スルコト
八 使用料、特別税又ハ委員ニ關スル條例ヲ廢止スルコト

○督促手数料條例

何町(村)督促手数料條例

第一條 本町(村)税其ノ他ノ收入金ヲ納期內ニ完納セサル者ニ對シ督促狀ヲ發シタルトキハ本條例ノ規定ニ

依リ督促手數料ヲ徵收ス但シ縣稅督促狀ニ併記シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 督促手數料ハ督促狀一通ニ付金何程トス

第三條 本町(村)外ニ居住スル者ニ對シ督促狀ヲ發スルトキハ前條ノ外脚夫ヲ以テ送達スル場合ハ其ノ里程

ニ應シ一里毎ニ金何程郵便ヲ以テ送達スル場合ハ其ノ實費ヲ増手數料トシテ徵收ス但シ十八町以上ノ端數ハ一里ニ滿タシム

第四條 督促手數料及増手數料ハ督促狀ニ記載シ滯納金ト同時ニ之ヲ徵收ス

附 則

本條例ハ告示ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(備考)

一、督促手數料條例ニ付テハ左ノ各項ニ依リ取扱フコト

一 督促狀ノ發付ハ一回ニ止メ其手數料金額ハ一通ニ付金十錢以内ヲ徵收スルヲ得ルコト但特別ノ事情アルモ金貳拾錢ヲ超ユルヲ得サルコト

二 督促狀ヲ發付スル町村町村組合以外ニ在ル滯納者ニ對シテハ前項ノ外脚夫ヲ以テスル場合ハ其里程ニ應シ一里毎ニ金十錢以内郵便ヲ以テスル場合ハ其實費ヲ以テ増手數料トシテ徵收スルヲ得ルコト但シ物價騰貴等ノ爲脚夫ノ雇入レ困難ナル等特別ノ事情アル町村ニ在リテハ一里毎ニ金二十錢以内ニ定ムルモ差支ナキコト

三 督促手數料ハ滯納金ト同時ニ徵收スルコト

○事務手數料條例(明治四十三年五月三日地發 第二一號內務部長通牒)

町村制第八十九條(改正法第九十三條)ニ依ル手數料條例設定ニ關シ從來照復ヲ重ネ相互ノ手數容易ナラサル

ニ依リ今後ハ條例ヲ設定若クハ改正セントスル場合ニハ別紙ノ例ニ據リ事件ヲ拾拾シ條例ヲ設ケシメラレ度且特別ノ事情アルモノノ外證明、謄本、抄本ノ下付閱覽、照合、一件ニ付金貳拾錢以内徵稅傳令書、賦課令狀納入告知書ノ再交付ハ一件ニ付金貳錢以内ニ於テ實際ノ狀況ヲ斟酌シ其高低ニ付權衡ヲ失セサル様定メラレ度

何縣何郡何町(村)手數料條例

第一條 本町(村)ハ本條例ノ定ムル所ニ依リ手數料ヲ徵收ス但シ法律命令ニ依リ取扱フ者ハ此ノ限ニアラス

第二條 手數料ヲ徵收スヘキ事件ノ種類及金額左ノ如シ

一	地租(營業稅)所得稅其他租稅公課ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
二	土地建物船車牛馬其ノ他動產ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
三	資産ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
四	鑛業ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
五	營業職業ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
六	法人ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
七	本籍住所居住ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
八	削除	一件ニ付	金	何	錢
九	族稱、身分、氏名、年齢ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
十	身元ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
十一	品行經歷ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢

十二	在學修學ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
十三	兵役ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
十四	身代限、家資分散、破産ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
十五	刑罰懲戒處分ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
十六	褒賞ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
十七	生存不在失踪ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
十八	出產、死亡、死産、〔結婚〕、相續ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
十九	家族、親族、隣佑ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
二十	親權者、後見人ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
二十一	面識ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
二十二	諸資格ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
二十三	雇人ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
二十四	財産管理人、破産管財人ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
二十五	〔納稅代人〕ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
二十六	種痘ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
二十七	旅行ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
二十八	印鑑ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
二十九	里程ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
三十	航路航海ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢

三十一	社寺宗教ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
三十二	埋火葬ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
三十三	土地其他被害ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
三十四	公權能力ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
三十五	漂流物、沈没品ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
三十六	文書受理ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
三十七	公簿、公文書、圖面ニ關スル證明	一件ニ付	金	何	錢
三十八	徵稅〔傳令書、賦課令狀〕納入告知書ノ再交付	一件ニ付	金	貳	錢
三十九	公簿、公文書、圖面、印鑑ノ閱覽照合	一件ニ付	金	何	錢
四十	但公簿、公文書ノ閱覽ハ公衆ノ閱覽ニ供シ差支ナキモノニ限ル	一件ニ付	金	何	錢
土地建物中土地ハ三筆建物ハ三棟迄ヲ一件トシ以上一筆又ハ一棟ヲ増ス毎ニ何錢ヲ加フ					
土地建物中土地ハ三筆建物ハ三棟迄ヲ一件トシ一枚ヲ増ス毎ニ金何錢ヲ加フ					
第三條	前條第一項第三號乃至第三十七號中ノ事項ヲ一括シテ一通ノ證明書ヲ作製スル場合ハ紙數一枚ヲ以テ一件トシ金何錢ヲ徵收シ以上一枚ヲ増ス毎ニ金何錢ヲ加フ				
第四條	手數料ハ申請ノトキ之ヲ徵收ス				
第五條	手數料ノ納付後申請事項ヲ變更シ又ハ之ヲ取消モ手數料ハ還付セス				
ナシト認ムル者ニ限り手數料ヲ徵收セス					

鑛山主ノ求メニ依ル鑛夫ノ兵役ニ關スル證明ハ手数料ヲ徵收セス（明治四十三年八月九日地收第四二三六號ノ二内務部長通牒追加）

法規簿冊、官報、縣報及諸願伺書書式ノ閱覽ハ手数料ヲ徵收セス

附 則

本條例ハ告示ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○寄留手数料ニ關スル件通牒（大正四年四月十六日四地發第二二八七號内務部長）

曩ニ四十三年地發第二一號ヲ以テ町村事務手数料ニ關スル準則ニ付キ通牒候處該準則中寄留ニ關スル事項ハ本年一月寄留法並寄留手續令實施ノ結果同法ニ依リ取扱フ事ト相成候ニ付將來條例ヲ設定若クハ改正スル場合ハ該事項ヲ除キ條例ヲ設ケシメラレ度尙先ニ許可シタル分モ機ヲ見テ相當改正セシメラレ度右通牒ス

○鑛夫ノ兵役ニ關スル證明手数料ノ件通牒（明治四十三年八月九日地收第四二三六號ノ二内務部長）

所在不明ノ徵兵處分未濟者調査上必要ノ爲鑛山主ハ鑛夫ノ徵兵上ノ關係ヲ調査シ置クヘキコトニ命令相成候ニ付鑛山主ヨリ本籍町村長ニ對シ鑛夫ノ徵兵關係ニ付キ證明ヲ求ムルコト可有之モ右證明ニ關シテハ町村條例等ニ依ル手数料ヲ徵收セシメサル様可致旨其筋ヨリ通牒有之候就テハ本年五月三日付地發第二一號通牒手数料條例設定例第五條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ追加シ第二項ヲ第三項ニ繰下ケ候條爾後同條例ヲ設定セントスルモノハ右ニ依ラシメ尙既ニ設定シアルモノハ折ヲ以テ同様改正セシメラレ度依命通牒ス

第五條第二項

鑛山主ノ求メニ依ル鑛夫ノ兵役ニ關スル證明ハ手数料ヲ徵收セス

○土地丈量手数料ニ關スル件通牒（大正七年五月二日地發第九六五號六内務部長ヨリ入間郡長）

土地丈量手数料ニ關シテハ左記ノ通り解釋致スヲ適當ト認候ニ付左ニ準シ條例改正ヲ可致様夫々御移牒相成度尙今後土地丈量手数料ヲ新設スル町村ニ對シテハ用語ニ付キ特ニ御注意相成様致度右依命通牒ス

記

- 一 「一筆一反步」トハ一筆及一反步ノ意ニ非スシテ一筆内一反步ノ意ナルコト即チ一反步ナルモ二筆以上ナルトキハ之ニ該ラサルコト其他之ニ準ス
- 二 「一反步迄」トハ其未滿ノ部分ヲ算入スルモ單ニ「一反步」トスルトキハ未滿ノ部分ヲ算入セサル意ナルコト其他之ニ準ス

○公會堂使用條例

浦和市公會堂使用條例

- 第一條 公會堂ヲ使用セントスル者ハ其目的及日時ヲ申出テ市長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第二條 左ニ掲クル場合ハ使用ヲ許可セス又ハ許可ヲ取消シ若ハ變更スルコトアルヘシ
 - 一 公益ヲ害スル虞アリト認メタルトキ
 - 二 建物又ハ附屬物ヲ毀損スル虞アリト認メタルトキ
 - 三 使用者又ハ代理人本條例ニ違反シタルトキ
 - 四 前各號ノ外市長ニ於テ必要アリト認メタルトキ
- 第三條 公會堂ハ其ノ使用ノ目的方法ニ依リ甲種乙種ノ二種ニ區分シ使用料ニ等差ヲ設ケ之ヲ徵收ス
- 第四條 甲種乙種ノ種別ハ大樣次ノ如ク定ム

一、甲種

會合者ヨリ入場料其他之ニ類スル金錢ヲ徵收セス使用スル場合

一、乙種

- (イ) 會合者ヨリ入場料其他之ニ類スル金錢ヲ徵收シ使用スル場合
- (ロ) 商品陳列其他賣店類似ノ行爲ノタメ使用スル場合
- (ハ) 興行又ハ之ニ類似スルモノ或ハ之カ設備ヲナシテ使用スル場合但シ前項ノ場合ニシテ教育慈善等公益ト市長ニ於テ認ムルモノハ會合者ヨリ入場料其他之ニ類スル金錢ヲ徵收セサル場合ニ限り甲種ト看做スコトヲ得

第五條 公會堂ノ使用料ハ左ノ區分ニ依リ使用前徵收ス

種別	使用區別			晝	夜	晝夜連續
	第一號室	第二號室	第三號室			
甲種	第一號室	第二號室	第三號室	金五圓	金六圓	金七圓五拾錢
	第一號室	第二號室	第三號室	金參圓五拾錢	金四圓五拾錢	金五圓五拾錢
	第一號室	第二號室	第三號室	金壹圓五拾錢	金貳圓	金貳圓五拾錢
乙種	第一號室	第二號室	第三號室	金拾八圓	金拾九圓	金貳拾圓
	第二號室	第三號室	第一號室	金拾貳圓	金拾參圓	金拾五圓
	第三號室	第一號室	第二號室	金五圓	金五圓五拾錢	金六圓

但シ甲種乙種ノ場合トモ常設電燈以外ニ電燈ノ設備ヲ要スル場合ノ費用ハ使用者ノ負擔トス

第六條 公會堂使用中建造物及器具備品等ヲ破毀シ若ハ汚損又ハ紛失シタルトキハ何人ノ所爲タルヲ問ハス使用出願者ニ對シ損失ニ係ル金額ヲ賠償セシムヘシ

第七條 公會堂使用者使用ヲ終リタルトキハ清潔ニ掃除シ且器具ヲ整理スヘシ

第八條 使用許可ヲ取消シ又ハ之ヲ變更スルモ既納使用料ハ之ヲ還付セス但シ第二條第四號ノ場合ハ既納使用料ノ全部又ハ其ノ超過額ヲ還付スルコトアヘシ

○墓地使用條例(明治三十八年二月十七日一收第五五六六號ノ四內務部長ヨリ北足立郡長ニ通牒)

御部内浦和町墓地使用料ニ關スル條例案ノ義條文簡短ニシテ實施上或ハ差支ヲ生スヘク就テハ左記案文ニ依リ再考改案ノ上更ニ提出セシメ候様致度別紙相添ヘ此段及照會候也

北足立郡浦和町有墓地使用條例

第一條 本町有墓地ヲ使用セントスルモノハ其位置、等級及坪數ヲ記載シタル書面ニ墓地管理者ノ證印ヲ得テ之ヲ町長ニ差出シ其許可ヲ受クヘシ

第二條 墓地ハ之ヲ三等ニ區分シ各等地ニ地割ヲ定メ順次接續地ノ使用ヲ許可ス但シ事情ニ依リ順序ニ拘ハラスシテ特定ノ地ヲ使用セントスル者アルトキハ之ヲ許可スルコトヲ得

第三條 墓地使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ地坪一坪毎ニ左ノ使用料ヲ納付スヘシ但シ一坪未滿ハ其歩合ニ依リ

- 一 等地 金壹圓五拾錢
- 二 等地 金壹圓
- 三 等地 金五拾錢

前條但書ノ場合ニ於テハ使用料金何分ノ一ヲ増徴ス

第四條 死者ノ名譽ヲ表彰スル爲其他特別ノ場合ニ於テ前條ノ使用料ハ之ヲ徵收セサルコトヲ得

第五條 使用料ハ墓地使用許可ノ時之ヲ徵收ス

第六條 墓地使用ノ坪數ハ出願者毎ニ左ノ制限ヲ超ヘ又ハ降ルコトヲ得ス

- 一 等地 何坪(半坪ノ如キモノ)以上 何坪以下
- 二 等地 何坪(同上)以上 何坪以下
- 三 等地 何坪(同上)以上 何坪以下

第七條 墓地使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ其權利ヲ以テ賣買讓與交換其他債務擔保ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第八條 墓地使用者ハ使用ノ方法其他墓地内ノ設備ニ付墓地管理者ノ承認ヲ受クルヲ要ス

第九條 墓地使用ノ方法其他墓地内ノ設備ニ付他ノ妨害トナリ又ハ危險ノ虞アリト認メタルトキハ町長ハ其ノ使用者ニ對シ其ノ變更中止又ハ廢止ヲ命スルコトアルヘシ

第十條 使用ノ許可ヲ受ケタル墓地ヲ返還セントスル者ハ之ヲ原形ニ復シ墓地管理者ノ證印ヲ得テ町長ニ届出ツヘシ

第十一條 墓地中ニ等外地ヲ設ケ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ使用料ヲ徵收セスシテ其ノ使用ニ充ツ

一 町長ニ於テ使用料納付ノ資力ナシト認メタル者ニ使用ヲ許可シタルトキ

二 行旅死亡人假埋葬ノトキ

等外地ヲ使用スル場合ニ於テハ町長ハ其使用スヘキ坪數ヲ指定スヘシ

第十二條 本條例施行ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第十三條 本條例ハ公布ノ日ヨリ何日ヲ經テ之ヲ施行ス

細則ハ大體左ノ主旨ニ依ル

町長墓地使用ヲ許可シタルトキハ使用者ニ墓地使用券ヲ交付スルコト

墓地使用券ニハ使用ヲ許可シタル墓地ノ位置、等級、坪數、使用料額、使用許可ノ年月日、使用者ノ族籍

姓名其他必要ト認ムル事項ヲ記載シ墓地使用券ノ番號ヲ附シ町長捺印スルコト(以上條例第一條參照)

墓地ノ等級ヲ區畫スルニハ町會ノ決議ヲ要スルコト特ニ使用料ヲ徵收セスシテ使用ヲ許可スル場合ニモ町會ノ決議ヲ要スルコト(以上同第三條同第四條參照)

最上限ノ坪數ヲ使用スル者他ニ改葬地ノ使用ヲ出願スルトキ等ニ於テハ前地ハ既ニ返還シタルモノト看做シテ新地ノ使用ヲ許可スル等適宜ノ規定ヲ爲スヘキコト(同第六條參照)

相續ニ因リテ墓地使用權ヲ相續シタル墓地使用者ノ相續人ハ一定ノ期限内ニ墓地使用券ノ名義書換ヲ請求スヘキコト(同第七條參照)

墓地管理人ハ第八條ニ依リテ承認ヲ拒ミタルトキハ直ニ其理由ヲ具シテ町長ニ報告スヘキコト

町長ハ此報告ヲ受ケ墓地管理人ノ否認ヲ以テ正當ナラスト認メタルトキハ墓地管理人ニ對シ承認ヲ與フヘキコトヲ命スヘキコト

墓地使用券ヲ亡失若クハ毀損シ又ハ其ノ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキハ使用者ノ請求ニ因リ町長ハ其再交付又ハ書換ヲ爲スヘキコト

使用ノ許可ヲ受ケタル墓地ヲ返還セントスル者ハ返還地ヲ原形ニ復シタルコトヲ證スル墓地管理者ノ證印アル返還願書ニ墓地使用券ヲ添付シテ之ヲ町長ニ差出スヘキコト

等外地ノ位置面積等ハ町會ノ決議ヲ經テ之ヲ定ムヘキコト(同第十一條參照)

其他必要ノ事項

○火葬場使用條例

何町村火葬場使用條例

第一條 本町村ハ本町村火葬場ヲ使用スル者ヨリ左ノ使用料ヲ徵收ス但シ法令ノ規定ニ依リ火葬ヲ要スルモ

ノハ此ノ限ニ在ラス

一 等

大人金何程

小人金何程

二 等

大人金何程

小人金何程

三 等

大人金何程

小人金何程

本町村住民以外ノ死屍ヲ火葬スル場合ハ前項使用料ノ何割ヲ増徴ス

第二條 火葬場ヲ使用セムトスル者ハ其ノ日時及等級ヲ申出テ町村長ノ許可ヲ受クヘシ

使用出願者同日ニ數人アルトキハ出願ノ順序ニ依リ使用セシム

第三條 使用料ハ使用許可ト同時ニ之ヲ徴收シ其ノ納付後出願者ノ都合ニ依リ使用セサルコトアルモ之ヲ還付セス

第四條 貧困ノ爲公費ノ救助ヲ受クル者又ハ町村長ニ於テ使用料ヲ納付スルノ資力ナシト認メタル者ニ對シテハ使用料ヲ免除ス

第五條 火葬ノ爲要スル一切ノ費用ハ使用者ノ負擔トス

第六條 許可ヲ受ケスシテ火葬場ヲ使用シタル者ハ何圓以下ノ過料ニ處シ且ツ其ノ使用ニ對シテハ第一條ノ使用料ヲ追徴ス

附 則

本條例ハ告示ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○屠場使用條例

何町村屠場使用料條例

第一條 本町村ハ本町村屠場ヲ使用スル者ヨリ左ノ使用料ヲ徴收ス

一 屠殺ヲ包含スルモノ

牛 一頭ニ付

金何程

馬 一頭ニ付

金何程

豚 一頭ニ付

金何程

何々 一頭ニ付

金何程

二 屠場使用ノミノモノ

牛 一頭ニ付

金何程

何々 一頭ニ付

金何程

第二條 屠場ヲ使用セムトスル者ハ屠畜ノ種類數量及使用種別ヲ記シ其ノ前日迄ニ町村長ニ申請シ許可ヲ受クヘシ

使用出願者同日ニ數人アルトキハ出願ノ順序ニ依リ使用セシム

第三條 使用料ハ使用ノ許可ト同時ニ之ヲ徴收シ其ノ納付後出願者ノ都合ニ依リ使用セサルコトアルモ之ヲ還付セス

第四條 許可ヲ受ケスシテ屠場ヲ使用シタル者ハ何圓以下ノ過料ニ處シ且ツ其ノ使用ニ對シテハ第一條ノ使用料ヲ追徴ス

附 則

本條例ハ告示ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○墓地火葬場屠場使用料ニ關スル件通牒

(明治四十年十月二十九日内務省地甲第三七號地方、主税、普通學務三局長)

今般墓地、火葬場、屠場使用料ノ新設増額變更等ノ許可權委任相成候處右使用料額ハ其施設及土地ノ情況ニ

依リ同一ナル能ハス要ハ其地方ノ實況ニ適應シ苛重ニ涉ルナキヲ要スルモノナレハ其邊宜シク御留意御取扱

- 墓地使用料 一坪ニ付 金 參圓
- 火葬場使用料 屍一ニ付 金 參圓
- 屠場使用料 屠殺ヲ含ムモノ壹頭ニ付 金貳圓五拾錢
- 屠場使用ノミノモノ壹頭ニ付 金壹圓五拾錢

○水道使用條例

兒玉町水道使用條例

第一章 通 則

- 第一條 本町水道ノ給水區域ハ本町一圓トス
- 第二條 本町水道ハ量水器ニ依リ其ノ使用量ヲ計量シテ給水ス但シ使用料ヲ徴收セサルモノニシテ計量ノ必要ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第三條 本條例ニ於テ給水設備ト稱スルハ給水ノ爲配水管ヨリ分岐シタル給水管及之ニ附屬スル給水用具(量水器ヲ含ム)ヲ謂フ
- 第四條 給水設備ノ所有權ハ工費ノ精算完納ニ依リ請求者ニ歸屬ス
給水設備ノ所有權ヲ移轉シタルトキハ當事者連署ヲ以テ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ新所有者ハ前所有者ノ權利義務ヲ繼承ス
- 第五條 給水ノ設備ヲ分チテ左ノ四種トス
 - 一 專用栓 一戸又ハ一ヶ所ノ用ニ供スルモノ
 - 二 共用栓 公設又ハ私設トシ三戸以上ノ共用若ハ公衆ノ用ニ供スルモノ
 - 三 特別栓 左ノ用ニ供スルモノ

(イ) 噴水、瀧池、庭園其ノ他娛樂用ノモノ

(ロ) 工事其ノ他一時用

(ハ) 前各號ノ外町ニ於テ特別栓ニ依リ使用セシムル必要アリト認ムルモノ

四 消火栓 公設又ハ私設トシ防火用ニ供スルモノ

第六條 公設共用栓ハ十戸以上使用者アル場合町ニ於テ其ノ位置、使用者ヲ定メ町費ヲ以テ設置スルモノトス

私設共用栓ハ私有地家屋外ニ設置スルモノトス

公衆用共用栓ハ町ニ於テ其ノ位置ヲ定メ町費ヲ以テ之ヲ設置スルモノトス

第七條 共用栓使用者ニハ鑑札及鍵ヲ交付ス

鑑札及鍵ハ連結シテ使用スヘシ

亡失シタル鑑札及鍵ニシテ再交付ヲ受ケタル後ニ於テ發見シタルトキハ直ニ之ヲ返納スヘシ

第八條 共用栓使用者ハ一栓毎ニ組合ヲ設ケ水栓管理人ヲ選定シ町長ニ届出ツヘシ更迭ノ場合亦同シ但シ町長ニ於テ不適任又ハ不都合ノ行爲アリト認ムルトキハ管理人ノ變更ヲ命シ又ハ之ヲ選任スルコトアルヘシ
管理人ハ組内ニ於ケル給水開始ノ請求、使用者ノ出入、鑑札及鍵ノ受渡、使用者ノ取締、料金ノ納付其ノ他共用給水ニ關スル一切ノ事務ヲ處辨スヘシ

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ共用栓使用者タルコトヲ得ス但シ專用栓ノ設備ヲ爲シ難キ事由アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

- 一 所得稅ヲ納ムル者
- 二 町稅特別稅戶數割十圓以上ヲ納ムル者
- 三 建坪十五坪以上ノ家屋ニ住居スル者

第十條 公設消火栓ハ街路上必要ノ位置ニ町費ヲ以テ之ヲ設置ス

私設消火栓ヲ設置セムトスル者ハ町ノ承認ヲ受クヘシ但シ其ノ位置ハ私有地又ハ私有建物内ニ限ル

第十一條 消火栓ハ火災又ハ防火演習ノ場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ許サス
消火栓ハ町ニ於テ之ヲ封緘ス

第十二條 私設消火栓ハ防火ニ際シ公共又ハ公衆ノ使用ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ使用ニ際シ損害ヲ加フルコトアルモ町ハ其ノ賠償ノ責任セス但シ給水設備ヲ破損セルトキハ町ニ於テ修繕スルモノトス

第十三條 水道ハ非常ノ場合ヲ除クノ外使用ノ目的以外ニ使用シ又ハ分與販賣ノ爲使用スルコトヲ得ス但シ町長ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 給水ノ設備ハ場合ニ依リ之ヲ拒絶スルコトアルヘシ但シ普通家事用ニ供スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 左ノ場合ニ於テハ給水管ヲ切斷スルコトアルヘシ

一 水道ノ使用ヲ廢止シタルトキ

二 給水設備所有者三十日以上所在不明ニシテ管理人ナキトキ

三 水道使用廢止ノ状態ニ在リト認メタルトキ

四 違背處分ヲ受クルモ其ノ行爲ヲ改メサルトキ

第十六條 左ノ場合ニ於テハ給水ノ制限又ハ停止ヲ爲シ若ハ給水設備ノ變更、修繕、増設、移轉、撤去ヲ爲サシムルコトアルヘシ

一 天災地變其ノ他避クヘカラサル事故アリタルトキ

二 水道工事又ハ管理上必要ト認ムルトキ

三 其ノ他公益上必要ト認ムルトキ

給水ノ制限又ハ停止ハ町長ニ於テ之ヲ告示ス但シ急迫ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 前條ノ場合又ハ漏水、斷水ヨリ生スル損害ニ付テハ町ハ賠償ノ責任セス

第十八條 本町居住者ニ非スシテ本町内ニ家屋ヲ所有シ設備又ハ給水ヲ請求セムトスル者ハ本町内居住者ヲ管理人ト定メ連署ヲ以テ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

本町居住者ニ非サル者給水設備ヲ取得シタルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

町長ハ前二項ノ規定ニ依リ届出テタル管理人ヲ適當ナラスト認メタルトキハ變更セシムルコトヲ得

第十九條 給水設備ノ所有者、管理人及使用者ハ給水設備ノ保全ニ關シ共ニ其ノ責任ス破損其ノ他異狀アリト認メタルトキハ速ニ町長ニ届出ツヘシ

第二十條 給水栓以外ノ用具ハ水道掛員ノ指定シタル部分ノ外之ニ觸レ又ハ開閉スヘカラス

第二十一條 水道使用者ノ門戸ニハ本町所定ノ標識ヲ掲クヘシ

第二章 給水設備及工費

第二十二條 給水設備ノ新設、増設、變更、修繕、撤去ハ請求ニ依リ町ニ於テ之ヲ施工ス但シ町ニ於テ必要ト認ムルトキハ請求ヲ俟タスシテ修繕又ハ加工ヲ爲スコトアルヘシ

給水設備ノ請求者特ニ町ノ承認ヲ受ケタルトキハ自己ノ材料ヲ提供シ又ハ自ラ量水器以下ノ流末工事ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ設計、材料及工事ノ検査ヲ受クヘシ

工事其ノ他一時用ノ給水設備ニ要スル材料ハ町有ノモノヲ使用セシムルコトヲ得

第二十三條 配水管ノ布設ナキ場所ニ於テハ給水設備ヲ拒絶スルコトアルヘシ但シ設備請求者ニ於テ配水管布設ノ費用ヲ負擔シ其ノ配水管ヲ町ニ於テ無償ニテ使用スルコトヲ承認スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條 他人ノ給水管ヨリ分岐シテ給水栓ヲ設置セムトスルトキハ其ノ所有者ノ承諾書ヲ添ヘ請求スヘ

本管所有者給水ノ廢止ヲ爲シ又ハ其ノ本管ノ撤去ヲ請求セムトスルトキハ豫メ分岐引用者ニ通知スヘシ此ノ場合ニ於テ分岐引用者本管取得ノ手續ヲ爲ササルトキハ水道ノ使用ヲ廢止シタルモノト看做ス

第二十五條 道路工事其ノ他ノ事由ニ因リ公用地内ニ於ケル給水設備ノ改造又ハ修繕ノ必要アルトキハ町ニ於テ之ヲ施工ス

前項ノ費用ハ其ノ改造又ハ修繕ノ必要ヲ生セシメタル者ノ負擔トス

第二十六條 給水設備ノ位置ハ請求者ニ於テ之ヲ指定スヘシ若其ノ指定ヲ不適當ト認ムルトキハ之ヲ變更セシムルコトアルヘシ

第二十七條 左ノ場合ニ在リテハ給水設備ノ請求ヲ取消シタルモノト看做ス

- 一 指定期限迄ニ設備費概算額ヲ豫納セサルトキ
- 二 請求ノ日ヨリ三十日以内ニ給水設備ノ位置ヲ指定セサルトキ
- 三 工事執行ニ際シ請求者ノ責ニ歸スヘキ事故ノ爲四十日以内ニ工事ニ着手スルコト能ハサルトキ

第二十八條 給水設備ノ請求者ハ町ノ指定スル設備費概算額ヲ豫納スヘシ但シ官公署學校等ニシテ豫納ノ必要ナシト認ムル者又ハ概算調査ノ暇ナキトキ若ハ小工事ニシテ豫納ノ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ豫納金ハ設備完了後精算シ殘餘アルトキハ其ノ殘額ヲ還付シ不足ヲ生シタルトキハ其ノ不足額ヲ追徴ス

第二十九條ノ規定ニ依リ給水設備費ヲ月賦ヲ以テ納付スル者ニ在リテハ月賦概算額ヲ豫納セシム

第二十九條 給水設備費ヲ一時ニ納入スルコト能ハサルトキハ町ノ承認ヲ受ケ六ヶ月以内ノ月賦ヲ以テ納付スルコトヲ得

月賦金完納前ニ於テ給水設備撤去ノ請求ヲ爲ス場合ハ未納ニ係ル設備費ハ即時完納スヘシ

第三十條 設備費月賦金ヲ指定期限迄ニ納入セサルトキハ給水設備ヲ撤去スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ給水設備又ハ其ノ材料ヲ處分シ未納設備費及給水設備撤去ノ費用ニ充當シ殘餘アルトキハ其ノ殘額ヲ還付シ不足ヲ生シタルトキハ其ノ不足額ヲ追徴ス

第三十一條 不可抗力ニ因リ給水設備ヲ毀損滅失シタルトキト雖其ノ設備費ハ之ヲ減免セス

第三十二條 給水開始ノ日ヨリ三十日以内ニ給水設備ニ瑕疵アルコトヲ發見シ又ハ破損ヲ發見シタルトキハ町ニ於テ修繕ノ責ニ任ス但シ使用者ノ故意又ハ過失ニ因リ毀損シタルモノト認ムルトキ及請求者ニ於テ材料ヲ提供シ若ハ流末工事ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章 料金及徴收

第三十三條 給水使用料ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ徴收ス

一 専用栓ハ一月ノ基本料金ヲ左ノ通トシ超過水量一軒ニ付九錢ヲ加フ

(イ) 普通家事用 七 軒 迄 金 八 十 錢

(ロ) 官公署學校其ノ他之ニ準スルモノ及營業職業用 十 四 軒 迄 一 圓 五 十 錢

(ハ) 湯屋業用 百 二 十 軒 迄 十 圓

(ニ) 醸造業用 四 十 軒 迄 四 圓 五 十 錢

二 共用栓ハ一月ノ基本料金ヲ左ノ通トシ超過水量一軒ニ付九錢ヲ加フ

共 用 栓 五 軒ニ共用戸數ヲ乘シタル量迄

三 特別栓ハ一月ノ基本料金ヲ左ノ通トシ超過水量一軒ニ付二十二錢ヲ加フ

(イ) 噴水、瀧池、庭園其ノ他娛樂用 三 軒 迄 八 十 錢

(ロ) 工事其ノ他一時ノ使用
 (ハ) 其ノ他特別栓ニ依ル使用
 三 罎 迄 一圓五十錢
 四 消火栓ハ私設ノモノニシテ演習ノ爲使用スル場合ハ每十分ニ付一圓八十錢トス其ノ十分ニ達セサルモノハ十分ニ切上計算ス消火栓ノ封緘ヲ消火ノ目的ニ非スシテ破毀シ又ハ恣ニ消火以外ノ用途ニ使用シタルトキハ町ニ於テ認定シタル額トス

前項第一號乃至第三號ノ超過水量ハ一罎ニ滿タサルモノハ各其ノ割合ヲ以テ計算ス

第三十四條 第二十二條第三項ノ規定ニ依リ工事其ノ他一時用ノ給水設備ノ材料ヲ使用セシムル場合ハ一月給水設備材料費ノ二十分ノ一ニ相當スル使用料ヲ徵收ス其ノ一月ニ滿タサルモノハ一月トシテ計算ス

第三十五條 水道使用ヲ開始、中止又ハ廢止シタル月ノ使用料ノ基本水量及基本料金ハ開始ノ場合ニ在リテハ次ノ點檢ノトキ迄十五日未滿ナルトキハ半月分トシ十五日以上ナルトキハ一月分トシ中止又ハ廢止ノ場合ニ在リテハ前同點檢ノトキヨリ十五日未滿ナルトキハ半月分トシ十五日以上ナルトキハ一月分トシテ計算ス

第三十六條 水道使用ノ目的ヲ變更シタル月ノ使用料ノ基本水量及基本料金ハ各日割ヲ以テ計算ス

第三十七條 共用栓使用者ノ使用水量ハ同一量ト看做ス但シ組内ニ於テ使用水量ニ差等ヲ付スルノ協定ヲ爲スハ妨ナシ此ノ場合ニ在リテハ其ノ旨町長ニ届出ツヘシ

第三十八條 使用料ハ毎月之ヲ徵收ス
 一時使用ノモノ、使用ヲ休止又ハ廢止シタルモノ及逋脱シタル使用料ハ隨時之ヲ徵收ス

第三十九條 量水器ハ毎月之ヲ點檢ス
 給水使用料ハ前月點檢ノトキヨリ當月點檢ノトキ迄ノ使用水量ヲ當月分トシテ計算ス

量水器ニ異狀ヲ生シ使用水量不明ナルトキハ從來ノ使用水量ヲ參酌シテ町ニ於テ決定ス從前水道ヲ使用セサル者ナルトキハ町ノ認定ニ依ル

サル者ナルトキハ町ノ認定ニ依ル

量水器試驗ノ結果其ノ作用ニ差違百分ノ五以上アル場合當月分ノ使用料ハ前項ノ例ニ依リ之ヲ定ム

第四十條 第十六條ノ規定ニ依リ給水ヲ制限又ハ停止シ若ハ違背處分ニ依リ給水ノ停止ヲ爲シタルトキト雖使用料ハ之ヲ減免セス但シ第十六條ノ規定ニ依ル給水停止連續七日以上ニ亘ルトキハ使用料ヲ低減スルコトアルヘシ

第四十一條 手數料ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ徵收ス

- 一 給水設備ノ新設、増設、變更、移轉ノ請求 一栓ニ付五十錢
 - 二 給水ノ中止又ハ廢止ノ請求 一栓ニ付三十錢
 - 三 第二十二條第二項ニ依ル流末工事及其ノ材料ノ検査 一工事ノ検査一回ニ付五十錢
 - 四 共用栓ノ鑑札又ハ鍵ノ再交付 各一個ニ付三十錢
 - 五 量水器ノ試験ヲ請求シ其ノ結果差違百分ノ五以下ナルトキ 一個一回ニ付參圓
- 第四十二條 前條第一號乃至第四號ノ手數料ハ請求ノトキ之ヲ徵收シ第五號ノ手數料ハ試験ノ都度之ヲ徵收ス

手數料ノ納付後請求ヲ取消スモ手數料ハ之ヲ還付セス

第四十三條 慈善、救濟又ハ公益ノ爲ニスルモノ又ハ貧困者ニ對シテハ使用料又ハ手數料ヲ輕減シ若ハ免除スルコトヲ得

第四章 違背處分

第四十四條 給水設備ノ所有者、管理人、使用者ノ行爲ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ三十日以内給水ヲ停止シ五圓以下ノ過料ヲ科スルコトアルヘシ仍損害ヲ生セシメタルトキハ之ヲ賠償セシム

- 一 恣ニ流末裝置ヲ爲シ又ハ給水設備ノ移轉、變更、撤去又ハ加工シタルトキ

- 二 态ニ止水栓ヲ開閉シタルトキ
- 三 态ニ消火栓ヲ開キタルトキ
- 四 量水器ノ作用ヲ妨ケタルトキ
- 五 态ニ給水ヲ販賣又ハ分與シタルトキ
- 六 共用栓ノ鑑札、鍵ヲ貸與又ハ讓與シ若ハ之ヲ連繫セスシテ使用シタルトキ
- 七 态ニ給水設備ヲ種別ノ異ナリタル用途ニ使用シタルトキ
- 八 給水設備ノ修繕手續ヲ怠リ漏水ヲ放任シタルトキ
- 九 水道掛員ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ妨害シタルトキ
- 十 使用料又ハ手数料ノ逋脱ヲ圖リタルトキ
- 十一 前各號ノ外本條例ニ基キ規定シタル事項ニ違背シ若ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタルトキ

停水處分ハ専用栓及特別栓併用者ニ在リテハ其ノ全部ニ對シテ之ヲ執行ス
共用栓使用者ニ對シ停水處分ヲ爲ストキハ鑑札及鍵ヲ返納セシム

第四十五條 給水設備所有者、管理人又ハ水道使用者ニ非スシテ前條第一項第一號乃至第四號及第九號ニ該當スル者又ハ規定ノ手續ニ依ラスシテ水道ヲ使用シタル者ハ五圓以下ノ過料ニ處ス仍損害アルトキハ之ヲ賠償セシム

第四十六條 給水設備費又ハ使用料ヲ期限迄ニ納付セサルトキハ其ノ納入ヲ了スル迄給水ヲ停止スルコトアルヘシ

第四十七條 第四十四條ノ違背處分ヲ受ケタルモノニシテ其ノ違背行爲ヲ釐正シタルトキハ停水處分ノ執行ヲ猶豫輕減又ハ免除スルコトアルヘシ

第四十八條 本條例ノ違背行爲者ニシテ給水設備ノ所有者、管理人、使用者ノ家族、雇傭人、同居人ナルト

キハ其ノ行爲者ノ屬スル戸主、世帯主、雇主ヲシテ其ノ責ニ任セシム

附 則

第四十九條 本條例ハ告示ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十條 給水開始當初ニ在リテハ町會ノ議決ヲ經テ一定ノ期間内給水設備費及使用料ヲ減額スルコトヲ得

第五十一條 本條例施行ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

○電氣使用條例

電氣使用料條例 (粕壁町)

第一條 電氣ヲ使用セムトスル者ハ本條例ノ定ムル所ニ依リ工費及使用料ヲ納付スヘシ

第二條 電氣ノ使用ヲ申込ム者ハ町ノ承諾ヲ得テ左ノ布設工費ヲ前納スヘシ

電 燈

一燈ニ付 七十五錢

電 動 機

一基ニ付 十 圓

一馬力以上三馬力未満

一基ニ付 十 圓

三馬力以上四馬力未満

同 十五 圓

四馬力以上七馬力未満

同 二十五 圓

七馬力以上十馬力未満

同 三十五 圓

實 費

扇風機、電熱器等

第三條 電氣使用設備ノ移轉又ハ變更ヲ爲サムトスル者ハ左ノ工費ヲ前納スヘシ

一 電 燈

一燈ニ付 七十五錢

二 扇風機、電熱器等

屋内位置變更

承口一個ニ付

二 圓

廢止復活

同

一 圓

第四條 電力使用ニ要スル電動機、扇風機、電熱器等及其ノ附屬品、配電盤並傳導用諸機械ハ使用者ノ負擔トシ外部ニ裝置スル變壓器及送電ニ關スル諸機械並電動機試驗料ハ本町ノ負擔トス但シ本町ノ負擔ニ屬スルモノニシテ設備ニ多額ノ費用ヲ要スルモノハ其ノ都度之ヲ協定ス

電球ハ町ノ指定シタルモノノ外裝置スルヲ得ス

電球ハ最初ハ町ノ負擔トシ其ノ後ノ引換ハ使用者ノ負擔トス

室内電線延長一燈ニ付二十メートル以上又ハ紐線一メートル半以上ニ涉ルトキハ其ノ増加ニ對スル電線、紐線ノ代金ハ使用者ノ負擔トス

第五條 電氣事業管理規則第九條第十條ニ依リ送電停止又ハ使用ヲ取消サレタル場合ハ勿論之カ使用ヲ休止シ若ハ廢止シタル場合ト雖其ノ月分ノ使用料又ハ貸付料ノ全額ヲ徵收ス

第六條 電氣ノ使用ヲ廢止セムトスル者又ハ使用ヲ取消サレタル者ハ布設工事取除料金ヲ即納スヘシ其ノ料金額ハ第二條ノ規定ヲ準用ス

第七條 電氣使用料額左ノ如シ

一定額燈	消費電力	一ヶ月一個ニ付
燭	燭	燭
五 燭	七ワツト	三十七錢
十 燭	十二ワツト半	五十七錢
十六 燭	二十ワツト	七十九錢

二十四燭光	三十ワツト	一圓
三十二燭光	四十ワツト	一圓五十錢
五十燭光	六十ワツト	二圓
百燭光	百ワツト	四圓

二 從量燈 一燈當リ一ヶ月間使用電氣量

二「キロワット」時迄	一キロワット時ニ付	二十錢
二「キロワット」時超過分四「キロワット」時迄		十八錢
六「キロワット」時超過分十二「キロワット」時迄		十六錢
十八「キロワット」時超過分三十六「キロワット」時迄		十四錢
五十四「キロワット」時超過分		十二錢

從量燈一個當リ一ヶ月ノ使用料ハ三十錢ヲ最低使用料ト定メ電力使用料金之ニ達セサル場合又ハ全ク使用セサル場合ト雖同額ヲ徵收ス

三 臨時燈 一燭光一ワツト 一夜ニ付 四 厘

第七條ノ二 積算電力計ノ使用料左ノ如シ

計器ノ種別	一ヶ月一個ニ付
五「アンペア」用	三十錢
十「アンペア」用	四十錢
十五「アンペア」用	五十錢
二十「アンペア」用	六十錢